

上海 12月28日後発
本省 12月28日夜着

第[◎]六二〇號

往電第五六八號ニ關シ

中國法院ハ本二十八日發生事件犯人ニ對シ左ノ通り判決言
渡ヲ爲シタリ

王振聲、毛永虎共同正犯トシテ死刑

金道權殺人教唆竝ニ豫備罪トシテ懲役十三年
趙雲鴻殺人教唆罪トシテ懲役十二年
朱貴生及陳恩明殺人豫備罪トシテ懲役二年
王汪氏兇器隱匿罪トシテ懲役二年
張馬氏兇器隱匿罪トシテ懲役二年
支ヘ轉報シ南京ヘ轉電セリ

四 華北問題

1 一般問題

513

昭和11年1月6日

在中國武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

満州国と冀察政務委員会との基本協定締結に
関する大橋満州国外交部次長提案を宋哲元委
員長が原則賛成について

北平 1月6日夜発

本省 1月6日夜着

第[※]六號

滿發電報客年合第五八四號ニ關シ

四日來平ノ大橋外交部次長ハ五日宋哲元ト會見シ滿洲國政
府ト冀察政務委員會トノ間ニ滿發貴大臣宛電報客年第一〇
五八號末段ノ協定ノ締結方申入レタル處宋哲元ハ原則的賛
成ヲ與ヘタル由同次長ヨリ内話アリタリ宋哲元ノ眞意ハ遽
ニ測リ難キモ右不取敢

尙今後交渉開始ノ曉其ノ基礎トナルヘキ滿側試案三箇條ニ
付テハ當地陸軍武官ヨリ軍中央部ヘ打電シアルニ付軍側ヨ
リ御承知相成度シ追テ本問題ニ關スル本省ノ御方針本官心
得迄ニ御回示ヲ請フ

514

昭和11年1月8日

広田外務大臣より
在満州国南大使宛(電報)

満州国と冀察政務委員会との關係強化は日本側
關係方面が慎重検討して行うので大橋活動は右
に向けた空氣醸成にとどめるよう指導方訓令

本省 1月8日発

第[◎]七號(極秘)

北平發本大臣宛第六號ニ關シ

滿洲國ト北支政權トノ間ニ兩者關係ノ打開ヲ計ルカ如キ策
ヲ構スルコトハ場合ニ依リ我方北支問題解決促進策ノ一方
法トシテ考慮シ得ル所ナルモ交渉等ニ着手スヘキヤ否ヤ又

其ノ時期及内容等ハ各般ノ關係及將來ノ問題ヲモ考慮ニ入
レ外務、軍部、中央、出先及滿洲國側等ノ間ニ於テ緊密ナ
ル協調ヲ保チツツ(且ツ滿洲國側ニ付テハ我方外交指導權
ノ關係モアリ)慎重考慮ヲ加フルノ要アル次第ナルニ就テ
ハ大橋次長今回ノ北支訪問ハ在滿大使發本大臣宛第一〇五
八號ノ趣旨ヲ支那側ニ吹キ込ミ今後行フコトアルヘキ此ノ
種交渉等ノ空氣ヲ醸成スル丈ニ止メシメ此ノ際ハ成ル可ク
速ニ歸滿セシムル様滿洲國側指導方可然御配慮アリ度シ
本電軍側ト打合濟ミ

北平、支、南京、天津ニ轉電セリ

515 昭和11年1月8日 在中国武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

滿州国より冀察政務委員会への基本協定締結
提議に対する同委員会側回答振りについて

別電 昭和十一年一月八日発在中国武藤大使館一等
書記官より広田外務大臣宛第一三號
右協定案

本官發滿宛電報
第二號(別電)

滿洲國冀察政務委員會基本協定案

滿洲國政府及冀察政務委員會ハ世界ノ大勢ニ鑑ミ東亞民族
ノ友好的結合關係ヲ緊密ナラシメ以テ兩者人民ノ福祉ヲ増
進シ東洋道德ノ精華ヲ顯揚スルノ必要ナルヲ認メ茲ニ相互
平等互助互利ノ原則ニ基キ左ノ基本協定ヲ締結ス

第一條 兩者ハ防共及治安維持ニ付相互援助ノ原則ニ依リ
細目協定ヲ爲スコトヲ約ス

第二條 兩者ハ交通往來、通商貿易、金融其ノ他兩者人民
ノ生活ニ關スル諸問題ニ付相互援助ノ原則ニ依リ細目協定
ヲ爲スヘキコトヲ約ス

第三條 兩者ハ各自方領土内ニ於ケル地方人民ノ居住、營
業ニ付相互ニ便宜ヲ供與スヘキコトヲ約ス

第四條 兩者ハ兩者間ニ發生スヘキ諸問題ニ關スル交渉ヲ
圓滑ナラシムル爲新京及北京ニ代表者ヲ交換スヘキコトヲ
約ス

北平 1月8日夜発
本省 1月8日夜着

第一二號
本官發滿宛電報
第一號

大橋ヨリ神吉ヘ左ノ通り

八日冀察政府委員會外交委員會委員陳中孚ニ會見別電第二
號ノ協定案ヲ提出シタルニ陳ハ九日保定ヨリ歸來スヘキ宋
哲元ニ示シタル上返答スヘシト答ヘタルカ其ノ口吻ヨリ察
スルニ本協定ニ調印ヲスレハ南京トノ間ニ紛爭ヲ來シ冀察
政務委員會ノ動向ニ重大ナル轉機ヲ與フヘシト同時ニ宋ト
シテ衆人稠座ノ中ニテ明言セルコト(六日本官ト會見ノ際
宋ハ協定締結ニ異存無キ旨二度迄モ明言セリ)ヲ取消スコ
トモ困難ニテ本件ノ處分ニ付テハ相當苦慮シ居ル模様ナリ

(別電)

北平 1月8日夜発
本省 1月8日夜着

第一三號

516 昭和11年1月10日 在中国武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

滿州国を黙認する意味にて同国との非公式な基
本協定締結に異議なき旨宋哲元回答についで

北平 1月10日夜発
本省 1月10日夜着

第一六號
本官發滿宛電報
第三號

大橋ヨリ神吉ヘ

十日宋ト會見シタルニ宋ハ滿洲國ヲ默示的ニ承認スル意味
ニ於テ當方案ヲ内容トスル非公式ノ協定(暫行辦法)ヲ締結
スルコトニ異議ナク但シ日本側ノ眞意明瞭ナルニ至ラハ正
式協定ヲ結フモ宜シト答ヘタリ尙同人ハ察哈爾問題ニ付讓
歩ヲ爲セルハ之サヘ出來レハ冀東モ管掌シ日本側ノ全面的
支持ヲ得ルモノト確信シタル爲ナリ然ルニ其後各種ノ問題
起リ前途ノ見据ニ付懸念シ居ル旨繰返し述ヘタリ依テ本件
ニ付テハ當方ニ於テモ鹽ノ如キ具体的問題ニ付誠意ヲ示シ
右ト交換的ニ滿洲國ヲ正式ニ承認セシメ南京トノ手ヲ斷タ

シムルコト最良ノ方法カト愚考ス
尙本官ハ十日夜北平發濟南ニ向ヒ韓復榘ト會見ノ後天津經
由直ニ歸京ス

517 昭和11年1月10日

在滿州国南大使より
広田外務大臣宛(電報)

大橋次長の今次華北訪問は冀察政務委員会と
の関係強化に向けた空氣醸成にとどめるよう
指導する意向について

新京 1月10日後発
本省 1月11日前着

第一七號

貴電第七號ニ關シ

御來示ノ趣旨ハ本使ニ於テモ全然同感ニシテ今後共右方針
ニテ指導スルコト致度キ處外交部ニ於テモ貴電ノ趣旨ハ
充分承知シ居リ今次大橋次長ト北支首腦者トノ會談ニ當リ
テモ單ニ大橋個人ノ案ニ付先方ノ脈ヲ引キ漸次接觸ノ空氣
ヲ醸成スル程度ニ止マリ何等當館及軍等ト協議セル案ヲ携
行セル次第ニハアラサルニ付御含置キ相成度シ尙大橋ニ對

シテハ既ニ軍ヨリ此ノ際餘リ深入リセス成ルヘク早目ニ引
揚方電報セリ

518 昭和11年1月11日

在濟南西田総領事より
広田外務大臣宛(電報)

冀察政務委员会の現状など華北の政治情勢に
関する韓復榘内話について

付記 昭和十年十二月三十一日發在中國武藤大使館
一等書記官より広田外務大臣宛電報第四六四号
冀東防共自治政府の実情に関する殷汝耕政務
長官内話について

濟南 1月11日夜発
本省 1月11日夜着

第一號

八日韓主席ノ本官ヘノ内話要旨御參考迄左ノ通

(一)冀察政務委员会ハ職員ノ任命等中央ト直接關係アル形式
ニテ機能不充ナル感アルモ實際ノ機構ハ漸次中央ノ分
家トナル筈ニテ(從來ノ北平軍事分會及政務整理委员会
ノ如ク本、支店ノ關係ニアラス)自分等モ出來ル丈ケ之

ヲ守立テ援助シ行キ度キ考ニテ外交其ノ他各委員ノ顔觸

等モ漸次決定ヲ見ツツアリ陳中孚ノ外交委員ハ西南側ト
ノ關係ヲ密ニスル上ニテ宜敷カラント考ヘラル該委員會
ト冀東自治政府トノ合流問題ハ兩者ノ權限ニ相當大ナル
相違アリ行惱ミツツアル處最近又李守信等ノ察北六縣占
據問題ノ如キ日本軍ノ支持ナケレハ出來サルコトニ付一
般ニハ日本ノ眞意ニ對スル疑惑恐怖ノ念ニ驅ラレ居ル處
自分トシテハ東亞ノ大局ヨリ日支ノ提携ハ是非トモ必要
ナリト感シ之カ爲ニハ斯ル疑惑乃至恐怖心ヲ棄テ敢然ト
進ム要アリトシ右ノ趣旨ニテ人ニモ説得シ居ル次第ナル
カ日本側ニ於テモ斯ル誤解ニ陷ラシメサル様自重ヲ願度
キモノナリ

(二)率直ニ言ヘハ蔣介石カ今少シク早目ニ日本側ト誠意ヲ以

テ提携ヲ計リ中央ハ勿論各地方ニ於テモ日本側ト充分密
接ナル聯絡ヲ計リタラハ今日ノ如キ事態ニ至ラサリシニ
今行政院長トナリ自ラ責任ヲ以テ日支ノ提携ヲ計ラント
スルモ時期既ニ遅ク恐ラク其ノ可能性乏キ憾アリ只日本
側ニテ餘リニ事功ヲ急キ壓迫的態度ニ出テ支那側ヲシテ
利害得失ヲ顧ミス日本ニ對シ無用ノ反感ヲ抱カシメサル

様善處方ヲ希望ス

(三)馮玉祥、閻錫山カ軍事委員會副委員長ニ任命セラレタル
ハ例ヘハ茶碗ニ茶托ヲ附シタルカ如ク形式ヲ整ヘタルニ
過キス何等實權ヲ與ヘサルヘキモ必要ニ應シ蔣ハ右兩者
ヲ利用セントノ肚ナルモ餘リ役ニ立タサルヘシ云々(右
ニ付省政府秘書王子明ハ馮南京人ノ際ハ相當ノ隨員ヲ伴
ヒ行キタルモ蔣ハ實力アル閻、宋等ニハ相當ノ金ヲ出シ
タルモ馮ノ如キハ僅ニ月二、三萬元ノ棄扶持ニテ隨員等
モ失望シ既ニ一部ハ職ヲ求メテ宋哲元等ノ下ニ赴キタル
由ナリト語レリ)

支、滿、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

(付記)

北平 昭和10年12月31日夜発
本省 昭和10年12月31日夜着

第四六四號

冀東防共自治政府ノ實情ニ關シ殷汝耕カ二十九日清水ニ對
シ爲セル談話要旨御參考迄左ノ通り

一、委員會ヲ特ニ政府ト改稱シタルハ官民ノ觀望の態度ヲ清算シ當局ニ對スル信賴ノ念ヲ強化セシメ併セテ冀察政務委員會ト混同視セラルルヲ避ケントスルノ用意ニ出テタルモノナリ尙冀察政務委員會ノ態度曖昧ニシテ其ノ事態明カナラサル今日之ニ合流スルカ如キコトハ目下ノ所考慮シ居ラス

二、政府管轄區域内ノ財政ハ懸稅收入約三百萬元、舊省稅約三百萬元アリ之ヲ整理スレハ大体政費ヲ支辨スルニ差支ナク舊國稅ノ收入ハ關稅、鹽稅ヲ除クモ猶ホ五百萬元以上アリ之ヲ以テ地方開發ノ資ニ充ツル計畫ナリ尤モ國稅ニ關シテハ關稅及鹽稅ヲ除キ本會成立後直ニ其ノ徵稅機關ヲ接收シタルモ現在猶ホ實際ノ收入ヲ見ルニ至ラス今直ニ徵稅スルトキハ二重課稅トナル惧アルヲ以テ目下其ノ對策攻中ナリ

三、關稅ニハ暫ク手ヲ着ケス鹽稅ハ何レ冀察政務委員會側ト適當ニ話合ヲ爲シタル上處置シ度キ積リナルカ開灤ノ鑛產稅ハ其ノ本社カ天津ニアリ收稅機關タル冀[○]晋[○]察[○]綏[○]區統稅局カ北平ニアル關係上之カ接收ハ極メテ面倒ニテ目下攻中ナリ

519

昭和11年1月20日

広田外務大臣より
在中国有吉大使宛(電報)

「北支處理要綱」の概要について

付記一 昭和十一年一月十三日付、陸軍省作成

「北支處理要綱案」

二 昭和十一年一月十六日付東亜局第一課太田

(二郎)事務官より在南京須磨總領事宛書

右要綱案の作成経緯について

三 昭和十一年一月二十三日付、東亜局第一課作成

「陸軍省影佐中佐談要領」

本省 1月20日発

第一〇號

陸軍側ニ於テハ十七日天津、北平、新京及上海宛大要左記ノ如キ「北支處理要綱」ヲ電報セル趣ナリ右要綱全文郵報セリ

左記

一、徒ニ自治區域ノ擴大ニ焦慮スルコトナク徐ニ先ツ冀察二省及平津二市ノ自治ノ完成ヲ期スルコト
二、自治ノ程度ハ漸進的トシ急激ニ獨立的權限ノ獲得ヲ庶幾

四、財政ノ整理ニ付テハ天津軍ノ推薦ニテ浦山武[○]一ヲ顧問ニ招聘シ既ニ調査ヲ進メ居ルニ付半年後ニハ相當ノ成績ヲ擧ゲ得ル見込ナリ尤モ當分ハ種々ノ臨時費モ嵩ミ且ツ曩ニ省稅ノ豫徵行ハレ之カ追徵ヲ爲サル方針ナル爲相當遺繰ヲ爲ス必要アリ十二月末ニハ行政費約二十萬元不足トナリ天津方面ヨリ借款ヲ得テ切抜ケント努力シ居ル狀態ナリ

五、産業ノ開發ハ最初農業ニ重キヲ置キ前記財政ノ基礎固マルヲ俟チ第一ニ水利事業ニ着手スル方針ニテ其ノ具体案ニ付テハ既ニ天津軍司令部ニ之カ調整方依頼濟ナリ

六、北寧鐵路ノ我方區域内通過部分ニ關シテハ目下單ニ監視ノ態度ヲ執リ居ルノミニテ實際上ノ管理ヲ爲シ居ラス
七、不良ナル保安隊及保團^{衛隊}ハ漸次之ヲ整理スル方針ニテ最近灤縣ノ保衛團約二千五百名ヲ解散セリ

八、政府管理區域内ノ朝鮮人約千五百人ハ概ネ不正業ニ從事シ居リ治安ノ妨害トナルヲ以テ灤河ノ流域邊ニ水田ヲ耕作セシメ正業ニ就カシムル案ヲ考慮中ナルカ何レニスルモ日本側ノ取締ヲ希望スル次第ナリ

スルカ如キハ之ヲ避クルコト

三、滿洲國ト同様ノ獨立國家ヲ育成シ或ハ同國ノ延長ヲ顯現スルモノト認メラルルカ如キ施策ハ實施セサルコト

四、北支處理ハ飽ク迄内面的指導ヲ主旨トシ又經濟進出ニ對シテハ軍ハ主動ノ地位ニ立ツコトナク側面的ニ之ヲ指導スルコト

北平、天津、南京、滿ニ轉電シ北平ヨリ張家口ニ暗送セシメタリ

(付記二)

北支處理要綱案

昭和十一、一、一三

方針

北支處理ノ主眼ハ北支民衆ヲ中心トスル自治ノ完成ヲ援助シシテ其安居樂業ヲ得セシメ且日滿兩國トノ關係ヲ調整シ相互ノ福祉ヲ増進セシムルニアリ

之カ爲新政治機構ヲ支持シ之ヲ指導誘掖シテ其機能ノ強化擴充ヲ期ス

要綱

一、自治ノ區域ハ北支五省ヲ目途トスルモ徒ラニ地域ノ擴大

ニ焦慮スルコトナク第二項以下ノ要領ニ則リ徐ニ先ツ冀察二省及平津二市ノ自治ノ完成ヲ期シ爾他三省ヲシテ自ラ進ンテ之ニ合流セシムル如クスルモノトス

冀察政務委員會ニ對スル指導ハ當分宋哲元ヲ通シテ之ヲ行ヒ民衆ノ自治運動ニシテ公正妥當ナルモノハ之ヲ包容セシメツツ逐次其ノ實質的自治ヲ具現セシメ北支五省ノ自治ノ基礎ヲ確立ス

冀東自治政府ニ對シテハ冀察政務委員會ノ自治機能未タ充分ナラサル間其獨立性ヲ支持シ冀察ノ自治概ネ信賴スルニ至ラハ成ルヘク速ニ之ニ合流セシムルモノトス

ニ、自治ノ程度ハ成ル可ク擴汎ナル自由ヲ獲得セシムルヲ可トスルモ差當リ南京政權ヲシテ反日滿的政策ヲ遂行スルノ餘地ナカラシムル狀態ヲ目途トシテ之ヲ促進シ其他ハ漸進的ニ之ヲ行ヒ急激ニ獨立的權限ノ獲得ヲ庶幾スルカ如キハ之ヲ避クルモノトス

三、自治機能強化ニ關スル指導ハ財政經濟特ニ金融、軍事及一般民衆指導ニ重點ヲ指向シ且大局ヲ把握シ細部ハ努メテ之ヲ支那側ニ委シ自ラ實行ノ責ニ任セシム

特ニ指導ニ當リ滿洲國ト同様ノ獨立國家ヲ育成シ或ハ滿

洲國ノ延長ヲ顯現スルモノト認メラルルカ如キ施策ハ實施セサルモノトス從テ日本人顧問ハ政務委員會ノ各委員會内及第二十九軍内ニ限り且少數限度ニ止メ之等顧問其他公共事業產業開發等ニ要スル人的財的融通ハ已ムヲ得サルモノノ外ナルヘク日本内地ニ之ヲ求ム

經濟進出ハ民間資本ノ自由進出ニ據ルヲ本旨トシ且共存共榮ノ主義ヲ如實ニ具現スル如ク指導スルモノトス

四、對内蒙工作ハ依然從來ノ趣旨ニ基キ繼續スヘキコト固ヨリナルモ冀察政務委員會ノ自治強化及山西綏遠兩省ニ對スル自治擴大ノ爲ノ工作ノ進展ヲ阻害スルノ虞アル施策ハ當分ノ差控ヘ蒙人勢力ノ南漸ハ適宜之ニ制限ヲ加フルモノトス

之カ爲對内蒙工作ハ其範圍ヲ概シテ外長城線以北ニ限定シ且東部綏遠四蒙旗ノ地域ニ波及セシメサルモノトス

五、北支處理ハ支那駐屯軍司令官ノ任スル所ニシテ直接冀察冀東兩當局ヲ對象トシテ實施スルヲ本則トシ且飽ク迄内面的指導ヲ主旨トス又經濟進出ニ對シテハ軍ハ主動ノ地位ニ立ツコトナク側面的ニ之ヲ指導スルモノトス

但當分ノ間冀察政務委員會指導ノ爲一機關ヲ北平ニ置キ

支那駐屯軍司令官ノ區處(自治機構ノ指導並顧問ノ統制等)ヲ受ケシム

關東軍及在北支各機關ハ右工作ニ協力スルモノトス

其他在支各武官ハ右工作ニ策應シ特ニ大使館附武官及南京駐在武官ハ適時南京政權ニ對シ北支自治ノ必然性ヲ理解セシムルト共ニ自治權限六項目ノ承認ヲ強要シ少クモ自治ヲ妨害スルカ如キ策動ヲ禁遏セシムルモノトス

六、本處理要綱ノ實施ニ當リテハ前項各機關ハ適宜外務海軍各出先官憲ト密ニ連絡スルモノトス

(欄外記入)

本案ノ通決定セルニ付十七日軍ヨリ天津、北平、上海、新京宛電報セル由(陸滿第十六號)

(付記二)

「支那駐屯軍司令官ニ對スル指示」

一、本件「北支處理要綱案」ハ關東軍トノ關係ヲ考慮シ主トシテ天津軍司令官ニ宛テタル北支問題指導方針ニシテ(要綱五ノ第一行目等參照)外務對陸軍ノ關係ヲ云々スル

洲國ノ延長ヲ顯現スルモノト認メラルルカ如キ施策ハ實施セサルモノトス從テ日本人顧問ハ政務委員會ノ各委員會内及第二十九軍内ニ限り且少數限度ニ止メ之等顧問其他公共事業產業開發等ニ要スル人的財的融通ハ已ムヲ得サルモノノ外ナルヘク日本内地ニ之ヲ求ム

經濟進出ハ民間資本ノ自由進出ニ據ルヲ本旨トシ且共存共榮ノ主義ヲ如實ニ具現スル如ク指導スルモノトス

四、對内蒙工作ハ依然從來ノ趣旨ニ基キ繼續スヘキコト固ヨリナルモ冀察政務委員會ノ自治強化及山西綏遠兩省ニ對スル自治擴大ノ爲ノ工作ノ進展ヲ阻害スルノ虞アル施策ハ當分ノ差控ヘ蒙人勢力ノ南漸ハ適宜之ニ制限ヲ加フルモノトス

之カ爲對内蒙工作ハ其範圍ヲ概シテ外長城線以北ニ限定シ且東部綏遠四蒙旗ノ地域ニ波及セシメサルモノトス

五、北支處理ハ支那駐屯軍司令官ノ任スル所ニシテ直接冀察冀東兩當局ヲ對象トシテ實施スルヲ本則トシ且飽ク迄内面的指導ヲ主旨トス又經濟進出ニ對シテハ軍ハ主動ノ地位ニ立ツコトナク側面的ニ之ヲ指導スルモノトス

但當分ノ間冀察政務委員會指導ノ爲一機關ヲ北平ニ置キ

モノニハ非ス

一、私見ニ據レハ要綱ノ趣旨ハ大體ニ於テ穩當ト認ム、本件要綱案ハ豫テノ打合ニ依リ一月十五日影佐中佐ヨリ守島課長ニ内示越セリ(海軍側ニモ内示セル由)守島課長ニ於テ大臣、次官ノ披見ヲ得タリ。上司ニ於テモ大體可ナリト認メラレタルモノノ如キモ本件ハ主義上當方ニ於テ正式承認ヲ與フヘキ筋合ノモノニ非ルヲ以テ十六日守島課長ヨリ右趣旨ヲ以テ可然ク影佐ニ電話通報シ置ケリ

一、本件陸軍側ヨリ出先ニ電報ノ上ハ當省ヨリモ何分ノ儀電報スヘキモ右經緯貴官御參考迄以上ノ通り

一、別紙「要綱案」一部堀内書記官ニ御渡ヲ乞フ

昭和十一年一月十六日

太田記

須磨總領事殿

(欄外記入)

一月十六日「北支處理要綱案」托送ノ際「メモ」トシテ須磨總領事ニ手交セル説明書ナリ 太田

(付記三)

陸軍省影佐中佐談要領

(東亞一課)

十一、一、廿三、影佐中佐ノ上村事務官ニ對スル談要領左ノ通

北支政權ト軍トノ軍事協定ノ件

北支政權ト軍トノ軍事協定訂結問題ハ元來天津軍ノ發案ニ係リ(關東軍ノ發案ニ非ス)天津軍ヨリ關東軍ノ意向照會中ナルカ本件ニ就テハ陸軍省ニ於テモ目下慎重考慮中ナルニ就テハ外務省側ノ意向モ可成早目ニ承知シ度シ

天津軍稟申ノ計畫ハ早速送付スヘキモ軍トシテ右考案賛成ニ傾キ居ル理由ハ

(イ)宋哲元ハ帝國カ果シテ何ノ程度迄宋ヲ援助スルヤニ付疑惧ノ念ヲ抱キ居リ爲ニ南京側ニ對シテモ氣兼シ居ル模様ナルニ付宋ト軍トノ間ニ軍事協定ヲ訂結スルコトハ、宋ノ自信ヲ高メ北支自治ニ邁進セシムルコトトナルヘシ(帝國陸軍代表天津軍司令官ト北支支那軍代表宋哲元間ノ取極トス)

天津 2月4日後發

本省 2月5日前着

第二九號

宋哲元カ去月三十一日豫テ主要問題ノ相談相手タル齊燮元ヲ訪問セル際特ニ齊ト關係深キ孫潤宇モ同席セル由ニテ孫カ右ニ付極秘ノ含ヲ以テ永井ニ内話セル概要左ノ通

當日宋カ齊ニ打明ケタル所ニ依レハ宋ハ獨立自治ノ下心ハアルモ右ノ斷行ニハ相當不安ヲ感シ居レル由ニテ愈日本側ヨリ重壓ヲ受ケ獨立ノ已ムヲ得サル場合ニ立至ラハ宋ハ直ニ日本軍部ノ實力援助竝ニ右ニ依リ目的達成ノ場合ニ於テモ内政不干與等ノ確約ヲ責任アル文書ヲ以テ取付クル積リナリト語り尙語ヲ次テ

(一)日本中央ハ支那本土ニハ容易ニ出兵セサルヘシ

(二)宋獨立ノ場合南京ハ假令日本ノ出兵アルトモ列國ニ訴ヘ

勝敗ヲ度外視シ中央軍ヲ迅速ニ北上セシムヘシ

(三)二十九軍ハ到底中央軍打倒ノ實力無シ

(四)韓復榘ハ積極的ニ宋ト合作セサルヘシ(孫ハ一日韓ハ魯西巡閱ニ出掛ケタルカ右ハ實ハ韓トノ接洽ヲ熱望セル宋ノ請ヲ容レ宋ノ郷里樂陵ニテ宋ト密會スル爲ナリト附言

(ロ)我方トシテハ右軍事協定ヲ以テ内面指導ノ手掛リトナシ得ヘシ

(ハ)右軍事協定ハ將來北支政權ト滿洲國若ハ帝國トノ間ニ訂結セラルヘキ一般的取極交渉ノ絲口トナシ得ヘシ

尙本件協定ノ當事者ヲ軍トセス滿洲國ト冀察政權トノ間ノ軍事協定トスルコトハ日滿支間ノ軍事協定訂結乃至日滿支間ノ一般的協定訂結ノ基礎トモナリ、可ナリトノ意見ハアルモ此ノ際滿洲國ト北支トノ間ニ此ノ種協定ヲ訂結スルコトハ再ヒ關東軍ノ北支工作熱ヲ高ムルコトナリ面白カラサルノミナラス、過早ニ滿洲國ト冀察側トノ間ニ協定ヲ訂結スルコトハ、韓、閻等ノ自治運動參加ノ障害トナル虞モアリ、旁々此ノ際滿洲國ヲ引入ルルコトニハ不賛成ナリ云々

520 昭和11年2月4日

在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

宋哲元が独立自治実行を逡巡する理由に関する齊燮元内話について

セリ)

(ロ)滿洲國ハ勿論冀東政權ノ如キ程度ニテモ日本ノ内政干與ハ絕對御免ナリ

等舉ケ居リタルカ更ニ宋ノ話ニ依レハ同人カ根本的ニ不安ヲ感シ居レル點ハ假ニ今日日本側ノ責任者ヲ軍部トスルモ軍部關係當局ナルモノハ實ニ多數ニテ統一モ無く大別スルモ駐屯軍ト關東軍トニ分レ日常應接ニモ困リ居レル始末ニシテ從テ一部軍部ヨリ獨立ノ示唆ヲ受クルトスルモ輕々ニハ態度ヲ決スル譯ニハ行カサルヘシト述ヘタリ云々

521 昭和11年2月7日

在中国武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員會の陣容等を批判する湯爾和内話について

北平 2月7日夜發

本省 2月7日夜着

第五三號

湯爾和ハ六日當館ヲ來訪シ自分ハ私用ノ爲八日晚當地發朝鮮經由ニテ東京ニ直行シ一、二箇月滞在ノ豫定ナルカ其ノ

間ニ重光次官初メ舊友ヲモ訪ネ度キ積リナリト挨拶セルカ其ノ間同人カ清水ニ内話セル所左ノ通

冀察政權モ日本側ノ援助ニテ一先ツ成立ヲ見タルカ其ノ人物ノ配置ヲ見ルニ何レモ如何ハシキ人物ノミニテ世間ニテハ漢奸ト言フモ實ハ漢奸トシテノ價值スラナク自分ノ利益ノ爲ニハ何物ヲ犠牲ニ供スルモ惜マサル徒輩ニシテ當地方ノ知識階級ハ輕侮ノ念ヲ以テ之ヲ眺メ同時ニ日本カ何故ニ斯ル者ヲ援助スルヤ解釋ニ苦ミ居ル狀態ニテ彼ノ教育方面ニテ先ツ反對ノ聲ヲ掲ケ以テ學生運動ノ起リタルハ一面無理カラヌ點アリ元來軍閥上リノ者ニテハ教育分科會ノ操縦ハ仲々六ヶ敷ク最近冀察政務委員會ニ於テモ之ニ氣付キタリト見ヘ教育委員會ナルモノヲ設ケ當方面教育ノ最高機關タラシメントノ案ヲ立テ其ノ主席委員トシテ劉哲ヲ推シタル處之ヲ辭退シ代リニ自分(湯)ヲ推薦シタル由ニテ二、三日前冀察政務委員會ヨリ電報ヲ受ケタルカ自分ハ宋哲元ハ兎モ角其ノ周圍ニ居ル詰ラナキ人間等ト事ヲ共ニスルコトヲ潔シトセサル爲固ク之ヲ斷リタルカ再々督促サレテハ煩ハシキニ付之ヲ避クル爲幸ヒ日本留學中ノ長男ノ結婚問題アルニ託ケ日本ニ赴ク次第ナリ

折返シ回答アリ度シトノ旨申越セリ原文郵送
大臣、北平、天津ヘ轉電セリ

523 昭和11年2月14日 在中國武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

華北における日中經濟提携や冀東防共自治政
府の解消に関する宋哲元要望について

付記 昭和十一年三月十七日付、外務省作成

「磯谷武官報告要領」

北平 發
本省 2月14日夜着

第六一號(極秘)

宋哲元ハ天津ニ於テ舊止ヲ送り八日歸平シタルニ付本官往訪宋ト會談シタルカ宋ノ談話中御參考トナルヘキ點左ノ通
一 北支各省ハ從來國民黨政治ノ壓迫ヲ受ケ人民ノ苦痛甚シキヲ以テ自分ハ之ヲ改革シ地方ノ福利ヲ増進セント希望シ居リ此ノ目標ニ向ツテ北支各省ノ聯盟ヲ結成スルコトハ最望間敷キコトナルカ夫レニハ日支兩國ノ完全ナル了解ト提携ヲ必要トス然ルニ現在ノ狀態ニ於テハ北支一般

支、南京、天津ヘ轉電セリ

522 昭和11年2月10日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本側航空機の華北での任意飛行に対する外

交部抗議公文について

南京 2月10日後発
本省 2月10日夜着

第一〇六號

本官發支宛電報

第一〇九號

外交部ハ八日附覺書ヲ以テ日本飛行機ノ華北ニ於ケル任意飛行ニ關シテハ屢抗議ヲ提出セルモ未タ何等ノ回答ニ接セサル處最近各方面ノ報告ヲ綜合スルニ右不法飛行ハ却テ範圍擴大ノ事實アリ即チ一月九、十兩日徐州上空ヲ飛行、一月三十日倉永保、ネイカニ飛來シ又平津、察哈爾、平漢線一帶ハ殆ト日本飛行機ノ飛來ヲ見サル日ナク甚シキニ至ツテハ旅客郵便物ヲモ搭載セリ右等ハ支那政府ニ於テ斷シテ容認シ難キニ付之カ停止方至急御取計相成度シ尙何分ノ儀

民衆ハ日本ノ侵略ニ對シ危惧ノ念ヲ抱キ居リ一方日本側ハ支那當局カ一朝事變ノ際ハ抗日ニ寢返ルニアラスヤトノ疑念ヲ抱キ兩者ノ間ニ尙疎隔スル所アルヲ以テ先ツ之ヲ除去スル必要アリ

二、過日樂陵ニ於テ韓復榘ト會見シタルカ韓ハ北支政局安定ノ爲盡力スルコトニ付テハ素ヨリ贊成ニシテ相當固キ決心ヲ有シ居ルコトハ事實ナルモ一般ノ諒トスル方法ト且一般ノ支持ヲ受クル情勢ノ下ニ立タントスルモノノ如ク看取セラレタリ

三、冀察政務委員會モ漸次其ノ組織ヲ充實シ現在經濟、外交ノ二委員會ヲ組織シタルカ更ニ交通委員會ヲ組織シ河北省ノ道路及鐵道(殊ニ滄石鐵道)ノ建設事業ノ研究ニ着手スル計畫成リ而シテ右經濟建設ニハ相當ノ資金ヲ要シ右ハ財政ト關係アル處冀察ノ財政ニ關シテハ目下折角稅收ノ整理中ニテ關稅、鹽稅ハ殊ニ重要ナリ尙一般產業ノ開發ニ付テハ日本側ハ種々大袈裟ナル計畫ヤ形式ニ捉ハレ居ルモ自分ハ寧ロ日本ノ専門家、實際家カ來リ例ヘハ棉花事業、製鐵事業ト謂フカ如ク一々小口ヨリ片付ケテ行ク方カ實行ノ可能性アリト考ヘ居レリ

冀察政務委員會トシテ地方開發ニ關シ爲シ度キ仕事ハ多々アルモ先ツ民心ノ安定ヲ圖ルコトカ先決問題ナリ現在北支民衆ノ不安ハ前述ノ通り日本及支那ノ兩國相互ノ猜疑心ニ胚胎スルモノナルカ其ノ最障礙ヲ爲スハ冀東自治政府ノ存在ナリ例ヘハ劉桂堂ノ殘黨及李際春ノ舊部下カ最近千、二千ト群ヲ爲シテ冀東區ヨリ河北省ヘ流込ムカ如キハ誠ニ遺憾ニシテ冀東ハ宛然土匪ノ供給地タルノ感アリ之ヲ放置スルトキハ河北人民ノ不安ヲ除去スル能ハス産業開發等到底行ハレス從テ冀東自治政府ノ速ニ解消セシコトヲ希望スル次第ナリ

先般來ノ學生運動ハ最初黨部ノ陳立夫、陳果夫カ煽動シ後ニ至リ共產黨カ之ヲ利用スルニ至リタルモノニシテ北平ニ於テハ學生聯合會カ其ノ中心ナルヲ以テ二、三日來同聯合會ノ首謀者ヲ續々檢舉シツツアリ尙教育方面ノ事項ヲ處理セシムル爲冀察政務委員會内ニ教育委員會ヲ設置スル計畫ヲ立テ居ルモ其ノ内容ニ付テハ相當研究ノ餘地アルヲ以テ目下慎重考慮中ナリ

支、南京、天津ヘ轉電セリ

税制度等ニ關スル特殊手段ハ執ラサル見込ナリ

(イ)宋ハ武官ノ冀察委員會成績擧ラサルヲ指摘セルニ對シ日本側ニ於テモ宋ニ對シ一般人民ノ信望集ル様手配シ吳レ間敷ヤト述ヘ暗ニ冀東政府ノ如キ存在ハ早く撤銷方切望スル旨ヲ述ヘタルニヨリ武官ハ右ハ本末顛倒ニテ事實上ヨキ政治ヲ施シテコソ信望湧ク譯ニテ此ノ點ハ特ニ注意シ進ンテ積極的行政改善ヲ行フノ要アリト答ヘタル趣ナリ

(ニ)宋哲元カ閻錫山、韓復榘ヲ率ユヘシトスル觀測及計劃ハ畫餅ニ歸スルノ他無ク宋及所謂委員會ハ遠カラス解消セラルルノ他ナカルヘク自然韓復榘ノ方ニ委員會カ合流シ行ク様ノ結果トナルヘシト觀測セラル(此ノ點ハ全然武官ノ私見ナリト云ヘリ)

(三)共產黨ノ山西侵入ニ關スル真相ハ和知武官等ノ山西機關カ確メ居ル所ニテハ何等憂慮ニ當ラサル如ク共產黨ハ約三千ニ過キサル體ニテ之ヲ徒ニ大キク宣傳シ且ツ山西軍丈ケニテハ如何トモスヘカラサルヘシト吹聴スルニ於テハ却テ支那側ニ乗セラルル事トナリ中央軍ノ華北進出ヲ誘導スルコトナルヘキニ付大イニ注意ヲ要ス

(付記)

磯谷武官報告要領

(昭和、十一、三、十七)

三月十六日磯谷武官ノ大使及須磨總領事ニ對スル談話要領(宋哲元ハ當初傳ヘラレタル如キ意氣モ理想モ無ク天津市長ニシテ財政委員會委員長ヲ兼ネシメ居ル蕭振瀛ニ操ラレ然モ蕭ハ陳覺生ヲ交通委員會委員長トスルコトニ反對シ居ル等先ツ宋ヨリモ蕭カ實權ヲ振リ居ル如キ狀態ナリ特ニ宋哲元カ其ノ信用シ居ル陳仲孚(外交委員會委員長)ノ通譯ニテ同武官ニ語レル處左ノ通り

(イ)南京トノ關係ヲ如何ニスヘキヤトノ質問ニ對シ宋ハ南京トハ離レサル積リナリト明言シ特ニ南京カ無理ナル註文ニテモ出サハ兎モ角一切其ノ命令ハ原則トシテ聽ク答ナリト答ヘタルカ從來何人ニ對シテモ宋ハ此種ノ回答ヲ爲シタル事ナク常ニ南京トハ漸次隔離スル見込ナリト語り來レル趣ナリ(事實上宋ヨリモ蕭ノ方ガ事巨細ト無ク南京側ニ聯絡シ居ル模様ナリ)

(ロ)財政部ヨリ月額百萬元ヲ別ニ支出スヘキニ付關收、鹽收等ニハ手ヲ付ケサル様ニサレタシトノ希望モアリ關

冀東政府ハ解消スルノ他無ク結局近ク冀察委員會ニ合流セシムルコトニ天津軍ニ於テモ考ヘ居ル様子ニシテ其ノ上ハ殷汝耕ヲ某方面ニ亡命セシムル形勢ナリ

(五)松室少將ハ實ハ土肥原中將ノ後任ト云フ譯ニ非ス實ハ天津軍ノ區處ヲ受クル北平特務機關ヲ開設シ宋哲元ヲ指導セントスル趣ナリ

(六)天津軍ノ擴大ハ嚴格ニ對露問題ニ備フル諒解ノ下ニ之ヲ行ヒ其ノ駐在地點ハ團匪議定書地域ヲ出テサルコトニ決定シ居ル趣ナリ

(七)結局冀察委員會成立後華北行政等ニ何等ノ新味無ク北寧鐵路局長陳覺生ノ如キカ平津地方ヲ旅行スル日本大官等ニ特別列車及樂隊ヲ提供スル位カ關ノ山ナルカ如シ

524

昭和11年2月29日

在中国武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

山西省における共産党勢力の動向に関する宋哲元内話について

付記

昭和十一年三月二十六日付、在中国萩原(徹)大使館三等書記官作成

北平 2月29日後発

本省 2月29日夜着

第八四號

二十九日西總領事宋哲元ニ面會ノ際宋ハ山西ノ共匪並ニ當地ノ共産黨ニ關シ左ノ通り語レル趣ナリ

山西省西部ニ侵入セル共匪ハ約四、五千人ノ模様ナルカ今後續々侵入シ來ルヤ否ヤハ黃河ノ結氷狀態如何ニ依ル次第ナリ現在山西軍出動シテ之カ討伐ニ當リ居ルモ山西軍ハ其ノ兵力少ク(山西ニ於ケル一箇師ノ兵ハ三、四千人ニ過キス)戰鬪力ニ於テモ稍々缺クル所アルヲ以テ綏遠ヨリ一旅、包頭ヨリ一旅ヲ増援ノ爲急派中ナリ

河北ニ於ケル共産黨ハ元來北平、宣化、石家莊及大名ノ四箇所ヲ根據地トシテ活動スル計畫ヲ樹テ居リシカ最近北平ニ於テハ續々之カ關係者ヲ逮捕處分シツツアル爲活動意ノ如クナラス石家莊及宣化方面ニ於テモ其ノ活動自由ナラサル爲最近ハ專ラ大名附近ヲ地盤トシテ活動セントスル計畫ヲ有スルモノノ如ク當方ニ於テモ之ニ對シ充分警戒ヲ加ヘツツアリ

ニ默約アリヤ否ヤヲトシ得ヘシト觀察シ居ル旨ヲ述ヘ居レリ

磯谷武官カ山西ノ共匪ヲ誇大ニ宣傳スルハ中央軍カ山西ニ進入スル口實ヲ與フルニ過キスト見居ル旨ヲ述ヘタルニ池田參謀ハ之ニ同感ナル旨ヲ答ヘ尙北支駐屯軍充實完了後日本國內ノ輿論ヲ動カシテ共匪ニ對シ實力ヲ發動スルコトトモナラハ大イニ宣傳ノ價值アルモ充實完了セサレハ手ヲ出ス譯ニモ行カサルニ付餘リ宣傳ヲ行フコトハ考ヘモノナリト考ヘ居レリト述ヘ居タリ

ニ、冀察政權

天津軍トシテハ宋哲元等ニ對スル批評ハ兎モ角之ヲ盛リ立テ行カムトスルニ一致シ居ルヤニ見受ケラレタルカ軍ノ組織、用兵等ヲ擔當スル池田參謀カ天津軍充實ヲ重要視シ其ノ完了後ニ非サレハ積極的工作ヲナシ得ストナスニ反シ經濟方面ヲ擔當スル林中佐ハ今日迄ハ土肥原中將ノ交送天津軍首腦部ノ移動等ノ爲一時工作ノ活潑ヲ缺キタルモ最早ヤソソロ積極的工作ニ移ルヘキ時期ナリトノ口吻ナリキ而テ最近關東軍ヨリ坂垣^俊副長來津シ關東軍側ノ意嚮ヲ傳フル所アリ其ノ結果天津軍側ノ態度積極的

支、南京、天津、青島、濟南、張家口、滿ヘ轉電セリ

(付記)

天津軍池田參謀林中佐等トノ會談要旨

(昭和十一年三月二十六日 萩原書記官記)

一、山西共匪

山西ニ侵入セル共匪ノ實情ニ關シ池田參謀ヨリ天津軍側情報ニ依リ説明ヲ受ケタルカ清水通譯官ノ報告等ト大差ナシ

尙同參謀ノ談ニ依レハ宋哲元ハ最近中央カ共匪ト通謀シ居ルノ確證ヲ得タリト稱シ居リ(蔣介石ト張學良トノ間ニ往復セラレタル電報ラシク學良カ共匪ト或種ノ交渉アルコトヲ知り得ルモノナルカ蔣カ直接共産黨首腦部ト聯絡アルコトヲ示スモノニハアラサルカ如シ)宋ハ之カ爲相當從來ノ態度ヲ代ヘ防共ニ付我方ノ協力ヲ求ムル態度ヲ示シ來レル由又同參謀ハ中央軍カ共産黨ト通謀シ居ルトセハ山西攻略ノ爲ニシテ河北迄進出セハ日本軍トノ間ニ紛糾ヲ生スヘキコトハ充分承知シ居ル筈ナルヲ以テ今後共匪カ河北迄進出スルヤ否ヤニ依リ中央ト共産黨ノ間

トナリツツアリト見ル向アリ(矢野ノ内報等參照)林中佐等ニ夫レトナク確メタル處關東軍ヨリ意見ノ開陳アリタルハ事實ナルカ如キモ其ノ結果早急ニ冀察強化工作ニ動キ出スヤハ明白ナラス唯北平特務機關ノ成立、天津軍首腦部ノ移動終了等ト共ニ其ノ工作ヲ漸次積極的ナラシメ天津軍充實ヲ待タントスルモノナルヤニ觀測セラレタリ(註)關東軍ヨリ天津軍ニ開示セル意見ハ其ノ後有田大正ニ關スル意見」ヲ主トスルモノナルヘク(池田中佐モ右「意見」ト類似ノ意見ヲ述ヘ居タリ)尤モ右「意見」ハ相當抽象的ニシテ差當リノ具體的措施ニ關スルモノニハ非ス如何ナル具體的打合せアリタルヤハ疑問ナリ

三、經濟的工作

(イ)經濟統制

永井副領事ノ談ニ依レハ當初軍側ハ北支ニ於テモ滿洲國流ノ統制經濟必要ナリト考ヘ居タルカ總領事館側ノ説得等モアリ漸次滿洲ト北支ノ相異等ヲ認識スルニ至レリトノ事ナリシカ林中佐モ或種公益企業ノ國營(冀

察政權(合辦)必要ナルモ他ノ企業ハ概ネ自由企業トシ邦人ノ進出ヲ誘導スルコト然ルヘシト考フル旨ヲ述ヘ居タリ

(ロ)幣制

林中佐ハ中央銀行ノ設立ダケハ成ルヘク早ク之ヲ行ヒ度ク目下鋭意準備中ナルモ幣制ノ獨立迄ニハ相當ノ時間ヲ要スヘシトノ趣旨ヲ述ヘ居タリ

(ハ)海關接收

林中佐ハ海關接收ハ中央銀行ノ設立等ヲ終リタル後トスルコト然ルヘク必スシモ天津軍充實完了ヲ待ツ要ナキモ其ノ前後トナルヘク目下研究中ナリト述ヘ居タリ尙種々質問ノ結果ヲ綜合スルニ滿洲ニ於ケルカ如ク關稅收入ヲ全部北支政權ニ歸セシメ(光モ外債擔保部分ハ返却ス)海關ノ人事及行政モ中央ト切り離シ稅率モ自由ニ修正シ得ルカ如キ完全ナル接收ヲ終局ノ目的トスルモノナルモ其ノ手順等ニ付キテハ未タ成案ナキカ如ク外國側トノ紛糾ヲ避ケムトスル意嚮ハ充分之ヲ有スルモ關稅收入(外債擔保部分ヲ除ク)ヲ得ルノミニテ行政稅率等ニ手ヲ付ケサルカ如キ方法ニテハ不満足ト

持ハ昨年ニ比シ明カニ一變シ居リ徐永昌ノ如キモ客年六月面會ノ際ハ國民政府及國民黨ハ小[○]孩子ノ集ニテ到底事ヲ共ニスルニ足ラスト嘲リ盛ニ山西ノ自主的態度ヲ誇リタルカ今回ハ態度ガラリト變リ日本カ今猶國民黨等ヲ彼是言フハ認識不足ノ甚シキモノニテ蔣介石モ國民黨ハ眼中ニ置カス徹底的ニ日本ト提携スル決心ノ下ニ責任ノ地位ニ乗出シ來リタルモノナルヲ以テ此ノ際日本トシテハ蔣ト大イニ交渉ヲ進メテ可ナルヘシ等盛ニ蔣ノ爲ニ辯解ヲ試ミ朱綬光ノ如キモ蔣介石ハ總テ閻錫山ノ意見ヲ容レ中央ノ陣容ヲ整ヘ政治ニ當リ居ルモノナリ等ト語リ

明カニ南京ト山西トノ關係ノ密接ナルコトヲ仄シ之ニ反シ冀察政務委員會ノ如キハ之ヲ問題ニセス宋哲元等ヲ話題ニ供スルモ唯苦笑スルノミニテ相手ニスル者ナク山西ト冀察政權トノ合作問題ノ如キハ眞面目ニ取合フ者ナキ狀態ナリ又(脱?)ニ對シテハ從來ニ比シ著(シク)警戒スル氣配アリ現ニ太原駐在ノ武官、外務省留學生其ノ他邦人ニ對シテハ保護ト稱シテ尾行ヲ附シ支那人殆ト寄付カサル狀態ナリ右山西カ夙ニ南京政府ヨリ懷柔セラレ居ル爲南京反對ノ色彩ヲ有スル冀察政權ト成ルヘク遠サカラントスルニ至リタ

考ヘ居ルモノノ如シ

(ニ)密輸

稅收稅率及密輸ノ關係ニ付キテハ正確ナル認識ヲ有セサルモ密輸ハ南京政府ヲ苦シメル手段トシテヨリモ寧ロ低關稅政策ヲ誘致スル手段トシテ觀念シ居ルカ如ク密輸ノ不利益モ認メ北支政權カ關稅ヲ接收シ稅率ヲ低下セル上ハ密輸ハ斷然取締ル積リナリト言ヒ居タリ

525

昭和11年3月15日

在中国武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

國民政府中央および冀察政務委員會に對する
山西省当局者の動向につき報告

北平 3月15日後発
本省 3月16日前着

第二一號

中央及冀察政權ニ對スル山西省ノ動向

山西省當局者ハ何レモ口ヲ揃ヘテ日支兩國ノ關係ハ兩國中央當局カ根本的ニ話合ヒ全般的ノ調整ヲ爲スニアラサレハ眞ノ好轉ハ期待シ難シト語リ一般人連ノ南京ニ對スル氣

ルモノカ或ハ德王ノ獨立、李守信軍ノ進出、第二十九軍ノ華北進出等ニ依リ山西省自身脅威ヲ感シ南京ニ縋リ付カントスルニ至リタルモノカ明カナラサルモ孰レニスルモ今次中央軍入晋ノ經緯等ニ鑑ミ南京側ト相當ノ了解ヲ有スルコトハ疑ナク而シテ右ハ一昨年ノ蔣介石ノ山西訪問ニ次テ昨年ノ閻錫山ノ南京訪問ニ依リ充分打合ハセタル結果ニ基クモノニシテ偶々今次ノ共匪ノ侵入ニ依リ表面化シタルモノト推セラルル節アリ從テ山西ト中央トノ合作ハ相當根強キ基礎ヲ有シ此ノ情勢ヲ以テ進ムニ於テハ山西ハ南京勢力ノ一延長トシテ冀察政權ニ對スル西北ノ防波堤タルノ姿ヲ現スニ至ルモノト觀察セラル

526

昭和11年3月26日

在中国武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

防共を高唱した伝單を冀察政務委員會散布に

ついて

付記一 昭和十一年三月三十日付

支那駐屯軍と冀察政務委員會との間で締結された防共協定

二 昭和十一年三月三十一日付
右防共協定細目

三 昭和十一年三月、陸軍省作成
「北支防共軍事協定締結ニ關スル件」

北平 3月26日後発
本省 3月26日夜着

第一四一號

冀察政務委員會ニ於テハ防共工作ノ第一步トシテ三月八日
宋委員長民衆ニ告クルノ書及河北省政府民衆ニ告クルノ書
ト題スル二種ノ傳單ヲ作成シテ各方面ニ撒布シ共匪ハ甘言
ヲ以テ民衆ヲ欺キ殺人放火ヲ恣ニシ外國人ノ助力ヲ得テ支
那國民ノ膏血ヲ搾取シ支那ヲシテ今日ノ如キ窮乏ノ狀態ニ
陥ラシメタルモノナルヲ以テ我同胞ハ一致協力シテ之ヲ打
倒スヘシトノ趣旨ヲ宣傳シタルカ政務委員會ニ於テハ更ニ
二十五日附ヲ以テ管下各縣長ニ宛テ山西ノ共匪ハ益々猖獗
ヲ見ルニ至リ冀察兩省ニモ是等匪徒潛入シテ煽動スルナキ
ヲ保シ難キニ付一般民衆ニ對シ其ノ誘惑ヲ受ケサル樣諭ス
ト共ニ隨時共匪ノ罪惡ヲ指摘シテ一般ニ知悉セシムル方法
ヲ講スヘキ旨訓令ヲ發セリ

之ガ爲閣ト防共協定ヲ結ブコトニ努ム

閣ニシテ之ヲ肯セザルトキハ適時防共獨自ノ立場ニ於
テ山西ニ兵ヲ進メ共匪ヲ消滅ス

2 共產運動ニ關スル情報ハ絶ヘス日本軍部ト交換シ且防
共行爲ニ關シテハ日本軍部ト緊密ナル連絡ヲ保持ス

3 防共ヲ貫徹スル爲山東側ト協同シ必要ニ應ジ之ト防共
協定ヲ結フコトニ努ム

4 從來ノ西南トノ協定ヲ益々強化擴充ス

5 共產主義ハ人類共同ノ敵ニシテ東洋平和ヲ攪亂スルモ
ノナルヲ以テ絶對之ヲ排撃スルノ態度ヲ天下ニ宣示ス

6 共產黨、藍衣社等及之ニ類スル團體結社ヲ彈壓解消シ
黨部ハ之ヲ存在セシメズ

7 日本トノ防共協同動作ヲ取ル爲ニハ日本トノ精神の融
合ノ必要ナルニ鑑ミ此ノ際日本トノ提携親善の行爲ニ
徹底シ排日の團體及言論ヲ彈壓シ排日の教材ヲ一掃シ
且軍隊及官民ニ對シテハ日支提携親善ノ主旨ヲ以テ訓
導ス

ニ日本側ハ左記事項ヲ實行ス

1 日本側ハ冀察側ノ防共ノ爲必要ナル兵力ノ増加ヲ認メ

支、在支各總領事、張家口、鄭州、滿へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

(付記一)

防共協定

日本軍及冀察中國軍ハ絶對ニ共產主義ヲ排除スルノ精神ニ
基キ相協同シテ一切ノ共產主義的行爲ノ防遏ニ從事スルコ
トヲ協定ス

本協定ノ細目ニ關シテハ別ニ之ヲ協定ス

本協定ハ日本文ヲ以テ正文ト爲ス

昭和十一年三月三十日

支那駐屯軍司令官 多田 駿 印
冀察綏靖主任 宋 哲元 印

(付記二)

防共協定細目

防共協定ニ基キ細目ヲ協定スルコト次ノ如シ

一、冀察側ハ左記事項ヲ實行ス

1 閭錫山ト協同シテ共匪ノ掃蕩ニ從事ス

且各種兵器彈藥及飛行機ヲ廉價ニテ讓渡ス但シ飛行機
ハ必要ニ應ジ之ヲ貸與ス

2 冀察側ノ防共ニ關スル行爲ハ絶對ニ之ヲ支持ス

3 共產運動ニ關スル情報ハ絶ヘズ冀察側ト交換シ且冀察
側ノ防共行爲ニ關スル資料ヲ提供ス

4 晉綏、山東及西南トノ提携協同ニ對シテハ日本側ハ之
ヲ贊助シ且北支ニ對スル中央軍ノ進出ヲ防遏スル冀察
側ノ行爲ニ對シテモ絶對ニ支持ス

三、本協定ハ雙方之ヲ發表セズ

四、本協定ハ日本文ヲ以テ正文トス

昭和十一年三月三十一日

(付記三)

* 北支防共軍事協定締結ニ關スル件

北支ノ情勢ニ鑑ミ支那駐屯軍司令官ヲシテ北支地方自治政
權軍事責任者トノ間ニ日本軍ト中國軍トハ協同シテ共產主
義的行爲ヲ防遏スルコトニ關シ所要ノ軍事的協定ヲ締結セ
シムルコトニ致シ度

説明

最近北支那ニ於ケル共產主義ノ脅威逐次擴大シ其ノ共產軍ハ甘肅及陝西ニ侵入シ山西、綏遠ヲ窺ヒツツアルノ情勢ニ鑑ミ速ニ之カ防遏ノ策ヲ講スルハ同地方ノ治安ヲ維持シ延テハ滿洲國保全ノ爲ニ我國トシテ當然爲スヘキ責務ニシテ三省協定亦之ヲ要求スル所ナリ

然レトモ北支政權ノ現情未タ帝國政府ト此種協定ヲ締結スルノ域ニ達シアラサルヲ以テ一般協定ノ先驅トシテ同地方方ノ帝國臣民保護ノ任務ヲ有スル支那駐屯軍司令官ヲシテ同地方政權ノ軍事主任者トノ間ニ協同シテ共產主義的行動ノ防遏ニ從事スル旨ノ軍事的協定ヲ締結セシムルコト此際必要ナリ(尤モ右締結ニ強制力ヲ用フルハ不可也)尙本協定ハ祕密ノ取扱トナシ徒ニ第三國ノ猜疑ヲ受ケサル事ニ關シテハ最善ノ注意ヲ拂フヲ要シ且協定實行ニ方リ軍事的行動ヲ執ラントスル場合ニハ豫メ中央ノ認可ヲ受ケシムルヤ勿論ナリ

防共軍事協定案

527

昭和11年3月31日

在中国武藤大使館一等書記官より
 広田外務大臣宛(電報)

ニ共產軍ノ主力ハ既ニ同蒲鐵路ヲ越エ太行山脈中ニ侵入シタルカ他ノ一枝隊ハ文永縣ヨリ呂梁山脈ニ沿ヒ北上シ寧樂縣、忻縣ヲ經テ五臺方面ニ向ヒツツアリ之カ爲河邊村ニアル閭ノ家族モ全部同地ヲ引揚ケ其ノ一部ハ家財道具四十數個ヲ携ヘ北平ニ避難シ來レル始末ニテ閭ノ没落モ遠カラサルヘシ

三⁽²⁾ 南京政府ハ共匪ノ山西侵入ヲ以テ山西省乗取ノ好機會ト看做シ内心喜ヒ居ル模様ナルカ是亦一大錯誤ナリ蓋シ太行山脈中ニ入レル共產軍ハ此處ニ鞏固ナル地盤ヲ築クニ至ルヘク其ノ地勢ヨリ見ルモ五、六萬位ノ中央軍ニテハ討伐不可能ニシテ永ク中央ヲ苦ムル一敵國ヲ形勢スルノ惧アレハナリ中央ハ山西省ニ對シ軍費補助トシテ三箇月前ヨリ月額三十萬元ヲ支給シツツアルカ今回南京ヨリ自分ト同車ニテ北上セル中央ノ代表者ハ山西ニ交付スル共匪討伐費トシテ二百萬元ヲ携ヘ來レリ(中央ヨリ山西ニ對スル討伐費補助ニ付過日太原ニ出張セル朝日特派員園田カ朱綬光ニ質シタル處朱ハ再三中央ニ要求シタル結果二十六日少額ノ補助金ヲ送付シ來レリト語りタル趣ナリ)四⁽³⁾ 前記ノ通り共產軍カ山西東南部ヲ占據シテ居据ハルコト

共產勢力の山西省進出に伴い平津方面でも共產黨の活動が活発化していることを懸念する
 何澄内話について

北平 3月31日後発
 本省 3月31日夜着

第一五三號

最近南方旅行ヲ終リ歸平セル何澄ハ三十日清水ヲ訪問左ノ通り内話セル趣ナリ同人ハ山西人ナルカ目下不遇ノ地位ニアル關係上其ノ見解ニハ全幅ノ信ハ置キ難キモ何等御參考迄

一山西省カ今日ノ如ク共產軍ニ蹂躪セラルルニ至レルコトハ吾々ノ夙ニ豫見セル所ナリ閻錫山ノ施設ハ全ク自己ノ利益本位ニシテ所謂建設計畫ノ如キモ要スルニ人民搾取ノ絡繰ニ過キス一般省民ハ税金ノ過重ニ苦ミ内心甚シク閻ヲ怨ミ居ルヲ以テ共產軍ノ侵入ニ對シテハ寧ロ之ヲ歡迎スルノ風サヘアリ一方軍隊ノ將校ハ阿片ニノミ耽溺シ兵卒ハ從來兵耕政策ニ用ヒラレシ爲軍事的教練ヲ缺キ到底實戰ニ適セサルヲ以テ共匪討伐ノ困難ナルハ當然ノ次第ナリ

トナレハ北支各方面ニ潜在スル共產黨ハ之ヲ中心トシテ一齊ニ蜂起スルニ至ルヘク河北南部、河南北部ハ特ニ危険ナルカ冀察政權ノ現狀ニテハ果シテ有效ナル防止策ヲ建テ得ルヤ否ヤ覺束ナキ次第ナリ現ニ北平、天津ノ共產黨ノ如キモ何應欽時代ニハ屏息シ居リシカ現在ハ官憲ノ無能ナルニ乘シ極メテ活潑ニ動キツツアリ今ノ中ニ對策ヲ講セサレハ北支ノ變亂憂フヘキモノアリ

支、南京、天津、青島、濟南、張家口、滿ハ轉電セリ

528

昭和11年4月11日

在中国武藤大使館一等書記官より
 有田外務大臣宛(電報)

山西省内防共問題等に関する今井武官と閻錫山同省主席との会谈内容報告

北平 4月11日夜発
 本省 4月11日夜着

第一八〇號(極秘)

今井武官ハ九日太原ニ赴キ十日閻錫山ニ面會(賈秘書長及朱參謀長同席)意見ヲ交換シタルカ右會談ノ内容ニ付同武官ヨリ内報スル所左ノ通

一、武官ヨリ山西省ノ對共產軍並ニ對中央軍關係ノ見透ニ付
質問セルニ對シ閻ハ共產軍ハ最早心配ノ要無ク中央軍モ
何レ撤退スヘケレハ此ノ點ハ日本側ニテモ餘リ心配セサ
ル様願度シト答ヘタルニ付武官ヨリ洛川協定(客年十二
月共產軍「ソビエツト」東北軍及中央軍ノ代表カ陝西省
洛川ニ會シ陝西、甘肅ハ東北軍ニ、綏遠方面ハ共產軍ニ
又山西ハ中央軍トスル地盤協定ヲ爲シタリト傳ヘラルル
モノ)ヲ引用シ事態ノ容易ナラサル點ヲ指摘シタルニ閻
ハ斯ル協定ハ有り得ヘカラサルコトナリト一應打消シタ
ルモ武官ヨリ現在ノ情況ハ之ヲ裏書シ居ルニアラスヤト
突込ミタルニ閻モ多少困惑ノ風ニ見受ケラレタリ

二、武官ヨリ日滿支合作ノ下ニ防共ニ從フハ天下ノ大勢ニシ
テ之ニ從フモノハ榮エ之ニ逆フモノハ亡フヘシ宋哲元ハ
貴下(閻)ヨリ見レハ後輩微力ノモノナランモ右大勢ヲ察
知シ之ニ順應セントシツツアリ貴下ニ於テモ山東、河北
方面ト聯絡スル爲有力ナル代表ヲ派シ右大勢ヲ觀察セシ
メテハ如何ト説キタルニ閻ハ日滿支合作ノ下ニ防共ニ從
フコトハ異議無ク又代表派遣ニ付テモ考慮スヘシト答ヘ
稍動キ掛ケタル風ニ見エタリ

兩派ノ暗闘激化スルニ至リタリ親日派ト目スヘキハ蕭振瀛
以下各文官及劉汝明(暫編第二師長等ニシテ反日派ト目ス
ヘキ者ハ張自忠(第三十八師長趙登禹(河北省保安司令)馮
治安(第三十七師長)等ノ舊西北軍系武官ナルカ宋自身モ何
レニ與スヘキヤ迷ヒ居タル處最近ニ至リ親日派優勢トナリ
宋ノ決心モ漸ク着キタルヤニシテ張自忠ノ移動説モ右情勢
ヲ反映スルモノト觀測セラル

北平、天津、南京、支、滿ヘ轉電セリ

530 昭和11年5月6日 在中国武藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

冀察駐在外交部特派員が辞任した背景に関す
る報道について

北平 5月6日後発
本省 5月6日夜着

第二〇二號

六日諸新聞ハ今般冀察政務委員會ニ於テハ冀察駐在外交部
特派員羅家衡カ從來南京直屬ナリシヲ改メ冀察政務委員會
外交委員會ニ隸屬セシムルコトシタル旨竝ニ羅ハ辭表ヲ

三、右會談ヲ通シ武官ノ得タル印象ニ依レハ閻ハ未タ完全ニ
中央化シタリトモ見エス依然從來通り日和見の態度ヲ持
シ居ルモノノ如ク從テ我方トシテモ山西ニ對スル工作ノ
餘地無キニシモアラスト觀察セラレタル趣ナリ

支、南京、天津、青島、濟南、漢口、滿ヘ轉電セリ

529 昭和11年4月21日 在張家口中根(直介)領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員會内部の権力闘争に関する情報
について

張家口 4月21日後発
本省 4月22日後着

第七一號

察省主席張自忠ノ移動説ハ數箇月前ヨリ斷續シテ傳ヘラレ
タル處其ノ内幕ニ關シ諜知スル所ニ依レハ宋哲元ノ親日轉
向以來南京政府ハ其ノ勢力ノ膨脹強化ヲ惧レ冀察政務委員
會ニ或程度迄實權ヲ許與スルコトニ依リ其ノ甘心ヲ買フト
共ニ一方馮玉祥ノ第二十九軍ニ於ケル潛勢力ヲ利用シテ内
部的分裂ヲ策シ居リシカ最近二十九軍内部ニハ親日及反日

提出シタル旨ヲ報シ居ル處右ニ關シ冀察側ニ就キ確メタル
所ニ依レハ右ハ外交委員會ニ於テ冀察關係外交案件ヲ處理
スルコトトナリ居ルニ拘ラス別ニ南京直隸ノ外交部特派員
カ存在スルハ不合理ナリトノ見地ニ出テタルモノニシテ既
ニ客月二十八日羅ニ對シ今後ハ外交委員會ノ指揮監督ヲ受
クヘキ旨ヲ申渡シタル趣ニテ又羅カ辭職スレハ冀察側ヨリ
代リノ者ヲ出ス(但シ任命ヲ中央ニ委ヌルコトハ從來通り)
筈ナル由ナリ御參考迄

支、南京、天津、張家口ヘ轉電セリ

531 昭和11年5月8日 有田外務大臣より
在滿州國植田大使宛(電報)

滿州國と冀東政權との友好親善取極締結はわ
が方華北工作の根本方針と矛盾するため絶対
反対の旨陸軍側へ回答について

別電 昭和十一年五月八日発有田外務大臣より在滿

州國植田大使宛第三五〇号

右取極案

本省 5月8日発

第三四九號(極秘)

往電第二八八號ニ關シ

滿洲國及冀東政權ニ於テハ友交親善ニ關スル取極ヲ交換セ
ンコトヲ熱望シ居レリトテ關東軍ヨリ別電第三五〇號ノ如
キ同軍作成ノ取極案ヲ送付越スト共ニ右ニ對スル意見同示
方電報越セル趣ヲ以テ軍側係官ヨリ當方意見ヲ求メ來レル
ニ付(1)北支處理要綱ニ依ルモ冀東政權ハ結局取消サルヘキ
過渡的存在タルコト(2)本取極ノ締結ハ北支五省ノ自治完成
ヲ第一段ノ目標トシテ進メツツアル我北支工作ノ根本方針
ニ反スルコト(3)取極案ノ内容ニ付檢討スルモ右根本方針ト
矛盾スルモノアル外此ノ際取極トセストモ内面指導等ニ依
リ實效ヲ擧ゲ得ヘキコト等ノ趣旨ニ依リ本件ニハ絕對反對
ナル旨詳細回示シ置キタル處八日軍係官ヨリ軍中央部ニ於
テハ右當方ノ主張ニ基キ「冀東政權ノ本質ヨリスルモ將又
冀察政權指導上ヨリ云フモ本件取極ニハ同意シ難キノミナ
ラス本取極ノ結果自然關東軍ノ冀東進出ヲ誘致シ天津軍ト
ノ任務ノ分界ヲ紛ルニ至ルヘク右ハ軍ノ統制上ヨリ云フモ
適當ナラサルニ付取止ムル様」關東軍宛訓電セル旨通報ア
リタリ

方ノ要求ニ依リ必要ナル軍事的援助並ニ其他一切ノ援助
ヲ爲スヘシ

甲及乙ハ前項ノ如キ事態ノ發生ヲ豫防スル爲メ必要ノ協
力ヲ爲スヘシ

第三 甲及乙ノ一方ハ他方ノ領域内ニ於テ政治上若ハ刑事
上ノ犯罪ヲ爲シタル者カ自方領域内ニ在ル場合他方ノ要
求ニ依リ之ヲ處分シ又ハ引渡スコトニ努ムヘシ

第四 甲及乙ハ法令ノ範圍内ニ於テ相手方ノ官公吏商民若
ハ學生ノ自方領域内ニ往來スルニ對シ便益ヲ供與スヘシ
第五 甲及乙ノ領域ノ接壤地方ニ於テ双方ニ關係アル事件
發生シタル場合ハ双方ノ官憲ハ互ニ連絡シテ友好的ニ之
ヲ處理スヘシ

前項ノ場合ニ於テ双方ノ官憲ノ間ニ意見ノ合致ヲ見サル
場合ニ於テハ夫々政府ニ報告シ其ノ處理ニ委スヘシ

第六 甲及乙ノ領域ノ接壤地方ニ於テ何レカ一方ノ機關ニ
シテ現ニ他方ノ領域内ニ存在スルモノニ對シ相手方ハ諸
般ノ便宜ヲ供與スヘシ

第七 甲及乙ハ相互間ノ通商及交通ヲ促進スル爲協力スヘ
キコトヲ約ス

就テハ右御含ノ上關東軍並ニ滿洲國指導方此ノ上共御盡力
相成度シ

別電ト共ニ支、北平、南京、天津ニ轉電セリ

(別電)

本省 5月8日發

第三五〇號

滿洲國政府(以下甲ト稱ス)及冀東防共自治政府(以下乙ト
稱ス)ハ赤化勢力ノ脅威ニ對抗スル爲相協力スルノ必要並
ニ相互ノ間ニ現存スル善隣ノ關係ヲ調整強化スルノ必要ヲ
認メタルニ因リ左ノ通り訂約ス

第一 甲ハ乙ノ存立及健全ナル發達ニ必要ナル援助ヲ與フ
ヘシ

乙ハ第三勢力ト交渉若ハ第三勢力又ハ其ノ所屬人民ニ利
權ヲ與フル場合ニハ豫メ甲ニ協議スヘシ

第二 甲及乙ハ共產軍其他他國又ハ他地方ノ甲及乙ノ何レ
カニ敵意ヲ有スル軍隊若ハ之ニ準スヘキ集團カ甲及乙ノ
領域ニ侵入シタル場合或ハ甲及乙ノ一方ノ領域内ニ於テ
集團的治安攪亂ノ事實發生シタル場合ニ於テ他方ハ相手

第八 甲及乙ハ連絡ノ爲夫々相手方政府ノ所在地ニ派員常
駐セシムルコトヲ得

前項ノ派員ニ對シ相手方ハ相當ノ待遇ト便益トヲ供與ス
ヘシ

第九 甲及乙ハ本議定書ノ趣旨ヲ達成スル爲必要アル場合
ニハ双方關係當局ヲシテ細目ノ協定ヲ爲サシムヘシ

532 昭和11年5月14日 在中國武藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

支那駐屯軍の増強を在北平英米仏伊各国代表
者へ通報について

北平 5月14日後發
本省 5月14日夜着

第二一五號

貴電第五四號ニ關シ(支那駐屯軍増強ニ關スル新聞發表ノ
件)

十四日當地英米佛伊各國代表者ヲ訪問シ御來示ノ通り話置
キタリ尙其ノ際何レモ我方ノ通報ニ對シ謝意ヲ表シ居タリ
支、滿、在支各總領事及香港、厦門へ轉電セリ

昭和11年5月16日 在中国若杉臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

日本の駐屯軍増強を非難する中国紙報道振りに
ついて

付記一 昭和十一年五月十八日付中国外交部より日本

外務省宛電書子字第二六四号

駐屯軍増強の制止方要求について

二 昭和十一年五月二十二日付日本外務省より中

国外交部宛電書並一普通第二〇号

右電書に対するわが方回答

三 昭和十一年六月一日付

「有田大臣許大使會談要領」

上海 5月16日後発

本省 5月16日夜着

第三二六號

華北増兵ニ關シ十六日時事新報ハ大要次ノ如ク論シ居レリ
日本陸軍當局ノ談ニ依レハ防共ノ必要上増兵スルモノナル
カ如クナル處仔細ニ點檢スレハ右ハ口實ニ過キス其ノ眞意
ハ支那ノ領土主權ヲ侵略シ傀儡政權ヲ樹立セントスルニ在

本外務省提出備忘錄要求制止爲要等因奉此茲特向

日本帝國外務大臣閣下提出備忘錄務祈

注意制止實深禱盼

中華民國二十五年五月十八日

直譯文

覺

子字第二六四號

中華民國特命全權大使ハ本國外交部ヨリ「日本ハ平津駐屯
軍ヲ増加セントシ情報ニ據レハ速カニ實行スル由ナルカ查
スルニ義和團議定書ニ於テ各國力數ケ處ノ駐兵ヲ會同商定
スルコトヲ認メタルハ公使館及各關係國ノ北平ヨリ海口ニ
至ル通路ノ安全ヲ保護スルニ在ル處現在事實上駐兵ヲ増加
スルノ必要皆無ナリ。聞クニ日本ハ今大ニ駐屯軍ヲ増加セ
ントシ居ル趣ナルカ右ハ明カニ慣例ニ反スルノミナラス且
廣田前外相ノ宣布セル不脅威不侵略政策ニモ符合セサルニ
ヨリ日本外務省ニ對シ覺書ヲ提出ノ上制止方要求セラレ度」
旨ノ訓電ニ接シタルニ付茲ニ特ニ日本帝國外務大臣閣下ニ
對シ覺書ヲ提出スルト共ニ注意制止セラレンコトヲ切望ス

昭和十一年五月十八日

ルコト明カナリ塘沽協定成立以來ノ日本ノ行動ハ華北ノ變
化ヲ見レハ明瞭ナリ又抗日團體ノ策動ヲ憂慮ストノコトナ
ルモ其ノ傳統的侵略政策ヲ改メスシテ之ヲ責ムルハ因果ヲ
顛倒シタルモノナリ又今回ノ増兵ハ事實上義和團議定書ノ
範圍ヲ越ヘタルモノニシテ華北ノ主權ヲ侵犯セストカ華北
ノ和平ヲ招來ストカノ言ハ實ニ世ヲ欺クノ談ナリ日本増兵
ノ終局ハ日本ト華北及其ノ他列國トノ關係ヲ調整シ得サル
ノミナラス甚タ不幸ナル結果ヲ醸成スルコトナルヘシ故
ニ極東ノ平和、日支ノ邦交何レヨリスルモ我當局ハ之ニ抗
議セサルヘカラス云々

天津、北平、南京ニ轉電セリ

(付記一)

備忘錄

中華民國特命全權大使茲奉本國外交部訓電內開日本増加平
津駐屯軍據報即將實行查辛丑和約應允各國會同商定數處駐
兵係爲保護使館及各關係國由北平至海口通道之安全現事實
上絕無增加駐兵之必要聞日本現擬大增駐軍不但顯違慣例且
與廣田前外相所宣布之不威脅不侵略政策不符爲此令仰向日

(付記二)

亞一普通第二〇號

覺

一、在京中華民國特命全權大使ハ昭和十一年五月十八日附子
字第二六四號大使館備忘錄ヲ以テ帝國ノ支那駐屯軍増兵
問題ニ關スル國民政府外交部ノ所見ヲ開示セラレタリ。
二、支那駐屯軍ノ増兵ニ關シテハ昭和十一年五月十五日陸軍
當局談ニ依リ委細御承知ノコトトハ存スルモ貴大使館備
忘錄ノ次第モアリ左ニ本問題ニ關スル帝國政府ノ見解ヲ
記述スルコトトスヘシ。
帝國政府ハ北支最近ノ政情ニ對シ特ニ關心ヲ有スルモノ
ニシテ、華北現下ノ不安ナル實狀ニ鑑ミ支那駐屯軍ノ任
務遂行ヲシテ遺憾ナカラシメンカ爲ニハ此ノ際駐屯軍ノ
増兵ヲ行フコト絕對必要ナリト認ムルモノナリ。而シテ
右駐兵ハ其ノ根據ヲ北清事變最終議定書ノ規定ニ置キ帝
國ノ有スル條約上當然ノ權利ヲ實行スルモノニシテ今次
之力實行ハ毫モ慣例ニ反スルコトナシ、尙今次ノ増兵ハ
支那駐屯軍ノ任務達成ノ爲必要ナル最少限度ニ止メント

スルモノニシテ、右ニ依リ中華民國ニ脅威ヲ與ヘ又ハ其ノ主權ヲ侵害セントスルモノニ非ルコト申迄モナキ次第ナリ。

昭和十一年五月二十二日

(付記三)

有田大臣許大使會談要領

岩村成允記

昭和十一年六月一日午後四時中華民國特命全權大使許世英氏ハ參事官王芄生氏同伴有田大臣ヲ訪問シ左ノ會談ヲ爲シタリ

大使 目下北支那ニ於ケル情勢ハ特ニ不安ノ事態ニアルモノトハ思考セラレス、然ルニ今回カ該地方ニ増兵セラレタルコトハ我國民ヲシテ多大ノ疑惑ヲ生セシメ國交上甚遺憾トスル所テアル、自分ハ着任後三ヶ月ニ過キサルモ只管日支關係ノ好轉ニ努力シツツ際ナル故ニ何トカ日本政府ノ善處ヲ望ムノテアル

大臣 貴國政府ニ於テハ北支那ニ特ニ不安ナシト言ハルルモ我方ノ見ル所ニ依レハ同地方ニ於ケル共產系ノ暗躍

アルカ、若シ將來不安カ一掃サルレハ元ノ如ク減少スル考テ此度ノ増加ハ永久的ノモノテハナイノテアル、貴國民カ日本ノ増兵ニ對シ疑惑ヲ挾ムモノカアレハ貴國政府ヨリ適宜ノ方法ヲ以テ釋明シ疑惑ヲ解カレンコトヲ望ム

大使 今回ノ増兵カ永久的ノモノテナク追テ從前ノ數ニ減少サルル御積リナレハ成ルヘク早く減少セラルル様御配慮アリタイノテアル

大臣 北支那ノ不安カ一掃サレタコトヲ確認セラルルトキハ實行セラルルテアラウ

大使 川越大使ハ何日頃赴任セラレマスカ

大臣 六月二十日前後ト思ハレマス

大使 目下中國ノ時局ヲ考フレハ甚慮ルヘキコトカアリマス故ニ成ルヘク早く赴任セラルルコトヲ望ミマス

大臣 自分ハ南京ニ於テ張外交部長ト日支國交調整ニ關シ屢々懇談ヲ重ネ更ニ北支ヲ廻ハリテ歸朝致間モナク臨時議會ノ爲メ甚多忙ヲ極メマシタカ議會モ無事終了シマシタノテ之レヨリ日支國交調整ニ關シ十分研究シテ川越大使ニ訓令スル筈テスカ御序ニ御傳ヘヲ願ヒマ

ハ相當ニ頑強ナルモノト思ハル、山西省方面ニ於ケル共產軍ハ貴國軍隊カ之ヲ討伐スルテアラウカ、之カ北支那ニ及ホス影響ハ輕視スルコトカ出來ナイ、殊ニ北支那ニ於ケル日本居留民ノ數ハ之ヲ英米其他ノ居留民ニ較フレハ頗ル多キモ我駐屯軍ノ數ハ居留民ノ數ニ比シテ少數テアルカラ今回増兵シタノテアツテ、之レハ條約ニ許サレタル範圍内テアルカラ決シテ不當ノモノトハ思ハナイノテアル、

大使 我國ニ日本居留民ノ増加スルノハ寧ロ望ム所テアルカ居留民ノ數ニ比シテ軍隊ヲ増兵セラルルノハ如何テアルカ、駐屯軍ノ性質ハ斯様ナモノテハナイヨウテアル、兎ニ角日本ハ成ルヘク早く元ノ如クニ減セラルルコトヲ望ムノテアル、

大臣 北支駐屯軍ハ義和團事變ノ結果設置シタモノテ居留民保護ノ目的トシタ譯テハナイカ、北支交通ノ安全ト居留民ノ安全ト相關スル故ニ事實上居留民保護ニ當リ多年ノ慣例トナツテ居ル、併シ今回居留民數ノ比率ニ依ツテ増兵スルコトヲ主張スルモノテナイ、尙ホ日本ハ目下北支那ノ不安ヲ感シテ居ル爲メニ増兵シタノテ

ス

大使 日支國交調整ニ就テハお互ニ誠心誠意ヲ以テ折衝スレハ必ス好果ヲ得ルコトト思ヒマス、只川越大使赴任前ニ何カ問題テモ起レハ阻碍ヲ生シマスカラ、大使ハ成ルヘク早く赴任セラレ日本ノ意圖ヲ傳ヘラレンコトヲ望ムテ居リマス

大臣 出來ル丈ケ早く赴任セシムル様ニ致シマス、尙ホ序ニ御話シテ置キタイコトハ、日支國交ノ調整ニ當リ貴國カ第三國ヲ介入セシムレハ種々障礙ヲ生スルコトテアリマス、日支兩國ハ必ス直接ニ誠意ヲ以テ折衝スルコトカ必要テ、若シ英國トカ米國トカ、此問題ニ介在スレハ好果ヲ得ルコトカ困難テス、貴國政府ニ於テモ必ス第三國ヲ介入セシムル意圖ハアリマスマイカ、外間ニ於テ斯ノ如ク見ラルル様ナルコトカアレハ障礙ニナリマスカ豫メ御注意ヲ望ミマス

大使 只今御話ノ次第ハ早速本國政府ヘ報告シマス

大臣 日支國交ノ調整ニ就テハ種々研究シテ居リマス、桑島東亞局長モ明日出發シテ滿洲ヨリ北支那ニ至リ多分上海方面ニモ參ルコトト思ヒマスカ之レハ篤ト現地ノ

狀況ヲ觀察シ國交ノ調整ニ資シ度イ考テアリマス
大使 夫レハ誠ニ結構テス成ルヘク早く國交ノ調整ヲナシ
好果ヲ擧ケンコトヲ切望致シマス

以上

534 昭和11年5月19日 在中国若杉臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

駐屯軍増強に関する今井武官説明を反駁する
中国紙論説について

上海 5月19日後発
本省 5月19日夜着

第三三九號

往電第三二六號ニ關シ

十九日ノ「チャイナ、プレス」ハ北支駐屯軍ニ關スル北平
今井武官ノ説明ハ何等根據ナク又矛盾アリテ得心出來スト
反駁シ武官ハ増兵ハ

- (一)北清事變議定書ニ基クモノニシテ
- (二)北支ニ日本在留民増加シ且
- (三)共產軍侵入ノ危険切迫セル爲ナリ

北平、南京、天津へ轉電セリ

535 昭和11年5月20日 在天津岸總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

駐屯軍増強問題への中国政府対応振りを非難
する中国紙報道振りについて

天津 5月20日後発
本省 5月20日夜着

第二〇〇號

北支増兵問題ニ關シ當地支那新聞ハ今日迄沈黙ヲ守リ居タ
ル處本二十日ノ益世報ハ「日本ノ北支増兵問題」ト題シ概
要左ノ如ク論述セリ

目下北支ニ二大問題カアル一ハ密輸問題テ他ノ一ハ増兵問
題タカ後者ハ前者ニ比シ遙ニ重大性ヲ有スルニ拘ラス世上
ノ注意ヲ惹カナイノハ實ニ意外タ勿論吾人ハ日本ノ北支駐
兵權ヲ否認シナイカ之ニハ限度カアル筈タ辛丑條約ニハ北
平ヨリ海岸迄ノ安全保持ノ爲駐兵ヲ認メテ居ルカ同地域ハ
平安テアリ又共產黨モ四散シタ以上増兵ノ理由カ無イテハ
ナイカ又日本ハ北支ニ於ケル中日經濟文化合作ト云フコト

ト説明シ居レルカ(一)ハ最早再ヒ北清事變ノ如キ事件發生ノ
可能性ナク又外國ノ大公使館ハ漸次南京ニ移リツツアルヲ
以テ少佐ノ論據ハ薄弱ナリ(二)及(三)ニ關シテハ北支ニ對スル
共產軍ノ脅威ハ未タ曾テ存在セルコトナク又存在シ居ラサ
ルカ假ニ日本ノ言ノ如ク其ノ脅威重大ナリトセハ何故ニ日
本(人)ノ北支移住ハ許容セラレ居ルヤ了解ニ苦シム所ナリ
日本(人)ノ増加ハ密輸ニ依ルモノニシテ密輸ノ範圍擴大ト
共ニ日本人ハ益々増加シ之ニ對スル軍事的保護更ニ必要ト
ナルヘシ日本ノ他ノ發言人ハ密輸ハ支那ノ關稅高キニ失ス
ルカ爲ナリト言ヒ居レルカ支那ノ稅率ハ日本政府ノ課シツ
ツアルモノヨリ可ナリ低率ナリ若シ然ラストスルモ何等密
輸ヲ正當付クルモノニアラス他ノ一ノ說ハ稅關吏ノ熱意足
ラサルカ爲ナリト言フニアルモ日本カ最近稅關監視船ノ國
際法ノ許ス範圍ヲ踰越セルニ對シ抗議セルコトハ即チ稅關
吏カ義務遂行ニ努力シ居ルコトノ證左ナリ日本ノ軍部カ支
那ノ内政ニ干渉スルヲ止メ又稅關監視船ニシテ武裝セラル
ルニ於テハ密輸ハ直ニ終熄スヘシ本問題ニ關シ列國ハ大ナ
ル關心ヲ示シ居レハ東京外務當局トノ隔意ナキ會談ハ其ノ
中ニ望間敷キ結果ヲ齎スヘシ云々ト論シ居レリ

ヲ盛ニ唱ヘテ居ルカ合作ノ第一條件ハ感情ノ融和テ増兵ト
合作ハ相背馳スルモノト云フコトヲ能ク考フヘキタ吾人
ハ當局カ日本ノ増兵數、駐屯地ヲ公開シ民心ヲ安定セシメ
ンコトヲ希望スル次第タカ中央政府カ昨日ニ至リ漸ク日本
ニ抗議シタコトヲ知り落涙ヲ禁シ得ナカツタ一體中央當局
ハ何ヲシテ居タノカ北支ヲ忘レタノカ北支ハ要ラナイノカ
云々

支、北平、滿、在支各總領事、廈門ニ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

536 昭和11年5月27日 在中國武藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

多田支那駐屯軍司令官が冀察政務委員會に実
行を要望した八項目に対する宋哲元の回答振
りについて

北平 發
本省 5月27日夜着

第二四八號(極秘)

往電第二〇八號多田司令官ヨリ宋哲元ニ送リタル書翰ニ關

シ其ノ後軍側ニ就キ確メタル所ヲ綜合スルニ右書翰ハ軍側ノ意嚮ヲ明瞭ニセル迄ニテ右ニ對スル宋ノ回答ハ之ヲ要求モセス又期待モシ居ラサル趣ナルカ軍側ノ觀測ニ依レハ宋ハ今トナリテハ(脱?)ニ對シ餘リ好キ顔モ出來サルヲ以テ寧ロ日本側ト接近シテ然ルヘク遣ツテ行ク肚ナルカ如ク看取セラレ右書翰列記ノ八項目ノ如キモ宋哲元側近ノ者ニ於テ之ヲ苛酷ナリトシ種々泣ヲ入レ居ルモ宋自身トシテハ主義上異存ナキ模様ニテ唯其ノ中或モノハ實現迄ニ相當ノ時間ト準備トヲ要シ或モノハ先ツ冀察政權内ノ反對分子ヲ處理シテ掛ル必要アルモノノ如ク而シテ宋側ニ於テ依然トシテ最難色アルハ第五項ノ覺書交換ナルカ如シトノコトナルカ二十六日日本官宋哲元ト會談ノ際本問題ニ付宋ノ意嚮ヲ探リ見タルニ其ノ語レル所大要左ノ通

多田司令官書翰列記事項ハ大體異存ナク或モノハ既ニ實行シ居レリ第一項防共協定ノ實行ノ如キ然リ第二項幣制獨立ニ付テハ目下經濟委員會ヲシテ研究セシメツツアルカ河北省銀行ヲシテ發券ヲ統一セシムルコトトシ第一段ノ工作トシテ先ツ冀察内諸銀行ノ發券ヲ停止シ第二ノ工作トシテ現在流通ノ中國、交通、中央ノ兌換券回收ヲ目論ミ居レリ

モノ(例ヘハ冀察綏遠區統稅局長ノ如キ)ハ致方ナキモ冀察政權内ノ人事ニ付テハ現在既ニ南京側ノ容喙ヲ許サス全ク獨自ニ之ヲ實行シツツアリ

第八項防共自治實行ニ妨トナル要人ノ整理ニ付テハ苟モ自分ノ統制ニ服セサル者ハ之ヲ除去スルニ躊躇セス例ヘハ石敬亭ノ綏靖公署總參議罷免ノ如シ云々

以上何等御參考迄

尙本電ハ機微ナル關係アルニ付部外絶對極秘ニ願度シ支、南京、天津ヘ轉電セリ

537 昭和11年5月27日 在中国武藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

多田司令官要望事項への冀察政務委員会対応
方針に関する陳中孚外交委員会主席の内話に

ついて

北平 5月27日後発
本省 5月28日後着

第二四九號(極秘)

二十七日陳中孚本官ヲ來訪シ往電第二四八號宋哲元ノ本官

(河北省銀行ノ信用如何ハ最重要ナルヘキコトヲ指摘シタルニ答ヘテ)

河北省銀行ハ資本金トシテ現銀四百萬元ヲ有シ且省政府ノ本金庫ナルヲ以テ信用ノ點ハ問題無シ尤河北省銀行ノ新兌換券ヲ印刷スル丈ケニテモ三、四箇月ハ掛リ本件ハ相當ノ準備ト時間トヲ要スヘシ

第三項現銀南送停止ハ之ヲ既ニ實行シ居レリ

第四項關稅ノ接收ニ付テハ目下攻究中ナリ閻錫山平津進出時代ニ天津海關ヲ接收シタルコトアル處其ノ時ハ成程接收ハシタルモ實ハ實質ノナキ稅關ヲ接收シタルニ鑑ミ自分ハ名實共ニ接收スル必要アリト考ヘ居リ之カ爲ニハ相當ノ準備ヲ要スル次第ナリ就中天津稅務司ハ英國人ナル處稅關ノ實權ハ海關監督(林世則)ニアラスシテ稅務司ニアル爲種々ノ困難アリ斯ノ如キモ先ツ是正シテ掛ル必要アリ

第五項覺書交換ニ付テモ成ルヘク日本側ノ要望ニ副フ様考慮中ナリ(此ノ點ニ付テハ宋ハ明言ヲ避クル風アリタリ)

第六項產業開發ノ障礙撤去ハ左迄困難ナル問題ニアラス双方ノ話合ニテ如何様ニモナルヘシ

第七項人事ノ獨立ハ機關ノ性質上南京政府ノ任免ヲ要スル

ニ對スル談話ノ補足旁八項目ニ對スル冀察側ノ意嚮ニ關シ語レルカ一、二、三、六、七、八ノ各項目ニ付テハ宋ト略同様ノ説明ヲ爲シ第四項及第五項ニ付テハ左ノ如ク語レリ即チ第四項ニ付テハ鹽稅ノ問題ハ既ニ中央ト話合着キ實行中ナルヲ以テ最早問題トナラサルモ關稅ノ接收ニハ仲々困難アリ軍側ニテハ閻錫山平津進出時代ニ執リタル方法ニ倣ヘト言ハルルモ閻錫山ノ場合ハ支那側モ外國側モ之ヲ内政問題ト見テ左迄氣ニモセサリシモ今度ノ場合若シ右ト同様ノ強硬手段ヲ執ルトセハ稅關ヲ乘取ルコト丈ケハ成功シテモ輿論ノ沸騰ヲ免レス支那モ列國モ必ス背後ニ日本アリト爲スヘク密輸問題ノ後ヲ承ケテ冀察側ニ取リテモ日本側ニ取リテモ甚タ不利ナルヘシ故ニ成ルヘク紛糾ヲ避クル爲南京側ト了解ヲ遂ケテ平和裡ニ接收シ度キ考ニテ既ニ南京側ニ向ツテ實情ヲ説明シ南京政府及冀察政權間ニ於テ適當ノ割合ニテ稅收ヲ分ツ方法ヲ工作シツツアリ若シ右ニテ不成功ニ終ラハ他ノ方法ヲ執ルノ外無キモ何レニシテモ本件ハ紛糾ヲ免レサルヘク從テ速急ニハ運ヒ難キ實情ニアリト語レリ

第五項ノ覺書交換ニ付テハ之カ最大難點ナリト前提シ抑冀

のため中国側が高宗武の平津方面派遣を提議
について

南京 5月28日後発
本省 5月28日夜着

第四一三號

本官發北平、天津宛電報

合第二〇六號

豫テ蒋介石及張群ノ命ヲ受ケ北支問題調整方ニ付須磨總領事等ト來住中ナリシ高宗武ハ今回張ノ内命ニ依リ北支ニ赴キ同方面實狀ヲ視察スルト同時ニ特ニ貴官及田代司令官ト隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ北支ノ現實並ニ我方ノ態度ニ關シ認識ヲ深メ度キ趣ヲ以テ右會談斡旋方申出テタリ同人ハ廿九日飛行機ニテ先ツ北平ニ赴ク由ニ付引見方然ルヘク御高配アリ度シ
(尙本件ハ高ノ希望ニ依リ新聞等ニハ發表セサル様致度シ)
大臣、支ヘ轉電セリ

539 昭和11年5月30日 在天津岸總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

華北諸問題調整に関する日本側との意見交換

538 昭和11年5月28日 在南京松村總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

察政權ニ日本人顧問ノ入レアルハ日支經濟提携ノ爲ノ財政金融産業交通等ニ關スル措置實行ノ爲ニ外ナラス而シテ顧問ハ松至少將ノ監督下ニアリテ軍ノ意ヲ受ケツツアルモノナレハ顧問ニ相談スレハ軍ニ相談シタルモ同然ナルヲ以テ此ノ點ハ顧問ノ制度ヲ活用スルコトニ依リ何トカ致シ度キモノナリト語レリ
尙宋哲元カ客年末冀察政權樹立ニ打テ出タル頃ハ未タ確タル信念ナク周圍ノ人物及情勢ニ押サレテ半信半疑ノ體ニテ乗出シタルカ其ノ後漸次日本ノ眞意カ少シツツ判リ最近ハ日本ト提携シテ行ク決心固ク例ノ八項目ノ如キモ主義上大體異存ナキ意嚮ニテ唯冀東政府丈ケハ解消シテ貰ハネハ人民ニモ顔カ立タス冀察政權ヲ山東、山西ニ擴大スルニモ甚シク障碍ヲ爲シ居レリト語レリ何等御參考迄(本電ハ機微ナル關係アルニ付部外絕對極祕トセラレ度シ)
支、南京、天津ヘ轉電セリ

平津方面へ向かうわが方増員部隊輸送列車の
爆破事件発生について

天津 5月30日前発
本省 5月30日前着

第二一九號(大至急)

二十九日塘沽ヨリ新着部隊(天津及北平行)輸送中ノ列車天津東站ノ東約十分間ノ地點通過中前方ヨリ七輛目ノ貨車ノ下ニテ爆彈様ノモノ炸裂シ床板數枚破損軍馬三頭負傷(兵ニハ被害ナシ)セル事件アリ軍ニテ現地ニ派員取調中ナルカ原因等未詳、列車ハ無事天津ニ到着セルカ萬一ヲ慮リ同乗セル北平行部隊及今夜塘沽發ノ管ナリシ後續部隊ハ三十日朝迄發車ヲ見合セタリ不取敢(軍ニテハ差當リ地方新聞掲載及通信員ノ發電ヲ差控ヘシメタル由ナリ)
支、北平、南京ヘ轉電セリ

540 昭和11年6月3日 在天津田尻總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

わが方増員部隊輸送列車の爆破事件詳細につき報告

第二二九號
駐屯軍輸送列車爆撃事件ニ關シ支那及外字新聞中ニハ疑惑的報道ヲ爲シ或ハ柳條溝事件ノ二ノ舞ナルヤノ如ク取扱ヒ居ルモノモ鮮カラサル模様ナル處事實ハ大體往電第二一九號乃至天津軍當局新聞發表ノ通ニシテ引續キ嫌疑者取調中ナルモ未タ右以上ニハ眞相判明セス尙本官ノ着任以來軍トハ充分聯絡ヲ取り居ルニ付其ノ御積リニテ餘リ本件ヲ「アラミング」ニ取扱ハサル様致度ク事件發生當時ノ模様ニ關シ前電補足旁左ノ通り御含迄
爆發ハ當夜午後八時過二一回起リタルノミニシテ一方ノ路線ノ繼目カ多少上向キニ反リタル程度ナリシ爲軍用列車ハ脱線ヲ免レ(損傷セシハ列車ノ中央部ノ車ナリ)天津東站ニ到着其ノ後塘沽ヨリノ貨物列車(午后九時頃)及我軍側ニテ現場調査ノ爲仕立シメタル特別列車モ無事右線路上ヲ通過セルカ同夜零時東站ヲ發シタル奉天行通車同地點ニ差懸レル際見廻人カ線路下ノ穴及枕木ノ破損ヲ發見急遽停車信號ヲ爲シタル結果同列車ハ一旦東站ニ引返シ翌朝線路修理

ヲ待ツテ出發セリ軍側カ現場ニテ發見押收セル證據品トシテハ線路ニ沿ヒ埋沒シアリタル電線約二十米及「ダイナマイト」ヲ包メル蠟ノ飛散セル大公報紙片アリ尙嫌疑者中ニハ爆發當時現場附近ニ在リタル路警二名(犯人ニ買收セラレシ嫌疑アリ)モアリ且下軍側ニテ取調中ナリ

支、北平、在支各總領事及香港、厦門へ轉電セリ

541 昭和11年6月3日 在南京松村總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

天津における日本軍の飛行場建設工事に対する
外交部抗議について

南京 6月3日後発
本省 6月3日夜着

第四二二號

本官發支宛電報

第四二三號

本三日外交部係官本官ヲ來訪シ「天津淮。府池ニ於ケル日本軍ノ飛行場築造工事阻止方ニ付テハ客年十一月二十九日附覺書ヲ以テ申入レ置キタル處最近ノ報告ニ依レハ右飛行場

て日本側の自制を求める高宗武内話について

北平 6月5日後発
本省 6月5日夜着

第二七八號(極秘)

南京來電合第二〇六號及支發閣下宛電報第三八八號ニ關シ高宗武ハ五月廿九日着平卅日本官ヲ來訪シ六月三日再ヒ會見シタルカ會談ノ要領左ノ通

一、高ハ支發閣下宛電報第三五九號張群ノ談話ト略同様ノコトヲ語リ特ニ密輸問題ト駐屯軍增強問題トヲ持出シ南京方面ニテハ右ハ日本ノ侵略政策ノ現ハレトシテ憂慮シ居ルコトヲ述ヘ蔣介石初メ支那側當局者ト日本トノ提携ノ決意固キコトニハ何等變化無キモ最近ノ北支ノ情勢ヲ見ルニ日本ハ一體何處迄進出セントスルモノナリヤ見當着カス一般ニ非常ナル恐怖心ニ驅ラレ居ルコトヲ述ヘ日本ノ自制ヲ望マサルヲ得スト語リタルヲ以テ若杉代理大使ノ張群ニ對スル應酬振ト同様ノ應酬ヲ爲シタル上本官ヨリ南京側カ北支ノ事態ノ認識ニ缺クル所アルハ甚タ遺憾ナリ宋哲元カ折角北支(ノ)特殊ナル事態ニ適應セル措置ヲ行ハントシ居ルニ對シ南京側ハ專ラ之カ妨害ヲ事トス

ハ廣サ十三頃。四十餘畝。ニ達シ工事ハ既ニ完成シタルカ三月以來更ニ二千ノ土工ヲ使役シテ城内ニ六、七百室ヲ有スル兵營ヲ構築中ニテ上棟ハ既ニ過半ニ及ヒタリトノコトニテ地方(當局官憲之ヲ阻止スルモ何等效無ク巡警ヲ派シ調査セシメタル處遂ニ抑留セラレタル趣ナルカ右ハ支那ノ主權(ヲ)忘却セル行爲ニシテ意外ノ紛糾ヲ惹起スル惧アレハ茲ニ抗議ヲ提出スル次第ニ付日本政府(ニ)轉達ノ上即時天津軍ノ築造工事ヲ停止セシムル様御手配アリ度ク尙何分ノ回答アリ度キ」旨覺書ヲ以テ申出アリタルヲ以テ本官ヨリ本件ハ當然當該地方官憲ノ了解ノ下ニ行ハレ居ルモノナルヘク支那側トシテハ此ノ種抗議ヲ頻發スルニ先立チ大局的見地ヨリ北支問題ノ解決ニ乘リ出スコト肝要ナル次第ヲ説示シ置キタルカ特ニ何等回答ノ必要モアラハ御回答ヲ請フ原文郵送ス

大臣、北平、天津へ轉電セリ

542 昭和11年6月5日 在中国武蔵大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

華北密輸問題および駐屯軍增強問題を取り上げ

ルカ如キ形跡アルハ大局ヲ過マルモノナリ元來冀察政務委員會ハ南京政府カ行政院ノ決定ヲ以テ設置セル機關ナルニ拘ラス南京側ハ之ヲ見ルコト恰モ仇敵ノ如クナルハ了解ニ苦シム所ニシテ

南京政府カ冀察政權ヲ認メタルハ結局局面ヲ糊塗セントスル底意ナルヤヲ疑ハシメ事態ノ改善上甚タ不幸ナリ南京側トシテハ思切ツテ冀察政權ニ遣ラシテ見ル肚ヲ決メルコト肝要ナルヘシト説示シ置キタリ

二、南京側ノ冀察政權ニ對スル態度方針ニ付本官ヨリ種々探リタルニ對シ高ノ語ル所ヲ綜合スルニ實ハ北支ノコトハ南京ニテハ充分判明シ居ラス從テ宋ノ人物ノ如キモ餘リ知ラレ居ラス宋ニ對スル同情モ薄キ次第ナルモ高個人ノ感想トシテハ宋ハ案外正直ナル人物ト思ハルルモ何分軍人ニシテ政治家的伎倆ニ缺クル所アリ尤モ問題ハ宋ノ輔佐役ノ良否ナルカ冀察ノ幹部ニハ人材乏シキヤニ認メラルト言フニアリ尙高ノ印象トシテ冀察ノ實情ハ南京ニテ想像シタリシ程ニ惡カラサルヲ發見セリト述ヘ南京側ニテハ北支ノ實情ニ適スル具体案ヲ眞面目ニ研究シ居ル次第ナルカ支那ノ主權カ侵サレサルコト及行政ノ統一カ破

壞セラレサルコトヲ前提トシテ能フ限り日本ノ要望ニ副
フ様北支問題ノ解決ヲ圖リ度シト考ヘ居ル旨ヲ語レリ
支、南京、天津へ轉電セリ

543 昭和11年6月5日 在中国武藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

高宗武の華北派遣は冀察政務委員會の対日折
衝振りに関する調査が目的との秦德純北平市
長観測について

北平 6月5日後発
本省 6月5日夜着

第二八〇號(極秘)

往電第二七八號ニ關シ

高宗武ハ着平來支那側各方面ト接觸シ居リ北支ノ事情特ニ
冀察政權ノ内容等ヲ調査シ居ル様認メラレ二日ハ秦德純、
三日ハ宋哲元ト會見シタルカ高トノ會見後秦德純ハ清水ニ
對シ高北上ノ目的ニ關シ新聞等ニハ密輸及駐屯軍増兵問題
ノ調査ノ爲ト傳ヘアルモ右ハ表面ノ理由ニテ實ハ南京方面
ニ於テ種々ノ謠言流布セラレ居ルニ鑑ミ冀察側ノ對日折衝

張家口 6月5日後発
本省 6月6日前着

第一一八號

當館謀者ノ第三十八師高級參謀ヨリ聴取セル所左ノ通り御
參考迄

二十九軍内文治派ト實力派トノ軋轢ハ頗ル深刻ナルカ曩ニ
平津方面有力者等ノ調停ニ依リ一時團結ヲ回復シタルヤニ
見受ケラレタルモ近來日本側ノ北支密輸問題、増兵問題等
ニテ宋哲元モ態度ヲ明確ニセサルヲ得サル破目トナリ五月
三十一日北平ニテ文武幹部ノ全體會議ヲ開ケル席上蕭振瀛
等ノ文治派ハ中央ノ特ミ難キヲ理由トシテ隱忍シテ時機ノ
到來ヲ待ツヘシト主張シタルニ對シ張自忠等ノ實力派ハ環
境ノ困難ト吾人ノ北支維持ノ苦心トハ中央モ國民モ共ニ熟
(知)スル所ナルヲ以テ吾人ノ救國的行動ヲ見捨ツル筈無シ
國ヲ賣リテ醜ヲ干載ニ殘スハ斷シテ忍ヒサル所ナリト主張
シテ下ラス宋モ遂ニ之ニ與シ

(一)人ヲ中央ニ派シテ其ノ了解ト援助トヲ求ムルコト
(二)日本側トノ談判ハ平等互惠ノ原則ニ依ルヘキコト
(三)二十九軍内部ノ精神的團結ヲ固ムルコト

振ノ調査ニ來レルモノラシク殊ニ冀察側カ中央ニ對シ何等
外交上ノ報告ヲ爲シ居ラサル點ニ不滿ノ意ヲ表シ居リタル
カ其ノ口吻ヨリ察スルニ冀察ノ外交ヲ南京側ノ手ニ收ムル
コトヲ目論見居ルモノノ如シト語レル趣ナリ

尙軍側ノ得タル情報ニ依レハ三日宋哲元トノ會談ニ於テ高
ハ冀東ノ密輸ニ對スル冀察側ノ態度ヲ尋ネタルニ對シ宋ハ
密輸ハ冀察政權ヤ冀東政府カ成立シタル爲ニ始マリタルモ
ノニアラス停戰協定ノ成立ニ依リ起レル現象ナリト答ヘ次
ニ高ヨリ冀察側カ勝手ニ對外交渉ヲ行ヒ中央ニ聯絡セサル
ハ妥當ニアラスト述ヘタルニ付宋ハ右ハ外交委員會ノ連中
ノ仕業ナルヘク自分ニ持込マレテモ困ルト答ヘタル趣ナリ
何等御參考迄
支、南京、天津へ轉電セリ

544 昭和11年6月5日 在張家口中根領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員會内部において対日態度をめぐ
る派閥抗争激化の情報について

四人ヲ山西ニ派シテ二十九軍ノ已ムヲ得スシテ同省内ニ撤
退スル場合ノ了解ヲ取付ケ置クコト

等ヲ議決セルカ當時辭意ヲ表明セル蕭振瀛ハ宋哲元ノ慰撫
ニテ現職ニ留マルコトトナレリ要スルニ二十九軍カ反日ト
ナルヤハ日本ノ態度如何ニ依リ決セラルル次第ニシテ恐ラ
クハ近ク重大ナル變化アルヘシ云々

北平、支、南京、承德へ轉電セリ

北平ヨリ天津へ轉報アリタシ

545 昭和11年6月11日 在中国武藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

西南勢力の挙兵をめぐる冀察政務委員會内部
の諸意見報告

北平 6月11日後発
本省 6月12日前着

第二九七號

西南ノ時局ニ關シ秦德純ハ十一日清水ニ對シ今回ノ西南派
ノ旗擧ハ其ノ眞意奈邊ニアルニセヨ表面上ハ國民黨同志ノ
政權爭奪ノ形ヲ取り且抗日ヲ標榜シテ起チ居ルヲ以テ反國

民黨及親日ヲ以テ基調トスル冀察政權トシテハ之ニ呼應シテ起ツコト面白カラス宋哲元モ同様ノ意見ニテ此ノ際何等積極的行動ニ出テス専ラ保境安民ヲ念トシ日支提携ニ努力スル氣構ヘニテ進ミ居ル次第ナリト語レル趣ナルカ冀察側ノ積極的反蔣者タル潘。毓。桂。ハ同日清水ニ對シ西南方面ノ眞相ハ曩ニ當方ヨリ派遣セル陳中孚、張。允。榮。等歸平セサレハ判明セサルニ付(張ハ九日廣東ヲ出發セリトノ報告アリ)冀察側トシテハ暫ク靜觀ノ態度ヲ持スル外途ナキ次第ナルカ今回ノ反蔣運動失敗セハ蔣ノ威力ハ益々加ハリ今後再ヒ蔣介石打倒ノ機會ナカルヘキニ付自分ハ此ノ際冀察側モ相呼應シテ反蔣ノ旗ヲ翻ヘス様ノ事態到來センコトヲ希望シ居ルモ聯共、抗日ヲ標榜スル東北軍カ陝西ニ頑張り居リ山西亦無力ノ狀態ニ陥リ山東ノ態度ハツキリセサル今日二十九軍ヲ南下セシムルコト仲々容易ナラス殊ニ西南派カ抗日ノ看板ヲ掲ケタル爲日本側ノ出様心配トナリ自分等モ其ノ點ニ付寄々協議シツツアルカ宋哲元モ反蔣ニハ贊成ナルモ抗日ニハ絶對反對ナリト稱シ居ルヲ以テ冀察側トシテハ今直ニ動キ出ス譯ニ行カサル次第ナリト語レル趣ナリ

支、南京、天津、青島、濟南、廣東、張家口へ轉電セリ

ニ取入レタル具体案ヲ建テ之ニ依リ北支ノ收拾案ヲ提議スルコト問題ノ解決ヲ容易ナラシムル所以ニシテ
⁽⁹⁾右提案カ日本側ノ容認ヲ得ル爲ニハ自分等ニ於テ貴官トノ間ニ豫メ充分ノ打合ヲ爲スコト必要ナリト述ヘ且右打合ヲ一層有效ナラシムル爲ニハ蔣介石其ノ他ノ責任者ニ於テ鈔クトモ北支收拾具体案ノ大綱ニ付支那側ノ意嚮ヲ日本側ニ明確ニ言明セラレ(例ヘハ現ニ冀察政權ノ執リ居ル人事、經濟、外交、防共等ニ關スル措置ヲ認メ之カ促進ヲ獎勵スルカ如キ中央ノ意嚮ヲ明示スルカ如シ)右ニ基キ自分等擔當者ノ間ニ具体案ノ打合ヲ行フコト必要ナリトテ北支問題ニ付テハ蔣介石ニ於テ右様ノ意嚮ヲ内部的ニテモ表示セルコトアリヤト尋ネタルニ高ハ蔣ニハ其ノコトナキカ張群ハ現ニ冀察ノ遣リ居ル程度ノ權限ヲ認ムルヨリ外ナシト考ヘ居ルモノト思ハルト答ヘ居タル由ナリ

北平、天津、南京へ轉電セリ

547

昭和11年6月19日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

華北諸問題の調整に関する張公權との意見交

546

昭和11年6月17日

在中国若杉臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

華北諸問題調整のため具体案の提示と蔣介石
ら要路の意向明確化を高宗武へ要求について

上海 6月17日午後

本省 6月17日夜着

第四五一號(極秘)

⁽¹⁰⁾ 往電第三五九號及北平發貴大臣宛電報第二七八號ニ關シ十五日來滬堀内ト會談セル高宗武ハ北支ノ事態ニ付前記北平往電後段ト同様ノ趣旨ヲ語リ(高ハ冀察側要人ノ外田代司令官、武藤書記官トモ充分話合ヒ事態ノ認識ヲ深メタル旨述ヘ居タリ)右ハ喜多武官トノ會見前蔣介石、張群ニ報告シタレハ兩人ノ參考トナリタルヘク其ノ結果張部長ハ先日若杉參事官トノ話合モアリ北支收拾ノ爲北支ノ現狀ニ即シタル具体案ノ攻究方ヲ自分ニ命シ居ルニ付引續キ堀内ト談合シ度シト述ヘ且川越大使御來任ノ上ハ何等具体案ノ提示アルヘキヤト尋ネタルニ付堀内ヨリ大使カ具體的意見ヲ有セラルルハ勿論ナルヘキカ自分ノ考ニテハ北支問題ニ付テハ支那側ニ於テ北支ノ現狀ヲ考察シ日本側ノ希望ヲ充分

換について

付記一 昭和十一年六月十二日付、東垂局第一課作成

「北支五省特政會設置ニ關スル説明」

二 昭和十一年七月十九日付、在南京須磨總領事

作成

「五省特政會案由來記」

南京 6月19日午後

本省 6月20日前着

第四四二號(館長符號扱)

⁽¹¹⁾ 本十九日張群ハ本官ニ對シ本官カ高宗武ト話合ヘル「ライン」ニ依リ支那側トシテモ眞面目ニ北支對策研究中ナレハ何レ川越大使來任ノ上ハ篤ト御話ヲ伺ヒ度シト述ヘタルニ依リ本官ヨリ北支ハ支那ノ問題ナレハ先ツ支那側ニ於テ進ンテ具体案ヲ申出ツル位ノ用意ナクハ事態ハ決シテ改善セスト思考スル旨述ヘ置キタルカ一方本日張公權モ(張水淇昨十八日公權ノ命ニ依ル趣ヲ以テ來訪シ支那側ハ北支問題ニ餘程決心ヲ爲スニ至レリト告ケタリ)最近蔣介石、張群等ニ於テモ北支ニ關シ根本的解決ヲ企ツルコトニ決意ヲ爲シ居レルカ自ラ其ノ交渉ノ矢面ニ立ツコトヲ憚リ居ル様子

ナレハ

自分(張)ニ於テ全く非公式極秘ノ裡ニ本官ト話合ヲ遂ケ度キ所存ナリト述ヘ要スルニ三原則六項目等ト四角張りタル原則論ヲ棄テ實際ニ即スル方法ヲ見出シ度キ處最困難ナルハ獨立トカ自治トカ謂フ名目モ香モセサル仕組タルヲ要スルコトト人事ヲ如何ニスヘキカノ點ナリトテ詳シク支那側ノ苦衷ヲ申出ツル所アリタルモ本官ヨリハ北支ノ煮切ラサル實情ハ一日モ速ニ明朗化ノ要アルハ認ムルモ之ニハ支那側力從來ノ如キ面子論ニ立籠ラス重大決意ヲ以テ臨ムノ要アリ之ニ副フカ如キ案ニテモアラハ何時ニテモ承ハルヘク又相談ニ應スヘシト應酬シ置キタリ

支、北平、天津ヘ轉電セリ

(付記一)

北支五省特政會設置ニ關スル説明

(十一、六、十二、太田記)

「別紙「北支五省特政會設置ニ關スル件」ハ須磨總領事私案「五省特政會設置ニ關スル日支合意案」ヲ基礎トシ、陸軍側ニ於テ受諾シ得ルカ如ク適當ナル調整ヲ加ヘタル

モノニシテ大体ノ内容ニ就テハ既ニ軍事課影佐中佐ト話合濟ナリ

「別紙ハ之ニ依リ陸軍省及參謀本部ノ正式同意ヲ取付ケムカ爲記載セラレタルモノナルヲ以テ引用ノ「方針」及字句等ハ成ルヘク陸軍式ノモノトナシ置ケリ此ノ點御含ヲ乞フ

「別紙ノ内容ニハ外務省トシテ不滿ノ點不尠ルヘク又外交交渉ノ成果ハ遽ニ期待シ難シト雖モ本案ハ軍ヲシテ尠クモ

(1)北支問題ノ處理ヲ南京ニ於ケル外交交渉ニヨリ解決セムトスルコト

(2)宋哲元ヲ首班トスル冀察政務會ノ現狀ヲ外交交渉ニヨリ打開セムトスルコト

(3)冀東政府ヲ解消セシムルコト

ノ三點ヲ認メシムルニ效果アルモノト思考セラル。

(別紙)

北支五省特政會設置ニ關スル件

(十一、六、十二、太田試案)

「設立ノ趣旨

北支民衆ヲ中心トスル自治ノ完成ヲ援助シ以テ其ノ安居樂業ヲ得セシムルト共ニ日滿兩國トノ關係ヲ調整セシメ相互ノ福祉ヲ増進セシムルハ我北支政策ノ根本方針ニシテ我方ニ於テハ右方針ニ基キ先ツ冀察二省ニ於ケル自治ノ完成ヲ期スルト共ニ山東、山西、綏遠ノ三省ヲシテ自ラ進ンテ之ニ合流セシムルカ如ク指導シ來レル次第ナリ。然ルニ宋哲元ヲ首班トスル冀察政務委員會ノ現狀ハ我方ノ期待ニ反スル所尠ナカラス、延イテ北支五省ノ自治完成ノ如キモ前途甚タ遼遠ナルヲ思ハシムルモノアリ右ハ對支政策上ヨリ云フモ將又對蘇作戰上ヨリ見ルモ甚タ面白カラサルニ付此ノ際左記要綱ニ依リ速ニ北支ノ現狀ヲ打開シ北支五省聯盟ノ結成ヲ誘導スルト共ニ同地域ヲ對蘇作戰上ノ背後地トシテ我方ノ把握下ニ確保スルコト緊要ノコトナリト認ム。

「要綱

(一)南京政權ニ對スル交渉

(1)在支大使ヲシテ南京政府トノ間ニ別紙甲號「五省特政會設置ニ關スル日支合意案」竝ニ乙號「付屬覺書案」

ノ調印方交渉セシム

(特政會ナル字句ニ關シテハ曩ニ東三省特政會及蒙藏特政會等ノ歴史アリ。尙前記合意案ニ基キ國民政府ヨリ特政會ニ賦與セラルヘキ權限ハ客年南京側ニ於テ何應欽ニ與ヘントシタル六項目ト同趣旨ニシテ又附屬覺書案ノ内容ハ所謂防共協定ノ趣旨ヲ斟酌セルモノナリ)

(2)特政會ノ前記權限遂行ヲシテ遺憾ナカラシメンカ爲國民政府ハ特政會指導長官トシテ適當ノ人物ヲ特派ス

(國民政府ニ面子ヲ與フル點ヨリ云フモ將又對外關係上我方ノ立場ヲ有利ナラシムル點ヨリ云フモ本項承認ハ已ムヲ得サルモノト認ム、但シ特政會ノ權限ハ特政會自体ニ賦與セラルルモノニシテ指導長官ニ與ヘラルルモノニ非ス又前記指導長官ヲ承認セル結果、特政會カ黃郛政權ト同様ナル鶴的存在トナラサル様特政會ノ構成ニ必要ナル豫防的措置ヲ施スノ要アル處右ニ關シテハ下記(二)參照ノコト。追テ右指導長官トシテハ諸般ノ關係上閻錫山ヲ以テ最モ好都合ナリト認ムルモ南京側ノ面子上南京側ヨリ派員方固執スル場合ニハ右派員ノ人物如何ニ依リテハ之ヲ認メ可然シ)

(一) 特政會ノ構成

(1) 特政會ハ河北(宋哲元)、山西(閻錫山又ハ省主席徐永昌)綏遠(傅作儀)察哈爾(宋哲元兼任委員トスルヲ可トス、然ラサル時ハ張自忠トス)山東(韓復榘)ノ五省實權者各一名ヨリ成ル委員會制トシ別ニ委員長ヲ設ケサルコト(委員ハ形式上南京政府之ヲ任命ス)

(2) 特政會ニ秘書長ヲ置キ一切ノ庶務ヲ掌ラシムルコト(王克敏ヲ最適任ト認ム)

(3) 特政會ハ天津ニ之ヲ設ケ毎月少クモ一回委員會ヲ召集スルコト

(以上構成ノ主旨トスル所ハ要スルニ南京政府ヲシテ必要ノ權限ヲ特政會ニ賦與セシメタル上ハ特政會ハ成ルヘク形式的名義上ノモノタラシムルト共ニ同會ヲ五省主席ニ對スル我方申入ノ單ナル取次機關タルニ止メシメ以テ北支五省ニ對スル實際上ノ工作ハ我方出先機關ト各省省主席トノ直接的取引ニ委ヌル一方特政會委員會ノ名義ニ依リ五省主席ヲ成ルヘク頻繁ニ會合セシメ以テ北支五省ノ聯繫ニ誘導セントスルニアリ)

三、本件施策ニ當リ注意スヘキ事項

ヲ存置スルコトニ反對アリタル場合ハ之ヲ解消スルモ差支ナカルヘシ

五省特政會設置ニ關スル日支合意案

日支兩國間ノ善隣ノ關係ヲ鞏固ニシ東亞ノ安定ヲ確保セムカ爲華北五省ニ付左ノ通り合意ス

第一條 河北、山西、察哈爾、綏遠及山東五省ノ庶政ヲ處理スル爲國民政府ハ天津ニ五省特政會ヲ置キ之ニ第二條乃至第四條ノ趣旨ニ從ヒ特殊事態ニ適應スル施政ノ權限ヲ附與ス

第二條 五省特政會ハ共產主義ヲ排除スル爲日本側ト共同シテ一切ノ共產主義的行爲ノ防遏ニ從事シ且ツ之カ爲要スルコトアルヘキ共同軍事行動ニ關シ指揮ノ統一、協同ノ圓滿ヲ期スル爲必要ナル事項ハ日支軍務當局相互ニ別ニ協定ス

第三條 幣制、稅制、路政等金融財政、産業、交通一切ニ關シ(日本側トノ諒解ヲ經タル)特別ノ施設ヲ行フ

第四條 日(滿)支提携ノ爲須要ナル諸般ノ施設特ニ經濟的及文化的ノ融通聯絡ヲ行フ

(1) 南京側トノ交渉ニ際シ我方ノ爲スヘキ説明振ト北支五

省ニ對スル實際上ノ指導振トノ間ニハ相當ノ懸隔アリ、南京ニ於ケル我方出先ト北支ニ於ケル出先トノ間ニ密接ナル聯絡ヲ要ス

尙本件目的達成ノ爲ニハ多少ノ名目ヲ與フルコトニ依リ南京側ヲ誘フト共ニ北支現地ニ於ケル工作ヲ進ムルコトニ依リ南京側ニ或程度ノ威壓ヲ加フルヲ要スルコト勿論ノ儀ナリ

(2) 五省特政會内ニ於ケル冀察政權ノ役割ハ現在ノ冀察政權ニ對スル冀東政府ノ役割ト異ナラス、仍ツテ冀察政權カ過早ノ措置ニ出テ爲ニ爾他三省ヲシテ五省聯繫ニ足踏セシムルカ如キコトナキ樣嚴重注意ヲ加フルノ要アリ。

(3) 五省特政會ハ省ヲ以テ單位トシ宋哲元ハ河北省代表トシテ委員會ニ參加スルモノニ付本會成立ノ上ハ冀東政府ハ成ルヘク速ニ之ヲ解消セシメ、冀察政權下ノ一特別區トシテ宋哲元ノ統制ニ服セシムルヲ要ス

(4) 冀察政務委員會ハ五省特政會管下ニ於ケル一組織トシテ其ノ儘存置セシムル建前ナルモ五省聯盟内ニ一分派

五省特政會設置ニ關スル日支合意附屬覺書案

本日調印セラレタル五省特政會設置ニ關スル日支合意第二條ニ關シ左ノ通り約定ス

第一條 日本側及五省特政會ハ共產主義運動ニ關スル一切ノ情報ヲ相互ニ交換シ且ツ防共行爲竝ニ防共ノ爲ニスル兵器及軍需品等ニ關シテハ相互ニ緊密ナル聯絡ヲ保持ス

第二條 共產主義運動ニ關聯スル第三國ノ一切ノ行動ハ日支兩國共同シテ之ヲ排除防衛ス

(付記二)

五省特政會案由來記

昭和十一年七月十六日(六六)須磨總領事稿

目 次

前言。 本案急施ノ必要

第一。 本案ノ由來

第二。 本案ノ要項ト其ノ根據

一、五省特政會

(一) 特政會ノ根據

◎五省特政會設置ニ關スル日支合意案

◎同附屬覺書案

以上

五省特政會案由來記

前言。本案急施ノ必要

日支關係カ詰メ將棋ナラハ何時迄モ歩ヤ桂馬ヲ動カシ居リテモ埒開カス我方ハ既ニ五年コノ方支那ニ對シ詰メ寄ル一方ニテモウ敵ハ飛車モ角モ喪ヒ金、銀モ王者ノ周圍ニ蜩集シテオ家ノ一大事ヲ是レ護リ居ルカ現狀ナリ我方ハ王手ヲ掛クルノ秋ナリ否元來カ變態性慾者ノ如キ支那ナレハ彼女モ王手ヲ掛ケラレタキナリ

棋客斯ノ機ヲ逸センカ實ハ岡目ノ英、米、獨、佛、露ハコノ對局ヲガチャガチャト搔キ廻シ見タクテ仕方無キ連中ナリ英ノ支那新幣制ノ支持モ米ノ對支銀協定モ將タ又其ノ傳ハラルル對支物資供給説モ獨支物々交換契約モ比々皆岡目ノ八目ニアラスヤ

支那ハ滿洲事變以來上海、塘沽兩停戰協定ニ、北支關係ノ各種案件ニ謂ハハ「沒法子」ノ筆法ニテ押サレ來リ其ノ

(二)五省ヲ區域トスル所以

(三)特政會ハ分治機關ナリ

(四)特政會ハ庶政ヲ處理ス

(五)秘書長中心制ナリ

(六)指導長官

二、日支共同防共施設

(一)本施設ノ妥當性

(二)本覺書ヲ軍事協定トセサリシ理由

第三。本案ノ經過

一、東京ニ於ケル經過概要

(一)外務側

(二)軍部側

(三)廣田總理大臣

二、出先ニ於ケル經過概要

(一)上海、南京ノ聯絡

(二)喜多武官意見ノ上申

(三)各地駐在武官ノ意嚮

(四)渡部長ノ意嚮ト喜多武官ノ上申

押サルル毎ニ「日本ノ軍部ハ致方ナシ」ト内ニ哀叫セリ其ノ支那カ客年秋ノ北支自治運動有耶無耶以來一寸日本軍部ヲ見縊リ出シタルニ非スヤ聰明サ丈ハ持前ノ支那ハ如何シタ風ノ吹キ廻シカ最近日本ノ對支輿論カ相當軟化セルヲ先刻ソツト視イテ御座ルニ非スヤツヒ此ノ春ナリ介石ハ離任挨拶ノ某大使ニ對シ

「幣原男ト牧野伯ニ何卒宜敷ク兩氏カ支那ニ來遊セハ自分ハ勿論支那國民ハ歡迎セム」

トズバリト遣リタリ茲ニ萬斛ノ意味ナキ歟

而シテ岡目ノ連中旦ニ夕ニ甘言ヲ、美玉ヲ、磨劍ヲ贈ルアリ何ト言フ星ノ運カ兩廣サヘ此ノ程其ノ掌中ニ入ルアリドウヤラ介石モ英雄ラシクナラムトス

内外ノ形勢果シテ然ラハ支那此ノ上ノ出方ハ最近急カレツツアル諸地方ノ防備狀態ヲ見ストモ知レタコトニアラスヤ

日本ハ東亞ノ安定力ナリ現狀打破モ敢テ避ケス所謂歐米ノ老大國カ現狀維持ヲ唱ヘタト千里ノ馬ハ念佛ヲ聽カサルヘシ況ンヤ支那カ何トアラウト當初ノ目標ヲ棄テス夙夜孜孜非常時ノ風濤ヲ寧ロ怡シミツツ東亞安定ノ大道ヲ濶歩

センコト帝國ノ所懷タリ然ラハ其ノ歩武亦堂々タルヲ要ス

支那及之ヲ廻ル列強ノ情勢果シテ上來敘述ノ如シトセハ北支明朗化ノ爲關稅ノ地方移讓トカ關稅ノ引下ケ交渉トカ謂ハハ歩ヤ桂馬ノ上下ヲ繰返シテ見テモ事實對局如何アルヘキ而シテ經濟合作ト云フ此ノ儘ニテハ何時ニナツテモ實現セヌコトヲ念佛スル間ニ口善惡ナキ者ハ内ニモ外ニモ騷キ立テサルヘキヤ北支平安ナルカ如シト雖モ何時迄待ツテモ

駒飛ヒ出サスハ若イアタリハ「夫レ見タコトカ南京、蔣介石ト云ツタトテ結局何カ出來ルカ」トソロソロ色ンナ惡戯モ始ムヘシトモ聞ク然ラハ何モ彼モ遣リ直シトナルヘシ

要スルニ王手ヲ掛ケテ見ルヘキニ非スヤ而シテ手ヲ握ルコトニ決スヘキニアラスヤ然ラサレハ後ニ至リテ手ヲ切り足ヲ貫ツテ見タ所テ英、米等カ心臟(例ヘハ中央銀行乘取リノ如キ)等ヲ抑ヘ込メル後トモナルコトアルヘシ

持駒ノアル間ニ王手ト出ルカ妙法ナリ冀東政府モ北支增兵モ特殊貿易モ對蒙工作モ今ハ持駒ナリ「トラムプ」ナリ(此ノ持駒モ或ハ其ノ内無クナルカモ知レス殷汝耕ノ如キ商賣人ハ西南モ中央ニ歸シタル今日何時逃ケ出スカ知レタモノニ非ス)此ノ機ニ掛ケテ見度キ王手ノ一手カ斷然特政

會案ナルヘキヲ惟ヒ又事決シテ閑問題ニ非サルカ故ニ茲ニ
特政會案由來記ヲ急キ纏メ見タルナリ

七月十九日記

第一。本案ノ由來

客年十月末頃漸ク表面化セル北支自治運動ニ關聯シ蔣介石ハ自家ノ保身術ヨリスルモ先ツ飽ク迄華北ノ主權ヲ保持スルニ決意シ之カ爲必要アラハ日本トノ一ト衝突モ辭シ得サルノ意氣込ヲ示シ内ニ對日防備ヲ固メ(第十四輯「支那側ノ抗日戰備狀況」參照)汪精衛、朱家驊、唐有壬等ノ對日諒解派ヲ艾除シ今後ハサウサウ易々ト日本ノ言フコトハ聽カサルノ決意ヲ示シ自ラ首班トナリテ此ノ仕組ミノ新行政府ヲ組織シタリ

是カ原因トシテハ前述ノ如ク先ツ蔣自身ノ保身術ヲ擧ケサルヲ得サルモ一面國民黨ノ勢威ヲ維持スル爲ニモ此ノ邊ニテ肚ヲ引締ムルノ要アリト覺悟シタルニモ依ルヘク又他面主トシテ英國又恐ラクハ露國等カ是レ亦自家ノ利害打算ヨリ支那ニ此ノ底ノコトハ慫慂セルモノトモ謂フヘク右ハ北支密輸問題等ニ關スル英國側ノ露骨ナル態度ニ依リテモ見ラルヘク殊ニ「リース、ロス」ノ活動ニ顧ミルニ過去十

ケ月間英國ハ日本ニ對シテハ殆ント支那ノ代辯者ノ如キ役割ヲ演シ來リタルニ依リテモ知ラルヘシ

元來日本ハ東亞ニ於ケル安定力タルヲ以テ自任シ來レリ而シテ日本ハ元來英米等ノ對支發展ヲ阻止スルコトナクシテハ實ハ東亞ノ安定力タルコトヲ實證セリト言ヒ難ク即チ換言セハ自家ノ充分ナル發展ヲ期センカ爲ニモ列國ノ勢力少クモ支那ヲ以テ半殖民地地位ニ心得居ル歐米諸國ノ支那進出ヲ阻止スル底ノ覺悟ナカルヘカラス結局何時カハ過去ニ於テ飽滿セル此等ノ國カ今ヤ方便的ニ現狀維持ナンソヲ唱道シヤレ機會均等ヤレ門戸開放ナンソト態良キ夫レコン侵略ノ看板ヲ掲ケ居ルニ對シ一泡噴ハスノ覺悟ナカルヘカラス此ノ底ノ見透シヲ以テ我方ハ嚴然トシテ支那ヲ廻ル國際陣ヲ眺メサルヘカラス即チ安價ナル所謂日英提携論等ハ大イニ之ヲ是正シ行クト共ニ支那ニ對シ究極ニ於テ支那ヲ半殖民地化セントスル英國等ノ口車ニ乘ラサル様執拗ニ説示シ行クヲ要スルハ筆者ノ常ニ強調スル所ナリ

然リト雖モ一方我方ノ前綫ノ方針ハ唯之ヲ環境ノ變化ヲモ顧慮セス一氣ニ堅持許リシテ居タリトテ始ラス宜シク支那及列國ヲシテ以上ノ如キ趨勢ニ乘リ來サシムル様仕向ク

ルノ要アリ即チ支那ヲシテ我方ノ言フコトヲ聽カシムル切掛ケヲ作ルコト肝要ナリ換言セハ日支力從來ノ如ク睨ミ合ヒノ狀態ヲ續クルノミナルニ於テハ支那ヲ始メ事アレカシト首差伸ヘ居ル列強ノ思フ壺ニ入ルモノト言フヘク遂ニハ假ニ支那カ欲スルト雖モ我方ニハ靡キ得サル狀態トモナルヘシ此ノ觀點ヨリ支那ヲ廻ル最近ノ國際形勢ハ決シテ油斷ヲ許ササルノ風アリ殊ニ況ンヤ支那ハ最近英、露等ノ助力ヲ賴ミ漸ク驕ラムトスルノ風サヘアリ特ニ華北自治運動以來支那ハ日本ヲ相當見縊リ始メタルノ風濃厚ナルモノアリ現ニ例ヘハ蔣介石ノ新行政府ハ日本トノ懸案ヲ何一ツ片附ケントセス汕頭角田事件、上海中山事件等アルモ日本ハ以前ノ如ク元氣良ク手モ出シ得サルニ非サトナシ甚タシキハ日本軍部モ二、二六事件等ニ依リ懼ルヘキ程ノ痛手ヲ負ヒタリト見テ此ノ分ニテハ恐ルルニ足ラストノ言説ヲ爲ス者支那側ニモ漸ク現ハルルニ至リ早イ話カ支那モソロソロ日本ヲ甜メテ掛ラムトスルノ風ヲ示スニ至レルハ最モ注意ノ要アリ

此ノ間ノ形勢ニ鑑ミ假令日支間ノ全面的、根本的建テ直シニハ尙幾多ノ時日ヲ藉スヘシト雖モ先ツ日支關係ノ或ル

結着點ハ之ヲ區切り置クノ必要アリ(第十九輯「日支關係ノ或ル結着點」參照)ト思考シ此ノ見解ノ下ニ支那側(主トシテ吳鼎昌、張公權…(張水淇)…、吳震脩、馬超俊、高宗武等)ト二月以來二十數回ニ亘ル難談ヲ試ミ支那側ニ於テモ容認シ得ヘク少クトモ容認スルヲ適當トスル位ノ見込ノツク案ニシテ而カモ我方從來堅持ノ立場ヲ一步モ退却セサル腹案ヲ練リ五月十五日ニ至リテ得タル私案カ即チ本案ナリ

第二。本案ノ要項ト其ノ根據

一、五省特政會

(一)特政會ノ根據

支那ハ幾度カ其ノ領土ヲ喪失セントスルヤ二者孰レカノ方途ニ依リテ其ノ危難ヲ少クトモ内ニ隱蔽セントセリ中央特派使節ヲ當該危險地方ニ簡派スルコト其ノ一ナリ例ヘハ客年半歲ヲ費シテ蒙藏委員長黃慕松ヲ西藏ニ使節トシテ簡派セルカ如キ是ナリ中央ニ隸屬スル特政會(特別政治會議)ヲ設ケテ自治又ハ獨立ニ非サルコトヲ示スコト一九二一年外蒙カ蘇聯トノ議定書ニ依リ獨立セントスルヤ今ノ蒙藏委員會ノ起源タル外蒙特政

會ヲ置キタルカ如キ又先年張作霖カ保境安民ヲ提唱シテ宛然獨立地域ノ觀ヲ爲サントスルヤ東三省特政會ヲ設ケテ急場ヲ繋キ超エテ張群、吳鐵城等ヲ奉天ニ常駐セシメテ作霖、學良ノ懷柔ニ當ラシメタルカ如キ是ナリ又現ニ蒙藏委員會ハ蒙古ニ對シ「蒙政會」ナルモノヲ置キ漠然乍ラ蒙古ノ存在ヲ明カニセントシ居レリ最近ハ五月南京ニ開カレタル行政大會ニ於テ五省教育特政會ヲ置キ湖南、湖北等ノ教育方針カ動トモセハ分立割據セントスルノ形勢アルヲ妨カントセルカ如キ亦是ナリ

此等ノ前例ニ顧ミテ五省特政會ヲ案出セリ

(一) 五省ヲ區域トスル所以

特政會ヲシテ五省ヲ統制セシメントスルニハ相當ノ困難アルヘキカ客秋十一月三十日唐有壬(殷同列席)カ所謂六項目ヲ筆者ニ内示セル際筆者カ右六項目ハ之ヲ華北五省ニ實施セントスルモノナルヘキヲ高潮シタルニ唐力之ヲ首肯セルコト抑々五省ヲ規劃トスル根源ナリ其ノ後所謂六項目成立ノ由來ニ最モ通饒^(張)セル張水淇等ニ對シ筆者カ此ノ點ヲ幾度カ説示セルニ張ハ「六項目

リ

(四) 特政會ハ庶政ヲ處理ス

特政會ハ特殊事態ニ適應スル庶政ヲ行フモノナルカ故ニ實ハ財政、産業、交通等ニ付規定シ居ルモ(日支合意案第三條)之等ハ結局例示の二過キスシテ苟クモ行政ニ屬スル一般ノ事象ハ特政會ニ依リテ處理セラルルヲ期ス是レ日支合意案第一條末段ニ於テ「國民政府ハ……五省特政會ニ第二條乃至第四條ノ趣旨ニ從ヒ特殊事態ニ適應スル施政ノ權限ヲ附與ス」トナセル所以ナリ

(五) 秘書長中心制ナリ

特政會ニハ五省各主席ヨリ成ル常務委員ヲ置クニ止メ從來黃郛ノ華北政務委員會、宋哲元ノ冀察政務委員會等ニ於テ徒ラニ情實のナル冗員ヲ並ヘタル爲却ツテ複雜化セシメ終ニ折角ノ機構ヲ崩壞セシムル情氣ヲ生セシメタルニ顧ミ嚴ニ此ノ弊ヲ去ラムトセルモノナリ而シテ最モ人望アル有能ノ士(例ヘハ王克敏ノ如キ)ヲ以テ秘書長トスルノ制ヲ建テ庶政ノ實行ト其ノ責任トヲ秘書長ニ集中セシムルコト特政會ノ伸縮制ヲ大ナラシ

問題ノ際既ニ決意シ居タル範圍タル五省ヲ今トナリテ拒否スルハ理由ニ乏シカルヘシ」ト明答セルアリ又吳鼎昌モ同様ノ應答ヲ爲セルコトアルニ想ヲ致シテ五省特政會ヲ案出セリ(日支合意案第一條)

(三) 特政會ハ分治機關ナリ

特政會ハ「セパレート、アドミニストレーション」ニシテ名目ニ於テハ獨立ニモ自治ニモアラサルモ日本側ノ實力カ今後伸張シ行ク經過ノ如何ニ依リテハ自治ニモ勝ル特殊行政地區タラシムルコトヲ期セルモノナリ英國ノ海外殖民地ト雖モ一種ノ「セパレート、アドミニストレーション」ナリ名目ハ嚴然トシテ中央ノ指揮スル地區タルモ又形式モ中央ノ任命スル特政會指導長官カ處理シ又國民政府ニ謂ハハ隸屬スル形ナルモ(此ノ點ハ餘リ明確ナラシメサルヲ期シ唯「國民政府ハ天津ニ特政會ヲ置ク」:(日支合意案第一條):トノ用字例ヲ使用セリ)實質ニ於テハ特政會ハ北支五省ノ特殊事態ニ適スル様特殊行政ヲ實現スル便宜上ノ一機關タルニ過キスシテ日本側指導者ニ其ノ人ヲ得其ノ領導ニ道ヲ得レハ漸次獨立的機構タラシムルヲ得ヘキ仕組ナ

メ又時ニ必要アル毎二人ヲ替フルコト等ニ相當ニ便宜ナラシムルニ努メタリ

(六) 指導長官

指導長官ハ主トシテ中央ノ面目ヲ立テ遣ル心組ヨリスル便宜ニ過キス同長官トシテ南京ハ從來ノ行掛リ上何應欽位ノ簡派ヲ主張スヘキカ客年何ヲ行政院駐平辦事長官トシテ北上セシメムトセル際我方力強ク之ニ反對セル經緯モアリ支那側ハ陳儀カ吳鼎昌位ニセンカトノ考モアル様ナレトモ特政會ノ性質上閻錫山ヲ可トスヘシ

二、日支共同防共施設

共同防共ハ本案ノ眼目ニシテ日支合意案第二條前段ニ於テ「五省特政會ハ共產主義ヲ排除スル爲日本側ト共同シテ一切ノ共產主義の行為ノ防遏ニ從事シ……」ト爲セル點ニシテ實ハ此丈ケニテモ以テ日支關係上ニ一大曙光ヲ投ケシメ得ヘシト考ヘラル

(一) 本施設ノ妥當性

明治三十四、五年ノ頃在支日本軍憲青木中將、坂西少佐(今ノ中將)等カ竊カニ日露戰爭ノアルヘキヲ豫想シ

袁世凱（大總統）及段祺瑞（總理）等ニ對シ日支共同對露作戰方ヲ懲懲シ内ニハ桂、伊藤、兒玉等ノ爲政治家アリテ之ヲ支援シ又幸ニシテ袁、段ノ容ルル所トナリタル事實ニ顧ミ現在ノ日、支、露ノ關係ハ概ネ當時ニ似タルカ故ニ大體其ノ「ライン」ニ據ラムコトヲ期セリ元來本年三月十二日蘇、外蒙間ノ相互援助議定書發表セラルルヤ日本ノ輿論相當昂騰シ來リタルヲ見テ蔣介石、張群等ハ若シ此ノ事實ニ端ヲ發シテ何等厄介ナル事態ヲ日支間ニ醸スコトアラハ甚タ心外ナリト爲シテ吳震脩ヲ日本ニ簡派セムトシタリ吳ハ概ネ其ノ獨自ノ見地ヨリ日、支、露間ノ現狀ハ日露戰前ニ彷彿タルカ故ニ當時ノ日支諒解ニ似タル何等カノ合意成立ヲ必要トスル旨ヲ相當自信ヲ以テ蔣、張等ノ當路ニ主張セル經緯アリ又坂西中將カ七月一日蔣介石ニ對シ同様ノ話ヲ持出シ蔣ニ於テ日支兩國雙方ニ相當數ノ主戰論者若クハ好戰論者夫々現存シ事態仲々容易ナラサルヲ認識スルニ於テハ往年ノ袁、段ノ英斷ニ倣ヒ日本トノ間ニ對露軍事協定ヲ爲スノ用意ナキヤト直言セルニ蔣ハ大イニ其ノ決意アルカ故ニ日本朝野ノ有力者ニ對シ其ノ

旨ヲ言明セリ

尤モ右覺書ニ豫見シ居ル雙方軍務當局ニ於テ協定スヘキ事項ニ付テハ軍事協定ヲ遂クルノ要アルコト勿論ナリ即チ日支合意案第二條末段ニ於テ「……且ツ之カ爲要スルコトアルヘキ共同軍事行動ニ關シ指揮ノ統一、協同ノ圓滿ヲ期スル爲必要ナル事項ハ日、支軍務當局相互間ニ別ニ協定ス」トナセル所以ナリ

第三。本案ノ經過

一、東京ニ於ケル經過概要

(一) 外務側

五月十五日立案後同二十五日一時歸朝ノ途ニ就キ二十九日着京三十日先ツ川越大使ヲ湯ヶ原ニ訪ヒ本案ノ概要ヲ報告シタルニ同大使モ本案ノ成否ハ別トシ軍部ヲシテ茲ニ想ヲ致サシムル丈ケニテモ效果アレハ在京中各方面ニ當リ見ルヘキ旨ヲ述ヘラレ翌六月一日外務本省ニ於テ翌二日滿支旅行ニ出發ノ筈ナル桑嶋^{（桑嶋）}東亞局長ニ内示セルニ同局長ハ本案ハ趣旨意ニ結構ナルモ關東軍、天津軍ニ於テ本案ヲ容ルル時機ニハ達シ居ラサルヘシトノ觀察ナリキ

旨ヲ傳ヘラレ差支ナシト答ヘタル事實アリ要スルニ共同防共ハ持ツテ行キ様ニ依リテハ決シテ出來ヌ相談ニハアラサルヲ觀テ立案セルモノナリ

(二) 本覺書ヲ軍事協定トセサル理由

而シテ特ニ軍事協定ノ形ヲ避ケタルハ一ハ特政會設置ニ關スル合意案ノ附屬覺書ノ形式トスルコトニ依リ支那側ヲシテ大ナル「コミットメント」ヲ爲スモノニ非スト輕ク解釋セシメツツ實ハ覺書ナル形式ニ依リテ却ツテ國家間ノ政治的意味合アル大ナル約束トシ謂ハハ攻守同盟ニモ似タル所迄持チ行キ得ル形ト爲シタルモノニシテ他面若シ之ヲ軍事協定案トセンカ事統帥權ノ難問題ニモ觸レ來リ且ツハ支那側カ機會アラハ客年五月河北省ヲ撤退セシメラレタル中央軍ニ對シ假ニ少數部隊ニテモ其ノ駐屯ヲ回復セシメ度ク又延イテハ塘沽停戰協定特ニ所謂梅津、何應欽協定ノ廢棄ヲ熱望シ數度筆者ニ對シ右ノ内意ヲ陳ヘタル經緯ニ鑑ミ本件ヲ軍事協定トスルコトハ却ツテ或ハ支那側ノ術中ニ陥ルコトトモナルヘキヲ慮リタル結果ナリ（此ノ項ニ關シ喜多武官モ七月十六日筆者トノ會見ニ於テ全然同感ナル

同日有田大臣及堀内次官ニ同時ニ萬般報告ノ際ニ於テ本案ニ付報告説明セルニ在京中是非共軍部ヲ之ニテ纏メ見ルヘシトノコトナリキ

(二) 軍部側

越エテ三日陸軍省磯谷軍務局長、影佐、武藤兩中佐ニ午餐ニ招カレタル後特ニ影佐中佐ト詳細^{（詳細）}本案ニ付打合せタルニ同中佐ハ「本案ハ實ニ良キ智慧ナリ」ト大イニ贊同シ即日同中佐、太田事務官等トノ間ニ本案ハ爾後陸軍案トシテ押シ行クコトニ打合せタリ翌四日參謀本部ノ諸官ヲ往訪ノ際モ本案ニハ全然觸レサリシカ唯高橋中佐カ北支ニ對スル具體案ナキヤト頻リト質問シタルニ對シ極メテ大略ノ「アウト、ライン」様ノ話ヲ爲シ置キタリ

超エテ十一日西尾參謀次長以下各部長、課長其ノ他參謀本部關係各局課員列席ノ午餐ニ招カレ概略最近ノ南京政府動向ヲ説明ノ際ニ日支關係ハ詰メ將棋ニテ何時迄モ歩ヤ桂馬ノミヲ動カシ居リテモ抄取ラサレハモウ王手ヲ打ツヘキ時機ナルヲ而カモ其ノ王手ハ北支問題ニ對シテ爲サルヘキ旨ヲ婉曲ニ陳ヘテ暗ニ本案ノ如キ

モノ作成サレナハ實現絶望ニ非サル旨ヲ卒直ニ述ヘ置キタリ

海軍側ヲ六月六日訪問ノ際島田次長及高須軍令部第二部長等ニ對シ華北對策ノ重要ナル旨ヲ述ヘ唯本多大佐ニハ具體案作成ノ急務ナル所以ノミヲ述ヘ置キタリ而シテ六月十二日ニ至リ先ツ本案ハ在京軍部ノ幹部ノ關スル限り大シテ反對ナキヲ確メ其ノ旨ヲ外務大臣及次官ニ報告シテ歸任ノ途ニ就ケリ

(三) 廣田總理大臣

六月四日午後廣田總理大臣ニ對シ委曲本案ヲ説明セルニ大イニ喜ハレ贊意ヲ表サレタル而已ナラス之ニ依ル以外外交建直シノ方法無カルヘキニ付是非共之ニテ押シ行ク様殊ニ北支増兵ヲ廣田内閣力贊認セルハ此ノ種ノ押トナサムトシテ萬難ヲ排シテ斷行セル處ナレハ若シ諸般ノ都合上事務當局ニテ本案纏マラサレハ總理ニ於テ自カラ本案達成ノ辦法ヲ考ヘ見ルモ可ナリトサヘ申サレ居タルカ筆者ヨリ本案ハ關東、天津兩軍ノ立場及從來ノ趨嚮等ヨリセハ仲々容易ナラサル機微ナル問題ヲモ包含シ居レハ是非共軍部ノ事務案トシテ先ツ纏

メ置クコト必要ナルヘキニ付姑ク時ヲ藉サレ度キ旨ヲ答ヘ置キタリ

二、出先ニ於ケル經過概要

(一) 上海、南京ノ聯絡

本案ハ陸軍本省案トシテ達成ヲ期スル建前ナルコト前述ノ通り故六月十七日筆者着滬ノ後若杉參事官、堀内書記官等ニハ大體ノ經過ヲ話シタルモ當夜會同セル喜多武官及佐藤武官等ニハ態ト本案ニハ何等觸レサリシカ翌十八日着寧後中原、兩宮兩武官ニハ現地ノ武官ニモアリ大體ノ經過ヲ卒直ニ内話シ置キタリ(尤モ兩宮武官ニハ五月二十四日歸朝ノ爲出發前一寸觸レ置キタリ)

(二) 喜多武官意見ノ上申

六月三十日ニ至リ外務大臣ヨリ本案ハ其ノ後影佐中佐等ノ希望モアリ筆者ヨリ喜多武官ニ話シ同武官ノ意見トシテ陸軍本部ニ具申方取計フ様電報アリシカ喜多武官ハ當時北上中ナリシニ付七月三日夜北上セル兩宮武官ニ書類ヲ託シ右様喜多武官ニ傳言方ヲ依頼シ置キタルニ八日兩宮武官歸寧シ喜多武官ニ於テ全然本案ニ同

感ナルノミナラス北支ノ實狀ヲ親シク見聞セハスル程益々本案ノ效用ヲ痛感ス唯目下渡第二部長モ渡支中ナレハ本案具申ノ時機及方法ニ付考慮ヲ加ヘ見ルヘシトノ趣旨ノ傳言アリキ更ニ二十三日朝兩宮武官來訪喜多武官ハ十四日渡部長出發前本案ノ概略ヲ同部長ニ話シ同部長着京ノ頃ヲ見計ラヒ「部長ニ話シ濟ミ」トシテ概略電報スヘキ意嚮ナリトノコトナリキ

(三) 各地武官ノ意嚮

七月十日石井天津軍參謀及濱田少佐來訪ノ際石井中佐ハ例ヘハ今回韓復榘カ折角自發的ニ態度ヲ決セントシ居ルニ南京ニテ大使等カ過早ニ南京政府ト話ヲ進ムルコトハ北方工作ニ妨害トナル虞アリトノ觀方アリ(石野武官ノ觀測カ)ト申出タルニ依リ筆者ヨリ要ハ南北ニ於ケル各官憲ノ空氣ノ流通ヲ大イニ良クシ置クノ要アリ結局大使館ノ考ヘ居ル所モ北支軍務當局ノ考モ同様タルヘキ筈ニシテ大局上此ノ諒解タニアラハ韓復榘等カ南京政府ヲダシニシテ自己保身術ニ都合良キ辯ヲ爲シ居リ又南京政府ハ日本各官憲ノ間ヲ離間セントシツツアルニ氣付カス大使等帝國代表者ヨリハ寧ロ支那

軍閥ヲ過信スルカ如キ愚ハ之ヲ避ケサルヘカラスト陳ヘ今後ハ少クトモ大イニ南方ニ於ケル日本官憲ヲ充分信用サレ度シト強調シ兩宮武官モ同様趣旨ヲ提唱シ石井、濱田兩武官共諒解セルヤニ見受ケラレタリ

七月十三、十四日ノ兩日ニ亘リ白田、高橋、今井各武官來訪ノ際モ前項ト同様ノ趣旨殊ニ

(1) 南京政府モ日支關係ノ難局ヲ充分知悉シ來リ兎モ角

何トカ結末ヲ付ケ度キ熱意溢ルルモノアルカ故ニ之

ヲ機會トシテ引摺リ遣ルコトハ決シテ介石援助ヲ意

味スルモノニ非ス結局ハ大局上日本カ本來ノ立場ヲ

得元來ノ主張ヲ遂クル所以ナルコトハ大イニ玩味ヲ

要ス

(2) 英、米、獨、露、佛等カ支那ノ心臟ヲ射ルヘク專ラ

財政ニ經濟ニ萬般ニ積極的ニ活動シツツアルニ鑑ミ

日本ハ徒ラニ漁父ノ利ヲ提供スルノ愚ハ避クヘキコ

トヲ高潮シタリ

(四) 渡第二部長ノ意嚮ト喜多武官ノ上申

七月十六日上海ニ於テ喜多武官ヲ訪ヘルニ同武官ヨリ渡部長ニ本案ヲ話シタルニ其ノ責任上贊否ハ今ハ確言

シ難キモ今次支那視察ノ結果ニ徴スルモ寔ニ時宜ニ適スル具體案ナリト考ヘラルルニ付至急喜多武官ノ意見トシテ具申アリ度キモ右具申ノ方法ニ付テハ時節柄且ツ事柄ノ性質上絶対嚴秘ヲ保持シ得ル様十二分ニ注意方應答アリタルニ依リ宛カモ翌十七日離滬歸朝ノ高橋中佐ニ託送具申ノコトニ決定セリト述ヘ且ツ内情ハ兎モ角苟クモ大使附武官ノ意見トシテ提出スル爲ニハ大使ニ對シ前以テ御諒解ヲ得置クコト可然ト思考スルニ付同日(即チ十六日)中ニ大體ノ御話申上クル所存ナリト述ヘタリ

548

昭和11年6月20日 在漢口三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

華北での日本側武官會議に関するロイター通信の無根報道について

漢口 6月20日後発
本省 6月21日前着

第一五二號

貴電合第三八六號ニ關シ(路透通信ノ無根報道ニ關スル件)

昭和十一年六月二十二日

外務大臣 有田 八郎

在中華民國特命全權大使 川越 茂殿

(以下宛先省略)

時局委員會設立ニ關スル件

對北支政策竝ニ經濟、財政、交通等ニ關シ我方ヨリ北支諸政權ニ對シ爲スヘキ施策ニ付研究審議ヲナサシムル爲今般外務省内ニ時局委員會ヲ設置スルコトナレルニ付テハ委細左記ニ依リ御承知相成度此段申進ス

左記

一、設立ノ経緯

外交交渉及内面指導ニ關スル外務及陸軍側權限ニ關シテハ四月十七日附兩大臣間諒解事項竝ニ我方ヨリ冀察政務委員會ニ入ルヘキ外交顧問ノ地位ニ關スル兩省間話合等ノ次第アル處五月十五日陸軍省係官來省ノ上今般田代支那駐屯軍司令官ノ赴任ニ際シテハ軍ニ於テ本來ノ使命權限ヲ逸脱シ外交機關ノ所管ニ侵入スルカ如キコトナキ様十分指示シ置キタルカ北支ニ於テハ同地方ノ特殊ナル事態ニ鑑ミ冀察政權等ノ指導其ノ他ニ關聯シ一般對支政策ノ外財政、經濟、交通等各般ノ事項ニ付種々複雑且専門

十九日天津發路透ハ北支ニ於ケル武官會議ノ結果日本ハ山東ヲ半獨立ノ冀察政權ニ合体セシムル爲再ヒ威壓ヲ加フルコト並ニ冀察政務委員會ニ於テ更ニ多數ノ日本人顧問ヲ採用シ又華北ニ於ケル稅關ノ獨立ヲ計ルコトヲ強制セシムルコトニ決定セル旨報道シ二十日「セントラル、チャイナ、ポスト」ハ右通信ヲ「日本ハ山東ヲ半獨立政權タラシメントス」トノ表題ノ下ニ特別活字組ニテ掲載シ同日ノ漢口「ヘラルド」モ亦同様ノ記事ヲ掲載セリ

最近西南問題ニ關聯スル路透ノ報道振好マシカラサル節有之旁以上御參考迄

支、北平、在支各總領事ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

549

昭和11年6月22日 有田外務大臣より
在中国川越大使 在中国武藤大使館一
等書記官他宛

華北諸問題を検討審議するための時局委員會
設立につき通報

亞一機密合第一〇一六號

的ナル問題發生シ居リ此等ノ問題ニ付素人タル軍人カ余リ深入リスルハ面白カラサルニ付北支ニ於ケル經濟工作等ノ指導ヲ一元化スル爲冀ニ滿蒙實行策審議會ヲ設立セル例ニ倣ヒ北支經濟政策審議會ト云フカ如キモノヲ設立シ北支ニ於ケル經濟財政等ニ關スル一切ノ事項ハ右審議會ニ於テ決定シ、出先ニ訓令スルコトト致度旨述ヘタリ

仍テ當方係官ヨリ本審議會設立ノ趣旨ハ誠ニ結構ナルモ審議會ヲ設立スル以上、問題ヲ單ニ經濟指導ト云フカ如クニ局限セス北支ニ關スル一切ノ事項(統帥事項ハ別問題ナリ)ヲ本審議會ニ於テ研究審議スルコトトシ、出先ハ一切右決定ニ基キ行動スルコト竝ニ事ノ性質上右審議會ハ滿蒙實行策審議會ト異ナリ外務大臣ノ監督ニ屬スル諮問機關トスルコト可然キ旨述ヘ置キタル趣ノ處其ノ後審議會ノ名稱、權限、構成等ニ付兩省間ニ數次折衝ノ結果大体ノ成案ヲ得タルヲ以テ大藏省及海軍省側トモ相談ノ上其ノ同意ヲ得テ六月十九日別紙甲號ノ如キ設立要綱ノ決定ヲ見タリ(十九日招待會ニ於ケル本大臣ノ挨拶振ニ關シテハ別紙丙號參照)

三「時局委員會設立要綱」(別紙甲號)ニ關シ注意スヘキ事項左ノ通り

(1)要綱一、

北支政權ニ對スル我方ノ施策竝ニ北支政權自体ヲシテ執ラシムヘキ政策施設ハ事ノ性質(但シ統帥權ニ關スル事項ヲ除クコト勿論ノ儀ナリ)竝ニ發動ノ形式(交渉タルト内面指導タルトヲ問ハス)如何ヲ問ハス一切外務省ノ權限ナリトノ建前ニ依リ本委員會ハ飽ク迄外務省内ノ機關トセルコト

(2)要綱二、

時局委員會ニ於テ研究、審議、立案、上申ノ上外務大臣ノ決定(事ノ性質ニ依リテハ更ニ閣議決定ヲ經ルコトアルヘシ)ヲ經タル事項ニ關シテハ外務大臣ノ訓令トシテ出先外務機關ニ通達ノ上、同機關ヲシテ關係省出先機關ニ通報セシムルヲ原則トスルコト從ツテ委員會ノ審議ヲ經テ外務大臣ノ決定ヲ得タル事項ニ關シテハ軍中央部ヨリハ別ニ詳細ヲ訓令セス單ニ委員會ノ決定通りノ方針ニ依リ(委細外務電參照)ノ形式トス)措置スヘキ旨指示スルニ止ムルコト

(4)要綱備考

本委員會ノ設置ハ事ノ性質竝ニ機密保持上勅令ニ依ルコト困難ナルノミナラス外務及陸軍兩省間諒解事項(別紙乙號)トノ關係上閣議決定ヲ經ルコトモ機宜ニ適セスト認メラレタルニ付總理及關係大臣間ノミノ機密諒解ニ止メタリ

三「外務陸軍當局間諒解事項」(別紙乙號)ニ關シ注意スヘキ事項左ノ通り

(1)諒解事項一ハ内面指導ハ元來外務官憲ニ於テ行フヘキモノナルモ四月十七日附兩大臣間諒解事項ノ趣旨ニ依リ當分ノ間軍側ニ委託スルノ趣旨ナリ(軍側ニ依ル内面指導ノ事項カ外務官憲ニ依ル交渉事項ノ範圍ヲ出テサルコト勿論ナリ)

(2)諒解事項二ハ關係出先官憲ヲシテ行過キタル措置ニ出テサラシメントノ趣旨ヲ以テ念ノ爲記載セルモノナリ

(3)海軍及大藏側ニハ本諒解事項ヲ示シ居ラサルニ付右御含置相成度シ

本信宛先 支、北平、在支各總領事、廈門、香港

(3)要綱三、及四、
現在ノ委員及幹事左ノ通り

委員會

委員長 堀内外務次官

委員 外務省 桑島東亞局長

大藏省 賀屋理財局長

陸軍省 磯谷軍務局長

海軍省 豐田軍務局長

幹事會

幹事長 桑島東亞局長

幹事 外務省 上村東亞局第一課長(太田、曾禰事務官)

大藏省 湯本國庫課長(櫛田事務官)

陸軍省 町尻軍事課長(影佐中佐)

海軍省 保科軍務局第一課長(中村中佐)

追テ參謀本部及軍令部ニ關シテハ當初兩部ヨリモ委員及幹事ヲ參加セシムルコトナリ居タル處本委員會ノ性質上之ヲ取止メ本件ニ關スル兩部トノ聯絡ハ主トシテ軍務局側ニ於テ夫々内部的ニ之ニ當ルコトナレリ

甲 號

時局委員會設置ニ關スル件

昭和十一、六、十九、

要 綱

一、時局委員會ハ外務大臣ノ監督ニ屬スル祕密委員會トス

二、時局委員會(以下單ニ委員會ト稱ス)ハ我方ヨリ北支諸政權ニ對シニ經濟、財政、交通等ニ關シ我方ヨリ北支諸政權ニ對シテ爲スヘキ施策(北支政權側ヲシテ執ラシムヘキ政策施設ヲ含ム)ニ付研究、審議、立案、上申ス

三、委員會ノ構成ハ左ノ如クス

委員長 外務次官

委員 員 (局長級)

外務省 一

大藏省 一

陸軍省 一

海軍省 一

臨時委員 (局長級)

內閣及關係各省 各一

臨時委員ハ研究審議事項ノ性質ニ應シ委員長ノ召集ニ依

リ委員會ノ會議ニ出席ス
 四、委員會ニ附議スヘキ議案ノ準備及決議ノ整理等ヲ行フ爲
 左ノ幹事ヲ置ク

幹事長 外務省東亞局長
 幹事 (課長級)

外務省 一

大藏省 一

陸軍省 一

海軍省 一

右各官廳ヨリ必要ノ課員若干

臨時委員ノ出席ヲ要スル會談ノ準備ノ爲必要ト認メラレ
 タル場合ニ於テハ當該臨時委員所屬官廳ノ課長級ヲシテ
 幹事會ノ審議ニ參與セシムルコトヲ得

五、委員會及幹事會ニ關スル庶務ハ外務省東亞局ニ於テ處理
 ス

六、委員會及幹事會ハ各々其ノ長ノ召集ニ依リ隨時適當ノ場
 所ニ於テ會議ヲ開催ス

備考

本委員會ノ設置ハ總理及關係大臣間ノ機密諒解事項ニ

旨ニ基クモノテアリマシテ本委員會設立ノ結果、從前ノ
 會合ハ取止メトナルト云フ譯テハナイノテアリマスカラ、
 從前ノ會合ハ從前ノ會合トシテ此ノ上共頻繁ニ會合セラ
 レ、國策ノ決定ニ寄與セラレンコトヲ切望スルモノテア
 リマス。但北支ニ於キマシテハ御承知ノ通り同地方ノ特
 殊ナル事態ニ鑑ミ北支政權ノ指導其ノ他ニ關聯シ一般對
 支政策ノ外、財政、經濟、交通等各般ノ事項ニ付種々複
 雜且専門的ナル問題カアルノテアリマスカラ、中央ニ關
 係各省係官ヨリ成ル一ノシツカリシタ委員會ヲ設ケ、北
 支ニ於ケル此等一切ノ問題ニ付研究審議ヲ遂ケシメ、之
 ニ基キ關係省一致ノ確固タル方針ヲ決定シ仍ツテ北支ニ
 於ケル出先官憲ノ工作ニ指針ヲ與フルコトカ特ニ緊要カ
 ト存スルノテアリマス。就キマシテハ本委員會設立ノ主
 旨ヲ充分御酌取ノ上本委員會ヲシテ其ノ目的ヲ達成セシ
 ムル様御盡力ノ程ヲ御願スル次第デアリマス。

~~~~~

昭和11年6月23日 在南京須磨總領事より  
 有田外務大臣宛(電報)

中国側には華北諸問題の調整に責任をもって当

止ムルモノトス

丙 號

時局委員會關係者招待會ニ於ケル有田大臣ノ挨拶案  
 本夕ハ今般新ニ設置セラルルコトナリマシタ時局委員  
 會ノ委員及幹事タルヘキ方々ヲ御招キ致シマシタ所御多  
 忙中ニモ拘ラス多數ノ御出席ヲ得マシタコトハ私ノ誠ニ  
 欣快トスル所デアリマス

二、外交ノ問題ニ關シマシテハ從來共關係省ト充分聯絡ノ上、  
 施策上遺憾ナキヲ期シテ參ツタノデアリマスカ、特ニ支  
 那ノ問題ニ關シマシテハ先年來陸海外務三省間ニ一般對  
 支政策決定ノ經緯カアリマスル外大藏及陸海軍各省支那  
 關係係官ニ於カレテハ四局二部長會議或ハ六課長會議等  
 ノ形ニ依リ毎週定期的ニ會合セラレ隔意ナキ意見ノ交換  
 ヲナシテ居ラルルノデアリマシテ、此ノ種會合ハ對支方  
 策ノ一元化並ニ其ノ統一アル運用ヲ期スル上ニ於テ誠ニ  
 必要缺クヘカラサルモノト信スルノデアリマス。

三、今回新設セラレマシタ時局委員會ナルモノモ從前ノ會合  
 ト同様關係省相互間ノ聯絡ヲ一層密接ナラシメントノ主

たる人物がおらず具体案作成は困難の観測報告

南京 本省 6月23日夜着

第四五三號(極秘)

南京政府ハ西南問題モアリ北支問題解決ニ關シ一向纏マラ  
 サル次第ハ本官歸任後要人トノ會談ニ依リテモ御承知ノ通  
 ナルカ蔣介石ハ約二週間前行政院會ノ際對日外交ハ軍人出  
 身タル張群ノミニテハ如何ニモ手ニ餘リ又事實日支問題ニ  
 ハ經濟問題モ重要ニ付今後張公權、吳鼎昌、孔祥熙等ニ於  
 テモ對日問題ニ付張群ノ相談相手ナル様申渡シ結果最近  
 寄々協議セル如キモ誰モ自ラ責任ヲ以テ中心トナリ具體案  
 ノ作成ヲ爲ス者無キカ如ク現ニ本二十三(前)日吳震修カ本官ニ  
 内話セル所ニ依レハ吳カ先般張群ニ對シ支那カ例ヘハ英國  
 ナラハ滿洲國ハ分立セル米國ニモ等シキ所

今ノ所右獨立問題ハ暫ク措クトスルモ此ノ儘ニテハ北支モ  
 其ノ版圖ニ入ルノ俱アリ旁英本國ニ當ル支那ハ北支ニ歷ト  
 シタル代表ヲ派シ之ヲ加奈陀ラシムル決意ナカルヘカラ  
 スト說ケルモ張群ハ未タニ所謂根本解決ノ如キ出來モセヌ  
 夢ヲ辿リ當面ノ責任ヲ逃レントシ居ル爲体ナル趣ノ處本二

十三日何應欽ハ本官ニ對シ日本軍部ハ内蒙獨立ニ關シ德王ヲ壓迫シ居ル次第ヲ德王代表來寧シテ逐一報告シ居リ又李守伸<sup>(1)</sup>カ察哈爾六縣ヲ手ニ入レ居ル次第アリ之ト密輸、冀東政府等ノ問題ヲ併セ考フレハ所謂北支問題モ容易ニアラス實ノ所支那側ハ具体案ノ作成ニ窮シ居レリト語レリ  
支、北平、天津へ轉電セリ

551 昭和11年6月29日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

華北に赴き諸問題の調整に当たるよう王克敏を鞭撻について

上海 6月29日後発  
本省 6月29日後着

### 第五〇三號

廿七日王克敏來訪セルカ會談要領御參考迄左ノ通

一王ハ日支關係調整ノ必要就中北支ノ難局打開ノ急務ナル次第ヲ述ヘタルニ付本使ヨリ同感ノ旨ヲ答ヘ私見トシテ局面ノ打開ニハ經濟方面ノ連絡提携ヨリ着手スルカ有利ナルコト特ニ日本トノ關係密接ナル北支方面ヨリ開始ス

ニ言及シ密輸問題ノ對策ニ付本使ノ意見ヲ求メタルニ付本使ハ本問題ハ先ツ其ノ發生ノ原因タル

(一)支那ノ高率關稅

(二)密輸取締ニ對スル北支地方當局ノ態度(關稅收入ニ對スル無關心ノ點ヲ指摘ス)

等ニ付研究ノ上之カ是正ノ必要アルヘク其ノ上ニテ支那側カ日本側ト何等相談スルコトアラハ我方モ相談ニ應スルニ吝ナラサルヘシト告ケタルニ王ハ稅率ヲ或程度ニ引下クルモ必スシモ減收ヲ來ササル方法アル旨及北支ノ關稅收入ハ國債償還引當其ノ他必要ナル支出ヲ差引キ純益約六百萬元位(民國二十三年)アル勘定ナリ此ノ中相當額ヲ中央ヨリ北支ニ提供スルコトセハ地方當局ノ密輸取締ニ對スル態度モ是正セラルヘシト語レリ

三、次テ王ハ宋哲元ヨリノ北上勸説及六月十三日蔣介石ヨリ北支ノ難局ニ鑑ミ暫ク北上ヲ見合ハスヘキ旨來電アリタル點等往電第四八四號ト略同様ノ話ヲ爲シタル上本使ノ意見ヲ求メタルニ付本使ハ斯界ノ經驗者ニシテ北支ニ縁故深キ貴下ノ出馬ハ至極結構ナリトテ贊意ヲ表シタル上唯之カ決定ニ先立チ

ル必要アル旨ヲ告ケタルニ

二、王ハ北支ニ於ケル經濟的開發事業ノ有望ナルコト及之カ提携可能ノ次第ヲ述ヘタル上經濟開發ニハ先ツ財政ノ整理ト政情ノ安定カ先決問題ナルコト財政ノ整理ヲ完全ニ行フヲ得ハ冀察兩省ニテ關稅ヲ別トシ二千萬乃至二千五百萬元位ノ餘裕ヲ生ミ出スコト必スシモ困難ナラス之ヲ以テ經濟開發ノ資金ニ充當シ得ヘシトノ趣旨ヲ述ヘ尙財政整理ノ實行ハ到底宋哲元ニ於テ擔當ノ能力無キニ付專門家ニ擔當セシムル必要アル旨ヲ語リ居レリ

三、右ニ對シ本使ハ支那ノ經濟開發ニ對シ先ツ外資輸入ノ必要ヲ説クモノアル處夫レヨリモ先ツ支那ノ不足トスル

(イ)技術

(ロ)事業ノ經營管理

(ハ)優秀ナル材料ノ供給

ニ對シ手近ナル日本ノ援助ヲ求ムルコト兩國ノ爲利益ナルヘク特ニ北支ニ於テ之カ實現ノ必要アル次第ヲ告ケ尙北支ノ財政整理ニハ特ニ軍費ノ節減カ急務ナル旨附言セルニ王ハ同感ノ意ヲ表セリ

四、次テ王ハ經濟開發ノ前提トシテ政情ノ安定カ必要ナル點

(一)主管事項ニ對スル北支軍閥方面ノ干渉ヲ避クルコト

(二)南京政府ノ干渉ヲ避ケ自主專行ノ權限ヲ得ルコト

(三)日本側ノ了解援助ヲ得ルコト特ニ北支ニ關係深キ日本軍部側トノ聯絡了解力必要ナルヘキコト

以上三ツノ條件カ滿タサル様努力ノ必要アルヘキ旨私見トシテ告ケタルニ王ハ右

(一)ニ付テハ宋哲元ト豫メ打合ヲ遂クヘク

(二)ハ既往ニ於テモ南京政府ハ北支ニ對シ充分ノ干渉ハ不可能ナル狀態ニ付或程度ノ相談ハ出來得ヘキモ尙疑問ノ餘地アリ

(三)ハ篤ト關係日本軍部側ノ意嚮ヲ確メ見ルヘク唯日本政府トシテ何ノ程度迄援助シ吳ルルヤハ疑問ノ餘地アルヘシ

ト述ヘタルニ付本使ハ日本側ノ援助程度ハ(一)及(二)ノ條件決定如何ト因果關係ニアルヘシト答ヘタルニ王ハ之ヲ諒トシ兎ニ角充分考慮ノ上善處スヘシト答ヘタリ

北平、天津、濟南、青島、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

552

昭和11年7月(5)日

在天津田尻総領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

# 天津市長更迭問題解決後における冀察政務委員会の内面指導につき意見具申

天津

発

本省 7月5日夜着

## 第二七五號(極秘)

天津市長問題解決ヲ機トシ冀東及冀察ニ對スル工作ヲ逐次軌道ニ乗セルヲ要スル處諸般ノ情勢モ次第ニ右様展開シツツアリ又軍ニ於テモ冀東ハ勿論冀察ヲ堅實ニ守立テル肚ニテ冀東關係者ノ不羈ナル陰謀ヲ抑壓スル一方過般ノ豐臺事件處理ニ當ツテモ事件ヲ過大ニ取扱ハントスル策動ニ對シ慎重ナル用意ヲ以テ臨ミ居ルモノト認メラルル處不取敢冀察指導ニ關シテハ從來蕭振瀛ノ場合ノ如ク張自忠ヲ通シ總テノ問題ヲ取扱フコトハ得策ナラス又張ハ其ノ人物ニアラサルヲ以テ自然當地ニ於ケル工作ハ市政府及二十九軍關係事項ニ限ラレ大部分ノ重要問題ハ北平ニ於テ顧問ヲ通シ處理スルコトトナルヘキ處宋哲元ノ人物、識見、力量等ヲ考フルニ今後ノ内面指導ニハ宋ト我方最高顧問トノ間ニ支那

## 側決定の情報について

天津

7月6日前発

本省 7月6日後着

## 第二七七號

## 本官發南京宛電報

## 第一九號(部外極秘)

確實ナル内報ニ依レハ關東軍ハ山海關ニアル特務機關ヲシテ長城線關係事項ヲ處理セシムルモ冀東及冀察ノ指導ニ付テハ天津軍ヨリ特ニ依頼ナキ限り一切干與(セ)ス又冀東ノ指導機關カ天津軍ノ管下ニ入り通州駐在トナリシコト等ニ關シテハ先般貴地ニテ話合ヒタル通ナルカ右ニ付板垣參謀長ハ異。見ハアルモ命令トアラハ致方ナシトテ綺麗サツパリト諦メタル由ニテ今次ノ天津會議ニモ關東軍ヨリ何人モ參加セシメ居ラス尤モ内蒙工作ニ關シテハ天津軍カ綏遠ノ對漢民族工作ヲ切離シ分擔スル建前ハ種々障礙アルヲ以テ兩軍間ノ話合ニテ綏遠ハ總テ關東軍ニテ負擔スル様改訂方中央ニ稟請中ナル由ナリ(影佐ノ後任タル園田ハ今回内蒙實地視察ノ筈ナルカ武藤ノ二課長就任ト相俟テ内蒙工作振ニモ多少ノ變化ヲ期待セラレサルニアラス)以上ハ未タ原則

側緩衝的人物ヲ置キ風當リヲ緩和スルノ要モアルヘク

政務委員會及各分科會ノ内容ヲ整備シ民衆ノ首肯シ信賴シ得ル人物ヲ集メ尠クトモ表面上立案實施ニ付支那側ヲ主トスルカ如キ仕組ト爲ス要モアルヘク又我方トシテハ天津軍カ今後ハ寧ロ立案指令機關トナリ一切ノ工作カ顧問ノ手ヲ通シ實施セラルヘキコトナルニ鑑ミ北平ニ於ケル我方機關ハ軍ノミナラス外務省側ノ人選モ餘程慎重ナルヲ要スヘク思料セラレ當方ノ關スル限り右様心組ニテ軍トモ聯絡ニ努メ居ル次第ナリ尙蕭ノ罷免事情等今日迄ノ當方面ニ於ケル機微ナル内部情勢ノ委細ハ東亞局長ニテ御承知ニ付電報ヲ差控フルモ右内情及前述ノ如キ今後ノ事態ニ備フル爲外務省側カ當地ニ於ケル立案及北平ニ於ケル顧問ノ工作ニ相當喰込ミ得ル様陣容強化ノ必要ヲ痛感スル次第ニテ右ニ付テハ別途具體的ニ卑見ヲ上申致ス考ナリ

553

昭和11年7月6日

在天津田尻総領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員會および冀東政權への指導は支那駐屯軍に任せ關東軍は関与しない方針を軍

的ノモノニ止マリ之ヲ以テ直ニ兩軍間ノ現實ノ關係ト即斷シ難カルヘキモ不取敢御參考迄(本省ニ於ケル本電回覽ハ東亞局限リトセラレ度シ)  
大臣、支、北平へ轉電セリ

554

昭和11年7月6日

在天津田尻総領事代理より  
有田外務大臣宛(電報)

華北安定のため國民政府中央を利用していく  
ことで天津におけるわが方武官会合の意見一  
致について

天津 7月6日後発

本省 7月6日夜着

## 第二七八號(極秘)

北支安定實現ノ爲南京政府ヲ利用スルノ件ニ關シテハ今次ノ天津會議(特務機關ハ滯津中ノ和知ノ外ハ出席セス)ニ於テ意見交換アリシ處結局軍トシテハ北支ハ原則トシテ現地ニ於テ安定ニ努ムヘク從テ南京ノ勢力カ清濁併セ侵入シ北支工作ヲ骨抜キニシ又ハ阻害スルカ如キ事態ニ立入ルコトハ到底堪ヘ難キモ害毒ノ方強カラサル限り南京ヲ利用シ其

ノ間繋リヲ生スルモ別ニ阻止スルニモ當ラサルヘシトノ大體ノ意見ナル由ニテ目下ノ所本官トシテハ右以上ニ突進ミタル話合ヲ態ト差控ヘ居ル次第ナルカ委細ハ大使館側ニ於テ喜多武官等ヨリ御聽取相成リ當方ニ於テ心懸ケ置クヘキ點モアラハ御回示相煩度シ

支、南京、北平、青島、濟南へ轉電セリ

555 昭和11年7月7日 在天津田尻總領事代理より 有田外務大臣宛(電報)

天津における武官会合では「北支處理要綱」の再検討が叫ばれており今後も事ごとに強硬意見の台頭が予想される旨報告

天津 7月7日夜着 本省 7月7日夜着

第二八〇號(部外極秘)  
往電第二七八號ニ關シ

七日南下出發前喜多武官ノ内話ニ依レハ豫想外ノ全面的形勢ノ大變化アル場合ハ別トシテ目下ノ情勢ニ於テ北支ノ安定開發ニ南京ノ勢力資本ヲ利用シ冀東ノ如キモ速ニ取消ス

ハレ度シ)

支、北平、南京、青島、濟南へ轉電セリ

556 昭和11年7月7日 有田外務大臣より 在天津田尻總領事代理、在中國武藤大使館一等書記官宛(電報)

王克敏北上の際は同人の意見を十分尊重し自由ニ手腕を發揮せしめるよう宋哲元へ嚴重申入れ方訓令

本省 7月7日発

合第五三三號

支發本大臣宛電報第四八四號及第五〇三號ニ關シ  
王克敏ノ北上ハ天津軍側ノ強キ希望ニ基クコト御承知ノ通ナルノミナラス冒頭來電等ニ依レハ今次北上ニ當リテハ王ニモ相當ノ抱負アルモノノ如ク旁々今後王ヲシテ北支ニ於テ充分其ノ手腕ヲ振ハシムルコトハ冀察政權ノ現狀打開延イテハ北支ノ明朗化ヲ期スル上ニ於テ緊要ノコトト認メラレタルニ付軍側トモ打合ノ上貴官(北平又ハ天津)及田代軍司令官ヲシテ此ノ際改メテ宋哲元ニ對シ口頭ヲ以テ「我方

ヲ可トシ又當方ニ於テ更ニ事變ヲ起ササルハ勿論獨立ニ導クカ如キ行動ヲ慎シムヲ要スル等右様系統ノ意見ニ對シ軍司令官、參謀長共充分ノ理解アリ慎重措置方意見ノ合致ヲ見タルモ若手ノ方ハ容易ニ承服セサル者アリ相當激論モシタルカ要スルニ右ハ北支處理要綱中ニ北支ノ獨立ヲ認ムル考ト之ニ反スル解釋ヲ爲ス餘地アル自治ノ完成ナル考ト一見矛盾セルモノアルコトモ一因ナルニ付右要綱ヲ再検討スル要アル旨意見出テタル由ナリ

冒頭往電ハ參謀長ノ内話ナルカ既ニ多少強硬意見ヲ組入レアル事實及南京宛往電第一九號ノ次第アルモ實際ニハ當地ト關東軍強硬派トノ間ニ猶根強キ思想的聯絡絶エスト想像セラレサルニアラサル事態並ニ宋哲元カ一介ノ軍閥ニ過キス冀察ノ内容カ殆ト空虚ニシテ今日迄治安關係ノ外ハ實質的改善ノ見ルヘキモノナク又早急ニ指導對處ノ方法モナキ現狀(武官モ之ニハ驚キ居リシ模様ナリ)等ニ鑑ミ將來具體的問題起ル毎ニ強硬意見ノ擡頭豫想セラルル實情ナルニ付外務省側ヨリ時局收拾意見ノ開示等ニ當リテモ此ノ上トモ慎重ヲ期スル要アリト思考セラルル御參考迄

(本電配布先御注意アリタク尙出先各館ニ於テモ慎重取扱

ニ於テハ王克敏ノ經綸ニ對シ多大ノ期待ヲ有スル次第ニ付王北上ノ上ハ其ノ意見ヲ十分尊重スルト共ニ同人ヲシテ自由ニ其ノ手腕ヲ發揮セシメ得ル様二十九軍及冀察政權ノ内容ニ必要ノ改革ヲ加ヘ以テ北支明朗化ニ關スル我方ノ期待ニ副フヘキ旨嚴重申入ヲナサシムルコトセルニ就テハ軍側出先トモ打合ノ上右可然ク御取計相成度シ

追テ當方ニ於テハ右申入ノ頃ヲ見計ヒ本電ノ内容ヲ適當外部ニ宣傳致度キ所存ニ付右御含置ヲ乞フ

軍側ヨリモ軍司令官ニ對シ本電ト同様ノ趣旨ヲ訓電セリ  
本電宛先 北平、天津  
支、南京、濟南、青島ニ轉電セリ

557 昭和11年7月31日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

宋哲元、韓復榘、閻錫山の動向および蒋介石の華北対策等に関する情報について

南京 7月31日後発 本省 7月31日夜着

第五四七號

最近宋哲元、韓復榘、閻錫山等ヨリ行政院ニ對スル報告ヲ綜合シタル所ナリトテ同院消息通ノ内話スル所左ノ通

一、宋哲元部下ニハ既ニ三派アリテ相抗争シ居リ特ニ張自忠、劉汝明等カ羽振良キニ嫌ラサル趙登禹並ニ馮治安ノ如キハ宋ニ反抗スル意味合ヨリ心ニモナキ反日態度ヲ執リ二十九軍部下ヲ操リ居ル爲何時如何ナル事件勃發スルヤモ測ラレサル一方元來宋哲元ノ兵力ニハ閻錫山モ韓復榘モ相當手ヲ焼キ殊ニ嘗テ韓ノ麾下ノ旅長タリシ張自忠カ最近兎角韓ニ反對スル爲閻、韓等ハ日本ヨリモ寧ロ宋ノ兵力ヲ危惧シ居ル模様ナリ

二、閻ハ元來日本トハ惡カラサルモ共產軍問題ニテ陳誠麾下ノ五師北上以來蔣介石ハ閻ニ對シ日本カ山西、綏遠ニ手ヲ出ストキハ即チ對日交渉絶望ノ時機ナリトシ閻ニ於テハ如何ナル事態アルモ一切日本側トノ接觸ヲ避クヘキ旨嚴命ヲ發シ居レリ

三、韓ハ山東ハ山西トハ趣ヲ異ニシ將來日本側ト關係ヲ生スルヲ免レ難カルヘキヲ懸念シ蔣ノ山西ニ對スル前記對策ヲ參考シ

最近屢行政院ニ信書ヲ送り華北ノ現状ハ危險千萬ナル旨

#### 使館付武官の内話情報について

付記 昭和十一年八月三日付移牒、在中國喜多(誠一)

大使館付武官より西尾(寿造)參謀次長宛電報

永見支那駐屯軍參謀長内示の華北開發六項目

に関する王克敏内話

上海 8月5日後発

本省 8月5日夜着

#### 第六一四號(極秘扱)

往電第五九四號ニ關シ喜多武官内報左ノ通

一、王克敏ハ張群ノ招請ニ依リ二日赴寧(王ヨリ意嚮ヲ聞キタルニ對シ喜多武官ハ成ルヘク多クノ權限ヲ取ル爲張群等ヲ説得スルコト然ルヘキ旨答ヘタル由)三日長時間ニ亘リ張群ト會談シタルカ(吳震脩同席)張ハ自分ハ南京トシテハ永見參謀長提示ノ大綱ハ何ウシテモ認メサルヘカラスト考ヘ居リ北支收拾ノ爲ニハ戰ヲ賭シテモ盡力スル積リナリトテ至急北上ヲ促シタルニ對シ王ハ北上ニ先立チ自分ノ權限ニ付充分研究ノ上南京側ノ了解ヲ得ル必要モアリ蕭振瀛等二十九軍系ノ自分ニ對スル反對ニ對シテモ準備ヲ要スヘク又廣西側カ反中央態度ヲ明カニセル爲

ヲ強調シ早ク具體的辦法ヲ以テ解決スルノ必要アルヲ唱ヘ極メテ最近袁良及殷同ヨリ同様ノ趣旨ヲ申出テシメタル經緯アリ其ノ度毎ニ韓ハ日本ヨリモ宋哲元ノ今後ノ出方ニ注意ヲ要スヘキ旨ヲ述ヘ河北省ヨリ兵力ヲ除キ保安隊ヲ以テ治安維持ニ當ラシムルモ可ナルヘシトノ意見ヲスラ洩ラシ宋麾下ノ裁兵ヲ主張シ居レリ

四、ヲ要スルニ蔣介石ハ山東ハ機微ナル關係モアリ何トモ手ヲ出シ難キカ山西ニ付テハ飽迄頑張ル心組ラシク綏遠モ出來得ル限り日本勢力ノ伸張ニ反抗セシメ度ク現ニ十八日阿拉善旗、<sup>(蒙)</sup>敕濟納旗ニ對シ日人入境拒否ノ嚴命ヲ發シ居レルカ左リトテ韓ノ所謂對日具體辦法ヲ得ルニモ至ラス日本ノ出方ヲ見テ徐ロニ對策ヲ決セントシ最近北支増兵以來日本側ノ態度却テ平靜ニ過キ其ノ中何事力起ルニアラスヤト懸念シ居ルモノノ如シ

支、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

558

昭和十一年 8月5日

在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

王克敏北上問題への張群対応振りなど喜多大

宋哲元、韓復榘側ノ動キモ注意ノ要アリ旁此ノ際早急北上ハ考物ナリトテ自重ノ態度ヲ示セルカ其ノ間蔣介石ヨリモ廣東へ出發前廬山ニ來ル様電報アリタルモ王ハ北方ノ問題ニ付テハ更ニ熟慮ヲ要スルモノアリトテ婉曲ニ斷リタルカ右ハ蔣介石、張群等ニ於テ北支收拾ヲ急キ居ル氣配ナレハ王トシテハ餘リ急カサル態度ヲ示シ出來得ル限り多クノ權限ヲ得ントノ考ニ基ク次第ナリト述ヘ居タル趣ナリ

二、其ノ節王ハ北支問題ニ付南京部内ニ於テ張群等ハ之カ收拾ノ衝ニ當ラントシ居ル處此ノ間孔祥熙等ハ財政、經濟問題等ハ自分カ責任者ナレハ自分ノ手ヲ解決スヘシトノ態度ヲ持シ居リ兩者ニ對スル接洽振如何ハ頗ル機微ナル關係ヲ生スヘキニ付充分注意ノ要アリト述ヘ居タル趣ナリ

三、冒頭往電王ニ於テ北上シ具體案ヲ見タル上權限ヲ取付クル爲再ヒ南京ニ行クコトニ付テハ司令官ヨリ差支ナキ旨返電アリ武官ヨリ之ヲ王ニ傳ヘ置キタル趣ナリ(右ノ外右往電武官、王克敏會談ノ節王ヨリ具體案ヲ研究シテ到底引受け難シト考フルトキハ手ヲ引クコトニ付テモ豫メ

司令官ノ了解ヲ求メ居タルカ右ニ對シテモ同様差支ナシ  
ト返電アリ王ニ之ヲ傳ヘタル由

北平、南京、天津、青島、濟南へ轉電シ上海へ轉報セリ

## (付記)

上海 發

參謀本部 着

北支經濟開發ニ關スル王克敏ノ談

過般北上ノ際永見參謀長ヨリ内示セラレタル北支開發ニ關  
スル六項目中關稅率ノ低下、一般稅收冀察使用、塩制整理、  
産業開發等四項目實施可能ノ見込アルヘキモ金融ノ確立外  
債基金維持費ヲ控除セル關稅收入ノ接收ハ相當困難ナル一  
問題ナリ即チ北支金融確立ノ爲ニハ發券準備金區分ニ從ヒ  
三分ノ二ノ準備金ヲ海外ニ保持スルヲ要スヘキモ北支ノ現  
狀ハ之ヲ許ササルヲ以テ南京側ヨリ右在外準備金ノ幾分か  
ヲ配當セシメサルヘカラス此點頗ル至難ナル問題ナリ又關  
稅ニ關シテハ内債基金ヲ否認スルコトハ一般民衆ノ反感ヲ  
招キ影響大ナルモノアレハ何人モ同意セサルヘシ予個人ト  
シテハ寧ロ内債外債等ノ區分内容ニ觸ルルコトナク北支海

關收入中ヨリ内債基金ニ相當スル金額(例へハ月百五十萬  
元)ヲ確實ニ取得スル様工作スルヲ妥當ト考ヘアリ云々ト  
右取敢ス

559 昭和11年8月12日 有田外務大臣より  
在中国川越大使、在滿州國植田大使他宛

## 「第二次北支處理要綱」につき通報

亞一機密合第一三八九號

昭和拾壹年八月拾貳日

外務大臣 有田 八郎

在中華民國特命全權大使 川越 茂殿

「第二次北支處理要綱」ニ關スル件

一月十三日決定「北支處理要綱」ニ關シテハ曩ニ通報ノ次  
第アル處今般八月十二日附亞一機密合第一三八七號公信  
「對支實行策」ト關聯シ右ト同様ノ手續ヲ經テ、別紙「第  
二次北支處理要綱」竝ニ同附錄ノ決定ヲ見タルニ付テハ委  
細右ニ依リ御承知相成度此段申進ス

本信宛先 支、北平、在支各總領事(成都ヲ除ク)、厦門、

張家口、滿

## (別紙)

### 第二次北支處理要綱

(昭和十一年八月十一日關係諸省間決定)

## 方針

一、北支處理ノ主眼ハ北支民衆ヲ本位トスル分治政治ノ完成  
ヲ援助シ該地域ニ確固タル防共親日滿ノ地帶ヲ建設セシ  
メ併セテ國防資源ノ獲得竝ニ交通施設ノ擴充ニ資シ以テ  
一ハ蘇國ノ侵寇ニ備ヘ一ハ日滿支三國提携共助實現ノ基  
礎ヲラシムルニ在リ

二、右目的達成ノ爲ニハ該地政權ニ對スル内面指導ニ依ルト  
共ニ之ト併行シ南京政權ヲシテ北支ノ特殊性ヲ確認シ北  
支ノ分治ヲ牽制スルガ如キ措施ヲナサズ進ムデ北支政權  
ニ對シ特殊且包括的ナル分治ノ權限ヲ賦與セシムル様施  
策スルモノトス

## 要綱

### 一、分治ノ内容

分治ノ内容ハ前記方針ニ基キ北支政權ヲシテ財政産業交  
通等諸般ノ事項ニ付實質上ノ權限ヲ行使セシメ北支民衆

ノ安居樂業竝ニ日滿支三國ノ提携共助ヲ目的トスル政治  
上及經濟上各般ノ措施ニ關シ南京政權其ノ他ノ排日的工  
作ニヨリ影響ヲ受ケザルガ如キ狀態ニ在ラシムルヲ以テ  
目途トス。特ニ該地域ニ於ケル支那領土權ヲ否認シ又ハ  
南京政權ヨリ離脫セル獨立國家ヲ育成シ或ハ滿洲國ノ延  
長ヲ具現スルヲ以テ帝國ノ目的タルガ如ク解セラルル行  
動ハ嚴ニ之ヲ避クルヲ要ス

### 二、分治ノ地域

分治ノ地域ハ窮極ニ於テ北支五省ヲ目途トスルモ徒ニ地  
域ノ擴大ニ焦慮スルハ却テ我方所期ノ目的ヲ達スル所以  
ニ非ザルヲ以テ先ヅ冀察二省ノ明朗化(經濟ノ開發及民  
心ノ安定)ト分治ノ完成トニ主力ヲ傾倒ス。尙爾他三省  
ニ對シテハ第五項ニ基キ施策スルモノトス。

### 三、冀察政權ノ指導

冀察政權ノ指導ニ當リテハ最モ公明ナル態度ヲ以テ臨ミ  
該政權ノ機構ヲ改善シ其ノ人的淨化刷新ヲ計ルト共ニ特  
ニ財政、經濟、軍事等百般ノ事總テ軍閥的稅政ヲ清算シ  
テ明朗ナル地域ヲ構成シ民心ノ把握ニ努メシムルヲ要ス  
右内面指導ト共ニ南京政權ニ對スル工作ニ依リ同政權ヲ

シテ帝國ノ對北支政策ニ協力セシムル如ク施策スル等南京政權利用策ヲモ併用シ兩々相俟ツテ成果ノ向上ニ努ムルヲ要ス

#### 四、冀東自治政府ノ指導

冀東自治政府ノ指導ニ當リテハ特ニ其ノ內政ノ向上ニ努メシメ同政權ヲシテ冀察政權ニ對スル範タラシムルニ着意スルヲ要スルモ同時ニ冀東自治政府ハ結局單獨ニ存立シ得ザルモノナル點ヲモ考慮ニ容レ北支五省分治結成ノ障害トナルガ如キ施策ハ之ヲナサザルヲ要ス

冀察政權ノ分治機能信賴スルニ足ルニ至ラバ冀東地域ハ之ヲ冀察政權下ノ特別區トシテ同政權ニ合流セシムルモノトス

#### 五、山東、山西及綏遠諸政權ノ指導

山東ニ對シ強ヒテ之ヲ冀察側ニ合流セシムルカ如キ工作ヲ行フハ却テ其ノ對日依存ヲ困難ナラシメ延テ其ノ存在ヲモ危クスルノ惧多キヲ以テ之ヲ慎ミ防共親日及日滿支經濟提携ヲ主眼トスル諸般ノ工作ニ依リ帝國トノ聯帶關係ヲ一層密接ナラシムルコト竝ニ成ルヘク南京政權其ノ他ノ妨害ヲ排除シテ將來ノ分治ヲ容易ナラシムルコトニ

着意シテ之ヲ指導スルモノトス。

山西及綏遠ニ關シテハ右ニ準ス。而シテ此等兩政權ニ對スル指導ハ內蒙工作トノ調和ヲ必要トスルコト勿論ナルモ同時ニ對支政策ノ圓滿ナル遂行ニ留意シ該省政權ヲ驅逐シ又ハ之ヲ內蒙政權ニ隸屬セシムルカ如キ施策ハ之ヲ行ハサルモノトス

六、北支經濟開發ハ民間資本ノ自由進出ヲ本旨トスル我方權益ノ伸暢ニ依リ日支人ノ一致セル經濟的利益ヲ基礎トスル日支不可分ノ事態ヲ構成シ、平戰兩時ニ於ケル北支ノ親日態度保持ニ資セシムルヲ以テ目的トス特ニ國防上必要ナル軍需資源(鐵、石炭、鹽等)ノ開發竝ニ之ニ關聯スル交通電力等ノ施設ハ要スレバ特殊資本ニ依リ速ニ之カ實現ヲ圖ルモノトス

尙經濟開發ニ當リテハ第三國ヲシテ北支ニ於ケル我特殊地位竝ニ權益ヲ尊重セシムルト共ニ第三國ノ既得權益ハ之ヲ尊重シ要スレバ此等諸國ノ施設ト合同經營シ又ハ其ノ資本材料等ヲモ利用スル等第三國特ニ英米トノ提携共助ニ留意スルモノトス。

#### 附 錄 (昭和十一年八月十一日關係諸省間決定)

一、別紙第一ハ「第二次北支處理要綱」ノ趣旨ニ基キ差當リ冀察政權側(冀東政權亦之ニ準ス)ヲシテ執ラシムヘキ措置ノ限度ヲ例示セルモノナリ

二、別紙第二ハ北支ニ於ケル國防資源中速ニ開發ヲ計ルヘキモノヲ例示セルモノナリ從テ其ノ具體的事項ニ付テハ今後調査ノ上改案ヲ必要トスルモノアルヘク又之カ實現ニ當リテハ所要資金ノ調達ノ關係ヲ考慮スルモノトス

#### 別紙第一

##### 一、關稅ノ處理

關稅ノ處理ハ外債負擔部分及海關維持費ヲ除キタル河北省關稅收入(已ムヲ得サレハ內債負擔部分ヲモ控除スルコトヲ得)ヲ收得スルヲ目的トシ冀察政權ヲシテ南京政權トノ話合ニ依リ之ヲ實現セシムルヲ原則トス若シ南京政權カ飽ク迄右話合ニ依ル接收ヲ拒否スル場合ニ於テハ窮極ノ處置トシテ海關監督ヲ通シ海關行政ノ實質ヲ掌握シ依テ以テ關稅ノ收得ヲ圖ルモノトス但シ如何ナル場合ニ於テモ海關ノ實力的接收、海關人事ニ關スル實力干涉、

海關組織ノ分離又ハ統一破壊、特殊關稅制度及地帶ノ設定竝ニ外債負擔部分ノ抑留積立等ハ之ヲ爲ササルモノトス

##### 二、金融對策

窮極ノ目標ハ南京側金融支配ヨリ脫却セル北支ノ中央金庫ヲ設立スルニ在リト雖モ北支金融ノ現情、南京政權ノ通貨金融政策、其ノ他ノ諸情勢ハ直ニ右目的ヲ達成シ難キモノアルニ鑑ミ河北省銀行ノ如キ北支既存金融機關ニ付其ノ内容ヲ調査ノ上適當ト認メラレタルモノヲ漸ヲ追テ育成強化シ以テ名實兼備セル冀察ノ中央金庫ノ基礎ヲ構成スルコトヲ差當リノ目途トス

##### 三、關稅以外ノ中央稅權ノ處理

鹽稅統稅其ノ他中央稅權ニ付テハ概ネ第一項關稅處理ノ原則的接收方法ニ倣ヒ以テ中央稅權統一ノ破壞及二重課稅ノ發生ヲ避ケ收入ノ接收ヲ旨トスル一方外債負擔部分ニ觸レサルコトトス

##### 四、交通通信等

交通通信等ニ關シテハ差當リ既存施設ノ統合改善ヲ圖ルヲ主旨トシ分治ノ限度ニ付テハ具體的問題ノ進展ニ伴ヒ

考慮スヘキモ概ネ地方的の行政ニ關スルモノト全國的の行政ニ關スルモノトニ分チ前者ニ付テハ出來得ル限り廣汎ナル權限ヲ要求セシムルモ後者ニ付テハ南京政權側ノ交通通信機關トノ連絡上ノ便宜ヲモ考慮ニ容レ統一ノ破壞ヲ避クルモノトス(鐵道ニ關シテハ支那ニ於ケル鐵道統一ニ關スル華府會議決議參照)

## 別紙第二

### 第一、國防資源

#### 一、鐵礦

先ツ龍烟鐵坑及河北省ニ於ケル有望ナル諸鐵坑ヲ開發ス右ハ差當リ興中公司ヲシテ實施セシメ滿鐵ヲシテ之ニ協力セシム礦石トシテ輸出スヘキヤ或ハ製銑ノ上輸出スヘキヤハ本邦内地外地滿洲等ニ於ケル斯業トノ調整竝企業者ノ採算關係其他ニ依リ決定ス

山東省金嶺鎮鐵坑ハ既ニ我カ利權關係アルヲ以テ前記冀察兩省ニ於ケル鐵坑開發ノ進度ヲ見タル上之カ開發ヲ決定スルコトトス

#### 二、「コークス」用炭礦

尙既定方針ニ從ヒ興中公司ノ設立スヘキ棉花倉庫公司及運輸公司ヲシテ棉花ノ取引輸送等ニ關シ產棉事業ノ發達ノ爲協力セシム

#### 三、液体燃料

北支就中山西省ニ於ケル石炭ヲ利用シ我方ノ技術及資本ノ援助ニ依リ石炭液化事業ヲ促進ス

#### 六、羊毛

緬羊ノ改良増殖ニ依リ羊毛ノ増産ヲ圖ル

先ツ察哈爾、河北、山東省ニ於テ實施シ逐次綏遠其ノ他西北地方ニ及ホスモノトス

緬羊ノ改良増殖ハ功ヲ急クコトナク差當リ技術的指導ニ重點ヲ置ク

### 第二、其ノ他ノ國防施設

前記國防資源ノ開發ヲ促進シ併セテ戰時之カ確保ヲ遺憾ナカラシムル爲北支ニ於ケル交通機關ノ整備擴充ヲ策シ就中龍烟鐵坑及井陘炭坑ノ開發ニ伴フ鐵道ノ建設及改良竝ニ必要ニ應シ關係港灣ノ改良等ノ急速ナル實現ヲ期ス尙國防的經濟的見地ヨリスレハ夫々平綏線ノ改良及西部延長竝山東鐵道ノ延長ヲ重要トスルヲ以テ之等ニ付テモ

津石鐵道建設ニモ關聯シ對日輸出ヲ目的トシ井陘炭坑ニ日本資本ヲ注入シ日支合辦トシ其ノ増産ヲ期ス

山東省黑山炭坑ヲ中心トシ附近小炭坑ノ統合經營ヲ誘導ス

開灤炭坑ニ關シテハ龍烟鐵坑ノ開發及北支製鐵事業ノ便宜ヲモ考慮シ窮極ニ於テ日英支合辦事業タラシムル如ク指導ニ努ム之カ爲前記井陘炭及博山炭ノ増産ヲモ適宜利用スルモノトス

### 三、鹽

長蘆鹽竝ニ山東鹽ノ改良増産ヲ圖ル

製鹽事業ハ支那人ニ依ル民營ニ委スルモ我方ヨリ所要ノ資金竝ニ技術的援助ヲ與フルモノトス

長蘆鹽ノ改良増産及對日輸出ハ既定ノ方針ニ依リ急速實現ヲ期ス

### 四、棉花

先ツ河北山東兩省ニ於ケル棉花ノ改良増産ヲ圖リ逐次之ヲ山西其他ノ地方ニ及ホスモノトス

改良増産ハ農民ノ自覺ト北支當局ノ指導獎勵ニ俟ツヘキモ我方ヨリモ所要ノ資金及技術的援助ヲ與フルヲ要ス

### 逐次實現ヲ期ス

560

昭和11年8月17日

在滿州國植田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

「第二次北支處理要綱」の説明に当たっては  
現地軍が根本方針に矛盾しないよう善処すべ

き旨影佐中佐言明について

付記 昭和十一年八月十三日付、參謀本部作成

「北支處理要綱實施ニ關スル參謀本部要項事項」

新京 8月17日後発

本省 8月17日夜着

### 第七七一號(極秘)

上村書記官へ太田ヨリ

「北支處理要綱實施ニ關スル參謀本部要項事項」ノ一二關シ

出發前打合ノ趣旨ニ依リ十五日影佐中佐ト懇談シタル處同中佐ハ

「高橋中佐ヨリ手交セラレタル書物ハ出發前取込ノ爲未タ披見シ居ラサルモ御話ノ如キ書振トセハ右ハ南京ニ於

ケル現地工作ト兩々相俟テ目的ヲ達成セントスル第二次要綱ノ趣旨ニ副ハサル譯ニ付出先ニ對スル口頭説明ニ當リテハ根本方針ト矛盾セサル様自分ニ於テ充分善處スヘキニ付安心アリ度シ」

ト述ヘタルカ後刻參考迄小官持參ノ要望事項寫ヲ示シ一以外ノ點ニ付テモ出先軍側ノ誤解ヲ招キ易キ點アルヲ注意セル處影佐ハ

「先般喜多武官ヨリ此ノ際例ヘハ特政會案ノ如キ趣旨ノ具體案ヲ南京側ニ提出スルコト然ルヘキ旨請訓越セル經緯アリ從テ要望事項ノ一ハ主トシテ喜多武官ヲ狙ヒ居ルモノニテ書出ノ字句モ外交々渉ト内面指導トノ關係等主義ノ問題ヲ云々シ居ルモノニアラスト了解ス尙四ノ點モ天津軍力蔣介石ノ山東工作ニ對スル對策トシテ唯新聞ニ依ル逆宣傳等ノミニ沒頭シ我方ヨリ進ンテ何等工作ニ出テサルノ憾アルヲ戒メタルモノナリ」

トノ趣旨ヲ述ヘタルニ付小官ヨリ右ノ點ニ關シテハ特ニ韓復榘ト西田トノ個人的關係ニモ鑑ミ天津軍ニ於テ西田顧問ヲ十二分ニ活用セラルルコト然ルヘシト述ヘタルニ影佐ハ同中佐ノ思付トシテ右田代司令官ニ進言方快諾セリ

ルヲ要スヘシ又北支政權トノ連絡又ハ妨害工作等ノ爲北上スル南京側要人ニ對シテハ努メテ之ト接觸ヲ圖リ彼等ニ對シ北支ノ特異性ヲ知ラシメ其策動ノ抑制ニ努ムルコト必要ナルヘシ

三、支那駐屯軍ハ具體問題ノ實施ニ當リテハ上海武官其他關係方面トモ協議ノ上順序方法等ヲ定メ適時中央ニ具申シテ實施ニ着手セラルルコト必要ナリ且電報戰等ニ陷ルカ如キコトナク彼此直接面接觸ニ努メ兩者一致ノ步調ニ出ツルコト特ニ必要ナリ

殊ニ原則的問題又ハ總括的計畫等ニ關シ己ヲ持シテ相讓ラサルカ如キコト無ク具體的實現ヲ圖ルヲ第一義トス北支工作ハ今ヤ理論ノ時代ハ過キテ實行ノ時代ニ入レルコトニ着意セラレ度シ

四、山東ニ對スル南京政權ノ壓迫工作ニ對シテハ支那駐屯軍ニ於テ善處セラレツツアルモ此上共韓復榘ヲシテ依然日本ニ依存セシメ過早ニ辭表ヲ提出シ又ハ南京ノ無理ナル要求ニ應スルカ如キコトナカラシムルト共ニ濟南武官ヲ以テシ或ハ軍幕僚ヲ差遣シ山東ニ於テ工作シツツアル南京側要人ト進ンテ會見シ彼等ニ對シ山東ノ特異性ト帝國

## (付記)

北支處理要綱實施ニ關スル參謀本部要望事項

昭和一一、八、一三

北支處理要綱ハ支那駐屯軍ノ現地工作ト大使及大使館附武官ノ行フヘキ對南京政權工作ト兩々相俟ツテ具體問題ヲ逐次實現スルコトニ依リ之カ達成ヲ期スヘキモノナリ

從ツテ左記ノ諸點ハ特ニ留意セラレ度シ

(欄外記入)

一、中支方面ニ於ケル工作ハ普通ノ外交交渉ト其趣ヲ異ニシ北支ニ於ケル現地工作ヲ容易ナラシムルコトヲ主眼トシ北方工作ニ依リ舉措ニ迷ヒツツアル南京政府ニ示唆ヲ與ヘ同政權ヲシテ北支ニ授權スヘキ決意ヲ爲サシメ進ンテ具體案ヲ提出スルニ至ラシムル如ク指導スヘク從ツテ過早ニ我方ヨリ提案スルカ如キコトナキヲ要ス

二、支那駐屯軍ノ行フ工作ハ依然北支諸政權ヲ對象トシテ彼等自ラ具體問題ヲ逐次實行スル如ク指導スルヲ原則トスルモ實施スヘキ事項ニヨリテハ彼等ヲシテ内密ニ南京政權ノ指示ヲ受クルコトヲ抑止スルコトナク彼等ヲシテ已ムヲ得ス南京ニ泣キツキ授權ヲ要請スルノ途ヲモ默認ス

ノ對山東方針ヲ知ラシメ要スレハ之ニ警告ヲ與フル等北上セル彼等ノ行動ヲ逆用シ其工作ヲ斷念セシメラレ度シ又上海、南京ニ於テハ南京政權ノ韓ニ對スル壓迫ハ帝國ノ希望ニ反シ北支ノ事態ヲ惡化セシムル所以ヲ説ク等適時内面指導ニヨリ其ノ壓迫政策ヲ斷念セシメラレ度シ

## (欄外記入)

一、太田事務官ヨリ影佐中佐ニ懇談シ少クトモ第一項ハ從來話合ノ趣旨ニ合致セサル嫌アルニ付削除若ハ訂正セシムル様努ムル筈

一、陸軍省連絡官ニ對シテモ同官ヲ通セスシテ參本側カスカル書物ヲ作製送付越セルハ如何ナル理由ニ基クモノナリヤ問訊ス筈 曾瀨

561

昭和11年8月20日 在中国武藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

華北經濟開發や華北防共問題などに関する川越・宋哲元会談につき報告

北平 8月20日後発  
本省 8月21日前着

第四二二號

川越大使ヨリ

本使十九日宋哲元ト會談要旨左ノ通り

「本使ヨリ北支ノ經濟開發ノ必要ヲ説キ地方ノ民利ノ増進ハ地方當局ノ責任ニシテ且權利ナレハ貴委員長長カ民利ヲ目標トシテ開發ヲ行ハルルニ付諸事中央ヲ煩ハス迄モナク所信ニ邁進セラレタク自分ハ南京ニ對シテモ何レ此ノ趣旨ニテ申入ルル考ナル旨ヲ述ヘタルニ對シ宋ハ冀察ノ責任者トシテ地方ノ開發ニ努力スヘク日本ノ援助ヲ期待スル旨ヲ答フ

「本使ヨリ山西ノ共匪ハ片付キタルノ趣ナルモ國際共產黨ノ當地方ニ於ケル活動ハ日本ノ多大ノ關心ヲ有スルコトニモアリ我方機關トモ充分協力セラレ取締ヲ勵行セラルルト共ニ住民ノ經濟生活ノ安定ヲ圖リ共產黨ノ活動ノ餘地ナカシムルヲ要スヘク此ノ意味ヨリモ日本ノ援助ノ下ニ北支ノ開發ヲ實行スルコト肝要ナル旨ヲ述ヘタルニ宋ハ最善ヲ盡スヘキ旨答ヘタリ

第六九九號

王克敏三十日本使ヲ來訪會談ノ要旨左ノ通り

「王ハ先ツ三日南京ニ於テ張群ト會見セル顛末(往電第六一四號参照)ヲ述ヘ其ノ際張群ハ天津軍側ヨリ提示ノ六項目ニ對シ個人ノ意見トシテ

(一)經濟開發資金ヲ中央ヨリ補助スルコトハ出來得ヘキモ關稅收入ノ如キモノヲ指定シテ之ヲ與フルコトハ困難ナルヘク

(二)關稅ノ引下ハ北支密輸問題ト關聯セシメス且兩國間ノ協定ヲ以テセス漸次ニ之ヲ行フコトハ出來得ル見込アリ

(三)交通、水利、港灣、鑛山等ノ開發ニ付テハ吳鼎昌等ノ希望ニテハ日支兩國人ノ合辦ニテ一財團ヲ組織シテ之ニ當ラシメ政治上ノ影響ヲ避クル様仕組ミ度シトノコトナリ

(四)金融ノ安定ヲ計ル爲準備ヲ増加スルコトハ中央トシテ當然考慮スヘキ問題ナリ  
(五)鹽稅ノ處理ニ關シテハ現地ニ即シタル或程度ノ改善ヲ加フルコトハ差支ナカルヘキモ支那鹽稅制度ノ根本ヲ

「西南問題ニ對スル宋ノ所感ヲ問ヒタルニ宋ハ中央ノ態度如何ニ係ルモ其ノ眞意不明ナリト答ヘタルニ付貴委員長ト韓復榘ノ先般ノ通電ニモアル通り國內ノ武力鬭爭ハ避ケ度キモノナリト述ヘ置キタリ

「本使ヨリ韓復榘トノ關係ヲ質問シタル後韓ノ山東ニ於ケル治績ハ見ルヘキモノアリ又其ノ對日態度モ我方ノ満足スル所ナリ豫テ親交ヲ有セラルル趣ニモアリ相提携シテ進マルコトヲ希望ストノ趣旨ヲ述ヘ置キタリ  
支、天津、南京、濟南、青島、滿ヘ轉電セリ

562

昭和11年8月31日

在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

支那駐屯軍が王克敏に提示した要望事項をめぐ  
る王と張群の會談内容について

付記

昭和十一年九月十日付移牒、橋本(群)支那駐

屯軍參謀長より西尾參謀次長宛電報

王克敏への付与權限に関する張群意旨

上海 8月31日後発  
本省 8月31日後着

覆スカ如キコトハ不可ナルヘク

(六)事業開發ニ對スル中央ヨリノ權限移讓ハ充分研究ノ上或一定ノ限界ヲ定メテ之ヲ授與スルコト然ルヘキ旨語リタルカ自分(王)ハ之ニ對シ何等意見ヲ表示セス單ニ聞キ置クニ止メ其ノ後中央トハ何等ノ話合ナク今日ニ及ヘリト述ヘタリ

「王ハ次イテ今回ノ北上ハ餘リ氣乗セサル所ナルモ北支ニ於ケル日支經濟提携カ兩國國交調整ノ基礎トナル點ニ鑑ミ且ハ日本側ノ熱心ナル希望モアリ旁宋哲元ヨリモ去ル二十三日北上催促ノ電報アリタルニ付愈北上ヲ決意シタル次第ナルカ今回ハ一、二箇月北方ニ滞在ノ上先ツ冀察政務委員會委員ノ資格ニテ關係各方面ト接觸シ果シテ自分カ經濟開發方面ニ働キ得ルヤ否ヤ見透シヲ附ケ度ク若シ到底實行ノ可能性ナシト見レハ之ヲ最後トシテ引下リ若シ仕事ヲ爲シ得ル見込立テハ其ノ時改メテ常務委員及經濟委員會主席ノ任ニ就クヘク其ノ際ト雖冀察内部ノ複雑ナル狀態ニ鑑ミ慎重ナル態度ヲ以テ一ツ宛問題ヲ片付ケテ行キ度キ心組ナルヲ以テ日本側ニテ餘リ大ナル期待ヲ自分ニ懸ケラルル時ハ後日却テ失望ヲ招ク結果トナル

ヘシ何レニスルモ一應歸滬シタル上其ノ結果ヲ御報告申上クヘシト述ヘタリ

三、更ニ王ハ曹汝霖ノ最近ノ態度ニ付本使北上ノ際ノ觀察ヲ求メタルニ付今次天津ニ於テ曹ト會見ノ際同人ハ久シク政界トハ關係ヲ斷チ目下老母モ病弱ナルヲ理由トシ常務委員トシテ働クコト出來サル旨洩ラシ居リタル次第ヲ告ケタルニ王ハ自分モ蔣介石モ同様ノ通報ヲ受ケ居レルカ察スルニ曹ハ冀東問題ヲ重視シ之カ解決ヲ見サル間ハ經濟開發問題モ充分ノ成績ヲ擧ゲ得サルモノト思込ミ居ル結果ナルヘシト語レリ

四、依テ本使ハ今次北上シテ宋哲元ト會談セル内容ヲ告ケ尙王ノ北上ニ對シ反對ノ態度ヲ執リ居ルカ如ク傳ヘラルル方面モ現在相當緩和シ居リ若シ王カ北上後着々經濟開發ノ實績ヲ擧グルニ於テハ右反對ノ空氣モ自然解消シ得ル次第ナル旨ヲ述ヘ其ノ努力ヲ促スト共ニ北支經濟開發ノ資金トシテ中央ヨリ天津海關收入ノ外債擔保部分及海關經費ヲ除キタル以外ヲ冀察ニ交付スルコトノ極メテ必要ナル旨並ニ北支銀行準備増加ノ件ハ日本側銀行ノ手持銀處分問題ト關聯攻究スルコトモ一案ナルヘキ旨申シ含メ

稅ノ引下ヲ必要トスルヲ以テ之ヲ半減スル意向ナリ而シテ此種ノ處置ハ冀東ニ於ケル特種貿易及其他密輸廢止ノ交換の措置トセス支那側ノ自發的處置トシテ實施スル筈ナリト答ヘ

三、産業開發ニ關シテハ張ハ全幅ノ贊意ヲ表シ之カ實行手段トシテ實業部長吳鼎昌カ日支合辦ノ財團ヲ組織シ之ニ依托シテ實施スヘキヲ提昌シアルヲ以テ蔣介石ニモ通シアルヘシト想像セラルルモ南京政府内ハ各派ノ暗闘絶エス此政府要人ノ言ハ全ク信用出來サルヲ以テ此案ヲ採用スルヲ可トスヘシ蓋シ此案ニ依ルトキハ表面日本ノ内政干涉ヲ受クルカ如キ印象ヲ人民ニ與ヘサルヲ以テ民衆ノ反對ヲ抑止シ日本ハ實利ヲ收メ得ヘシト答ヘ

四、北支金融ノ安定ニ關シテハ王ハ北支ニ在ル現紙幣ノ價值ヲ維持スル爲準備金トシテ法定ノ十分ノ六ヲ北支ニ置クコトヲ主張セルニ對シ張モ之ニ同意セルカ現在北支ニアル紙幣ト準備金ノ比ハ法定ノ十分ノ六ノ比率ヨリ惡ク此比率ニ置ク爲ニハ七千萬元ノ準備金ヲ増加スルヲ要シ南京政府トシテハ今直ニ之ヲ補填スルコト困難ナルヲ以テ將來ニ亘リテ考慮スヘシト答ヘ

置キタリ

王ハ豫定ノ如ク九月一日當地發大連ニ赴キ奉天ニ於テ板垣參謀長ト會見直ニ天津、北平ニ向フコトトナリタルカ天津着ハ七、八日頃ノ見込ナル由

北平、南京、天津、青島、濟南ヘ轉電セリ

(付記)

天津 發

參謀本部 着

王克敏來訪ノ際軍司令官ヨリ今次ノ北上ニ際シ蔣介石ヨリ何等カ權限ヲ附與セラレタルヤト問ヒタルニ對シ王ハ蔣介石ヨリハ如何ナル權限モ附與セラレサリシモ張群ト會談ノ際北支ノ經濟工作ニ關スル王ノ意見トシテ過般永見前參謀長カ自分ニ述ヘタル件ヲ其儘語レル所

一、冀察ノ凡ユル收入ハ冀察ニ與フヘシトノ意見ニ對シ張ハ現在ニテモ海關收入以外ハ全部冀察ニ與ヘアリ然シテ天津ノ關稅ハ六百萬元ニ過キササルヲ以テ現在ノ如キ月額百萬元ヲ支給セラルル方カ冀察トシテハ利益ナリト答ヘ

二、關稅ヲ引下クヘシトノ意見ニ對シテ張ハ現在ノ狀態ハ關

兵鹽制改革問題ニ關シテハ張群ハ中央ノ統制ヲ破ルコトハ不可ナルモ中央ノ法律ヲ變ヘスシテ地方ノ特殊事情ヲ加

味シテ便法ヲ講スルコトハ可ナリト答ヘタル由ナリ王克敏ハ右ニテ大体南京側カ冀察ニ附與スヘキ權限ノ内幕ヲ聽取シ得ヘシト述ヘタルカ右ハ張群個人ノ意見ニシテ何等南京側ヲ代表セルモノニアラサル旨ヲ張群ハ附加セル趣

ナリ尙王克敏ハ右ノ意見ヲ孔祥熙ニモ述ヘタル所孔ヨリ十分指示スヘキ旨ヲ傳ヘラレ又張群ヨリ恐ラク彼等ノ言質ハ一ノ基準(南京側ノ肚ヲ探クル)ニハナルモ信用スルコトハ到底出來スト何度モ繰返シ述ヘタリ何等カノ御參考迄

~~~~~

563 昭和11年9月12日 在天津堀内總領事より 有田外務大臣宛

華北主要公館長會議につき報告

機密第八〇一號 (9月21日接受)

昭和十一年九月十二日

在天津

總領事 堀内 干城(印)

外務大臣 有田 八郎殿

北支主要公館長會議記錄送付ノ件

過般太田事務官出張ノ際開催セル北支主要公館長會議記錄
一部送付ス御查收相成度シ

本信寫送附先 在支大使 南京 青島 濟南 北平

張家口

昭和十一年八月於天津開催

北支主要公館長會議記錄

北支主要公館長會議

(一)第一次會合

時 日 昭和一一、八、二二日(土曜日)

午前九、三〇—全二、一五

場 所 總領事官邸

出席者 川越大使、西總領事(青島)、武藤書記官(北平)、

花輪書記官(北平)、有野總領事(濟南)、田尻總

領事代理(天津)、岸領事(天津)、太田事務官、

萩原書記官(上海)、永井副領事(天津)、中根副

領事(張家口)、西田副領事(天津)

行事 太田事務官ヨリ本年八月七日總理、外、陸軍、

海軍四大臣ノ決定セル「帝國外交方針」ニ關シ
說明有リタリ

(二)第二次會合

時 日 昭和一一、八、二三(日曜日)

午後三、〇〇—全五、〇〇

場 所 午前二全シ

出席者 午前二全シ

行事 太田事務官ヨリ八月十一日關係諸省間決定ノ

「對支實行策」及「第二次北支處理要綱」ニ關
シ說明有リタリ

(三)第三次會合

時 日 昭和一一、八、二三(日曜日)

午前九、〇〇—正午迄

場 所 全前日

出席者 外務省側 武藤書記官ヲ除キ前日通り

陸軍側 影佐中佐(陸軍省)

行事 (イ)影佐中佐ヨリ別添申號ノ說明及應答有リ直ニ
辭去セラル

(ロ)次テ中根張家口領事代理ヨリ別添乙號「綏東

事情」ニ關スル說明有リタリ

(四)第四次會合

時 日 昭和一一、八、二四(月曜日)

午前九、三〇—正午

場 所 全前日

出席者 全前日

行事 太田事務官ト各出先館長トノ間ニ質疑應答有リ

次テ川越大使ヨリ別添丙號(田代司令官トノ會

談概要)ニ就キ說明セラル

甲 號

影佐中佐說明概要

陸軍省派遣影佐中佐說明概要

(昭和十一年八月廿四日前九、三〇 於總領事官邸)

出席者

外務省側 川越大使、西總領事、有野總領事、花輪書記

官、田尻總領事代理、岸領事、太田事務官、

萩原書記官、永井副領事、中根副領事、西田

副領事

陸軍省側 影佐中佐

影佐 今回出張シテ來テ關東軍關係者ニ說明シタ所ヲ私見

ヲ加ヘテ其儘申上ケ様ト思フ先ツ日本ノ國防國策ト

云フ見地カラ云ヘハ露國ノ企圖即全國ノ東亞進出ヲ

防ク事カ吃緊事テアルカ右目的達成ノ爲ニハ第一ニ

英米トノ關係ヲ良好ナラシメ更ニ日滿支關係ヲ強固

緊密ニスル事カ肝要テアル(勿論軍トシテハ露國ニ

對シテハ出來得ル限り戰爭ヲ避ケルカ已ムヲ得サレ

ハ開戰モ辭セサル考テアル)然ラハ如何ニシテ日滿

支特ニ日支關係ノ調整、眞ノ日支親善ヲ計ルカト云

ヘハ何ト云ツテモ露國ト英國トヲ支那カラ驅逐シナ

ケレハ出來ナイ事テ夫レ迄ハ當分

(一)英米トノ抗爭ヲ避ケ特ニ米國トノ親善増進ヲ計ル
事

(二)對露策トシテハ積極的ニハ軍備ヲ擴張シ消極的ニ

ハ國境ヲ設定スルト云フカ如キ方針ヲ取ル事

(三)對歐洲諸國策トシテハ獨逸、波蘭等露國ト利害相

反スル國ト勾結スル事

(四)對支工作トシテハ

(イ)露支兩國ノ連絡ヲ中止セシムル事

(ロ)北支ニ對シテハ一面北支當局ヲシテ一層馬力ヲカケシムルト共ニ他面南京政府ヲ利用スル事望マシク實戰ニ當ツテモ正面攻撃ト同時ニ迂回作戰ヲ取ル事カ最も效果的デアルカ北支工作ニモ此ノ戰法ヲ應用スル事ヲ必要ト認メル次第デア

ル
自分ハ北支ノ政局ハ現状ノ儘テ進ムカ後退スルカノ二ツテ勿ロ後者ニアルト觀測スル處之ハ北支工作カ遅タトシテ進捗セサル事ニ因ルモノテ何故北支工作カ進マヌカト云ヘハ畢竟關東軍ノ退去ニ基因スル所大ナリト考ヘルノデアアル日本人中ニモ關東軍カ退去シタカラ何事モ發生セスト云ヒ觸ラス者モ鮮カラス此カ爲支那人モ相當増長且安心セシメタ從ツテ自分ハ關東軍ノ北支進出ノ氣勢ヲ示ス必要アリト考フルモノテ關東軍司令官ニモ之ノ點ヲ述ヘテ置イタ

(ハ)次ニ授權問題ハ外交工作テハ仲々出來ナイカラ南京ヲシテ進ンテ或ル程度ノ權限ヲ讓渡セネハ

在以上強クナルカモ知レナイ從ツテ昭和十六年トナレハ必ス勝ち得ルトハ斷言出來ナイ

大使

露國カ新兵器ヲ準備シ出シタノハ全國ノ内情カ許スカラテアルト思フカ右ニ對シ日本モ準備スルノカ當然ト思フ先方ノ軍備カ充實シタノニ日本ノ軍備カ充實シナイト云フノハ日本ノ國防擔當者カヌカツテ居タトモ云ヒ得ルト思フカ如何

影佐

夫ハ御尤ノ事テ此ハ内地ノ機構ニ缺點カ有ルカラテアル宇垣大將ノ如キハ其ノ責任ノ最も大ナルモノテ若手將校カ全大將ニ反感ヲ持ツテイルノモ其處ニ在

大使

先刻ノ御話ニ據レハ日本ノ空軍ハ露國ニ及ハナイトノ事デアルカ兩國ノ飛行機數技術等ニ對スル比較ヲ御聞キシ度シ

影佐

技術方面ニ就テ云ヘハ何年位遅レテイルカ不明テ自分達トシテハ早く航空省テモ作ツテ技術方面ハ勿論各般ニ亘リ研究シナケレハナラント焦慮シテイル飛行機數ニ就テハ大体累年ノ豫算ヲ見レハ判ル譯タカ一九三一年ニハ十三億留布、一九三三年ニハ三十五

ナラヌ様ナ情勢ヲ誘致スル事カ肝要デアルト考ヘテ居ル

(ニ)三原則ニ就テハ内容空虚タトノ批難モ有ルカ日支關係調整ノ根幹ヲ爲スモノハ結局三原則タト考ヘテ居ル

大使

自分ハ種々御尋ネシタイ事カ有ルカ先ツ日露兩國ノ軍備ニ就テ御聞キシタイ自分ノ聞イテ居ル處テハ日本ハ露國ヨリ劣勢タトノ事タカ若シ事實トセハ國民ノ一人トシテ頗ル不安ヲ感スル次第デアル此ノ點ニ就キ御差支無クハ出來得ル限り詳細承ハリ度イ

影佐

御聞及ノ通りテ物質的方面カラ見テモ戰鬪方面カラ見テモ今ノ處テハ遺憾ナラ勝算カナイ空軍ノ如キハ特ニ不足ヲ告ケテ居ルシ「シベリヤ」線ノ復線工事モ遠カラス完成スルラシイカラソウナルト我方トシテハ露軍ノ七、八割ヲ滿鮮ニ持タネハナランシ露國ニ勝ツ爲ニハ相當準備ヲシテ掛ラナケレハナランソコテ吾々トシテハ昭和十六年迄ニ戰備ヲ完成スル豫定テソレ迄ハ何トカ對露戰爭ヲ延シタイノデアルカ露國トテモ引續キ戰備ヲ整ヘルデアロウカラ或ハ現

大使

億留布、本年即一九三六年ハ百四十二億留布デアル極東方面ニハ露國ノ正規軍約百三十万位有リト聞クカ如何

影佐

大体間違無イ數字ト存ス

大使

三原則ニ對シテハ大体貴見ノ通りテ世間テハ價值カ無イト云ツテ居ルカ自分ハ日支國交調整上内容のニ見テ當ヲ得タモノト思フ然ルニ何故支那カ嫌カリ日本テモ不評カト云フト其ノ内容テナクテアンナ形式テ支那側ニ要求スルニ在リト思フ

影佐

其ノ通テス

大使

貴見ニ據レハ北支ノ政情ハ此ノ儘テ進ムカ後退カノ二ツテ勿ロ後ノ方ニ在ルト思フトノ事タカ自分ハ客觀的ニ見レハ後退シナイト思フ。實ハ上海テモ着任以來相當悲觀論ヲ聞カサレタカ私ノ今回受ケタ印象ニ據レハ本來持ツテ居タ考カ違ツテ居ナイ事カ判ツタ現在行ハレテ居ル悲觀論ハ要スルニ支那側ニブツツカリ思フ様ニ行カナイ所カラ起ツタモノノ様タカ此ハ個々ノ意見テ判斷スヘキモノテナク大勢カラ見ネハナラント思フ最近支那側カ思フ様ニ動カヌト云

フノハ關東軍ノ力カ北方ニ出ナクナツタ事モ一ツノ原因テハアロウカ軍ヲ含メタ日本ノ政策カバラバラテアルト見ラレタニ因ル事モ大キナ原因ト思フソコテ自分ハ外交ノ一元化ト云フ事カ最も大切ナ事ト思フ

影佐 御尤ノ事テ此ノ點ハ田代司令官ニモ申上ケテ置イタ

次第テアル軍トシテハ何事モ中央、出先一体テ遣ルト云フ方針テアル事ヲ御含願イ度シ

大使 王克敏ノ擔キ出シハ軍部テ考ヘ出サレタトノ事タカ

陸軍省テヤラレタ事テスカ

影佐 左様テス

大使 貴官邊ノ思ヒ付ト思フカ如何

影佐 左様テス實ハ北支ノ工作停頓狀態ニ陷ツタノテ打開

策トシテ思ヒ付イタ譯テスカ王ニ對シテハ軍トシテハ充分援助スルカ北支ニ來テモスク歸ル様ナラ來ンテモヨイ且具體問題ニ觸レルト二進モ三進モ行カナクナルカラ包括的ナ權限ヲ蔣介石カラ貰ツテハ如何ト云ツテ遣ツタ譯テス

大使 自分ハ日本カ王テナクテハナラント云フ印象ヲ與ヘ

レテ烏蘭察布、伊克昭兩盟、歸化城土默特及察哈爾西半部各旗ヲ糾合シ綏境蒙政會ヲ組織シテ綏遠省内蒙旗ノ離反ヲ防クト共ニ百靈廟蒙政會ノ切崩ヲ行ハムトシ二月下旬之カ成立大會ヲ綏遠ニ舉行セリ而モ右ハ支那側ノ強制ニ依リテ成立シタルモノニシテ綏境各蒙旗王公等ハ一部ヲ除キ必スシモ德王等ニ反抗セムトスル意思ヲ有セサルヲ以テ表面ハ兎モ角内密ニハ依然百靈廟蒙政會側ト綏境蒙政會側トノ間ニ相當ノ連絡行ハレ居ルカ如キモ其後德王ノ軍政府カ本年六月初旬ヲ期シ德化(即嘉卜寺)ニ移轉ノ企圖アルヲ探知セル支那側ハ機先ヲ制シテ百靈廟蒙政會ノ察境内移轉方ヲ命シタルカ右ハ内蒙全体ヲ地盤トシテ南京政府特ニ山西綏遠省側ノ作爲セル綏境蒙政會ヲ隸屬機關視シ來レル百靈廟蒙政會ヲ体ヨク綏遠省内ヨリ察哈爾境内ニ追込ミ事實上綏境蒙政會ト同列ニ置カムトスル魂膽ニ出テタルモノナルコトハ想像ニ難カラサル所ナルヲ以テ德王側ハ軍政府正式移轉(五月十一日)ニ先タチ西烏珠穆沁王府次テ百靈廟ニ於テ蒙旗代表會議ヲ開キ南京政府ノ命令ハ之ヲ承服スルモ殘務整理ノ爲依然百靈廟ニ辦事處ヲ存置スルコトヲ決議シ百靈廟特務機關指導ノ

ルノハ面白クナイト思フ從ツテ王ニ對シテハオ前カ

自力テ蔣カラ出來ル丈多クノ權限ヲ取ツテ來イソシテ良ク働ケハ極力援助シテヤルト云フ様ニ應待スルカヨイト思フ實ハ上海テ會ツタ際モ廿九軍及日本軍部少壯者ニ反對カ有ルトテ北上ヲ心配シテ居タカラ自分トシテハ前述ノ如キ立前テ應待シテ置イタ

萩原 國民大會ニ北方代表ヲ派遣スル事ハ如何ニ考ヘ居ラ

ルルヤ

影佐 代表ヲ派遣シテモヨイテハナイカトノ意見テ田代司

令官モ大体同意テアル

乙 號

中根副領事説明概要

綏東事件ニ關聯スル内蒙ノ現状

一、德王政權ノ發生

昭和十年末李守信軍多倫ヨリ張北ニ進出スルヤ同地ニ於テ本年一月下旬察哈爾盟ノ結盟式行ハレ更ニ二月西蘇尼特王府ニ德王ヲ總裁トスル軍政府ノ成立ヲ見タルカ察哈爾部ノ西半部ヲ管轄スル綏遠省側ハ德王勢力ノ浸潤ヲ虞

下ニ綏境及其ノ以西蒙旗トノ連絡ヲ行ヒツツアリ

尙關東軍ハ七月阿拉善旗(寧夏境内)八月額濟納(同上)ニ夫々特務機關ヲ新設シ更ニ包頭ニ飛行機ヲ常置シテ愈々積極的ニ西部内蒙古方面ニ對スル施策ヲ行フコトナレリ

二、蒙古側及綏遠省側ノ軍備

抑々關東軍ハ綏遠省内蒙古人ヲ漢人政權ノ桎梏ヨリ解放シテ德王一派ノ蒙古政權ノ培養地タラシメムトスルモノナルヲ以テ綏遠ヲ以テ自家ノ植民地ト爲シ依ツテ以テ省内軍隊ノ氾濫ヲ緩和シ財政ノ窮乏ヲ補ヒ包頭以西所謂河套地區ノ沃土ヲ開拓シテ西北富源ノ門戸ヲ扼セル山西閭錫山ノ利害ト撞着セサルヲ得ス巧妙ナル政治工作ニ依リ平和的解決ヲ見サル限リ實力ノ行使ヲ避クヘカラサルハ自明ノ理ナルヲ以テ蒙古側ハ當初僅カニ三千二過キサリシ李守信軍ヲ根幹トシテ二軍(六師)一万ノ正規軍ヲ編成スル目途ノ下ニ察哈爾、錫林郭勒兩盟及滿洲國ニ屬スル熱河、興安西兩省方面ノ蒙旗ヨリ壯丁ヲ徵募シ最近ニ至リ李守信ノ第一軍ハ五千ニ擴大セラレ全然新規編成ニ係ル包悅卿ノ第二軍亦三千ヲ算スルニ至リ現在尙募兵ヲ續

行スルト共ニ第一軍ハ張北ニ於テ第二軍ハ德化方面ニ於テ銳意訓練實施中ナルカ是等兩軍ノ武力ハ舊有ノ李守信軍ハ裝備、訓練ノ點ニ於テ稍優レルモ新規徵募ノ分ニ至リテハ毫モ訓練ヲ經ス裝備亦十分ナラス騎兵ニシテ乘馬ヲ有スルモノ極メテ稀ナルカ如キ實狀ニ在リ仍テ目下錫察兩盟ニ於テハ馬匹ノ移出ヲ禁止シテ軍馬ノ徵發ニ努力中ナリト傳ヘラル尙兵器ハ步兵銃約八千挺、騎兵銃(數量不明)、輕機關銃(數量不明)、野砲五、六門、山砲二門、步兵砲五、六門、重機關銃約三十挺ナルカ操法未熟ノ爲實力ノ發揮ハ疑ハシキ趣ナリ正規軍ノ狀況概ネ右ノ如クナルヲ以テ到底早急ニ充分ノ活動ヲ期待シ難ク特ニ其ノ單獨軍事行動ノ如キ思モ寄ラサル狀態ニ在リ仍テ關東軍ハ本年六、七月ノ交ヨリ王英、王道一等ノ土匪軍利用ニ着手シ是等雜軍約二千ハ商都西北方土木爾臺、「ホンゴル」ト、興和東方ノ南濠塹附近等ニ盤踞待機ノ姿勢ニ在リ

一方綏上蒙古側ノ動靜ヲ察知セル綏遠省側ハ察哈爾盟結成ノ前後ヨリ鄉村建設事業等ニ附加シテ民衆自衛團組織訓練ノ普及ヲ圖リ又平地泉ニ綏東防備ノ重心ヲ置クト共

シムルコトトナレルモノノ如ク遂ニ七月二十九日頃ヨリ八月上旬ニ亘リ屢次同方面支那軍ノ前哨部隊ト接觸シ世間ノ耳目ヲ聳動セシムルニ至レルカ八月七日頃ノ小衝突ヲ以テ一應鎮靜ニ歸シタルモ蒙古側ハ王道一部隊ノ後詰トシテ張北ヨリ李守信軍主力ヲ商都ニ移動セシメ待機ノ姿勢ニアリト傳ヘラル

右七月末ノ衝突ハ大イニ綏遠山西兩省ヲ衝動シ八月三日傳作儀^(義)ハ平地泉ニ急行大同駐屯ノ晉綏騎兵司令趙承綏(閻錫山ノ親近者ナリ)ヲ招致協議ノ結果傳ハ綏遠ニ鎮座シテ綏東警備ノ指揮ハ擧ケテ趙ニ委スルコトトナリタルモノノ如ク爾來平地泉ヲ中心トスル卓資山以東ノ要地ニハ平地泉ニ於ケル傳作儀^(義)直屬ノ一旅ヲ除ク外殆ト純山西軍(趙ノ騎兵部隊三旅李服膺ノ第六八師、張某ノ砲兵第二九團其ノ他若干ノ特科隊)ヲ配置シ又包頭ニ在リシ王靖國^(編)(閻錫山ノ親戚ナリ)部下ノ一部ヲモ同方面ニ増援セシメ更ニ晝夜兼行各地ノ防禦工事ニ努メ平地泉ノ如キハ五千ノ人夫ヲ強制徵發シ數百噸ノ「セメント」ヲ以テ永久的設備ヲ行ヒツツアリト云フ要スルニ現在ノ情勢ヨリ見ルトキハ綏遠側ハ兵力ニ於テ、裝備ニ於テ、設備ニ於

ニ同地ノ外綏遠、陶林、興和等作戰上ノ重要地點ノ防禦設備ニ努ムルト共ニ綏遠山西間及綏遠陝西間連絡ノ目的ヲ以テ綏遠一殺虎口、綏遠一托克托、包頭一榆林等ノ自動車道路築造ヲ急キ山西省亦綏遠地區増援ノ爲共産匪掃蕩後續々雁門以北ニ軍ヲ送り又糧食、彈藥其ノ他ノ軍需品ヲ集積スル等軍民各界一致ノ力ヲ以テ外侮排除、國土守護ニ任スルノ決意ヲ固メタリ

三、綏東ニ於ケル兩軍ノ接觸

蒙古側ノ戰鬪準備ハ概シテ遲々トシテ進展セス加之同方面ニ在ル我方指導機關ノ煩瑣ナル一般政務干與ハ德王以下ノ蒙古人首腦部ニ動モスレハ不滿ノ意ヲ兆サシメ且此種干涉力綏遠工作成功後ニ於テ一層加重セラルヘキヲ豫想セル蒙古人等ハ軍政府德化移轉ノ頃ヨリ動モスレハ消極的態度ヲ示スニ至レル模様ニテ軍部ハ德王、李守信、包悅卿等軍政府首腦部ヲ新京ニ招致シ之カ懷柔ニ努ムル所アリ爾來德王等ノ態度カ如何ニ好轉シタルヤニ關シテハ聞ク所ナキモ最近軍備稍整フニ及ヒ豫定計畫通り逐次王道一等ノ匪軍ヲ商都西北方土木爾臺、「ホンゴル」方面ニ進出セシメ機ヲ窺ヒテ綏東地區ノ治安攪亂ヲ行ハ

テ將亦其ノ鬪志ニ於テ遙カニ未完成ノ蒙古軍ニ優リ若シ今日ノ狀況ニ於テ正々堂々ノ對戰ヲ試シムカ蒙古軍ハ鎧袖一觸ニモ値セサルヘシト危フマル

四、將來ノ豫想

上述ノ如ク現在ニ於テハ蒙支兩軍ノ交綏ニ依リ平靜ヲ保チ居レリト雖右ハ蒙古側カ準備未完成ノ故ヲ以テ大衝突ヲ避ケ居ルニ過キス蒙古側ハ今尙軍備ノ充實ニ努メ居リ之ニ對シ綏遠側モ銳意陶林、興和、平地泉、卓資山、綏遠、武川等各要地ノ防備ヲ固メ二萬五千以上ノ兵力ヲ配置シ將來五萬ノ大軍ヲ集結スヘシト豪語シツツアルヲ以テ事態ハ依然一觸即發ノ危機ヲ孕メリト謂フヘシ然レトモ讎テ支那側綏遠山西兩者ノ關係ヲ見ルニ傳作儀^(義)ハ山西出身ニシテ曾テハ閻錫山ノ寵兒タリシモ最近ハ閻ヲ中心トスル五臺派トノ關係必スシモ圓滑ナラス曩ニ五臺派ノ陰謀ニ基クト稱セラルル同僚李生達ノ暗殺ニ因リ一葉落チテ天下ノ秋ヲ知レル傳ハ閻ノ多ク恃ムヘカラサルヲ覺リテ直接中央ニ援助ヲ懇請シ居ルカ如ク相當多額ノ軍費(百五十萬元ト傳ヘラル)及兵器彈藥ヲ中央ヨリ補給セラレタリトノ說アリ然ル處閻ハ曩ニ共産軍掃蕩後中央ヨリ

下野ヲ慰留セラレ今更ニ邊疆維持ノ重責ヲ負ハシメラレタル次第ナルモ山西軍ノ主力ヲ悉シテ積極防禦ノ手段ニ出テムカ中央軍ハ山西ノ中心地區ニ進出督戰スヘク前門虎ヲ拒イテ後門狼ヲ入ルルノ結果トナルヘク此ノ點ニ於テモ傳作儀ノ中央接近ハ閭ノ喜ハサル所ナルヲ以テ自身ハ主力部隊ヲ擁シテ太原ニ鎮坐シ綏遠北側ノ防備ハ之ヲ傳ノ手兵第七十三師ニ委ネテ山西綏遠兩省交界ノ綏東地區ニハ趙承綏等自己親近者ノ部隊ヲ集結シ邊境防衛ノ責ヲ塞クト共ニ中央軍ヲシテ乘スルノ隙ナカラシメ將來日本側ノ積極的進出ニ依リ萬一綏遠拋棄ノ已ムナキニ至ラハ綏東地區ノ山西軍ヲ豐鎮以南ノ晋北地區ニ引下ケ以テ山西ノ地盤確保ヲ圖ラムトスル底意ナルヤニ觀測セラルル節アリ更ニ最近傳作儀ヨリ使者ヲ以テ察哈爾省主席劉汝明ニ對シ共同防衛ヲ提議シ來レル事實モアリ劉ハ体ヨクアシラヒテ右使者ヲ宋哲元ノ許ニ赴カシメタリト傳ヘラルル處是等微妙ナル關係ヲ適當ニ利用スルニ於テハ今日ノ情勢ハ綏遠、山西兩省ニ對スル政治的解決ノ端緒トモナルヘキ好機會ナリト思料セラル

シト考フル故自分モ其ノ積リテ支持願ヒ度トノ事タツタノテ可然應待ノ上沈鴻烈ノ問題ヲ出シ沈ハ青島ヲ足溜リトシテ藍衣社員ヲ活動セシメテ居ル様タカ夫ハ全社員ヲ逮捕嚴罰スル事ニ依リ防キ得ルシ自分ノ見ル處テハ沈ハ決シテ日本ノ政策ニ反對スル様ナ態度ヲ取ツテ居ナイカラ沈カ日本ニツイテ來ル限り彼ヲ排斥スルニモ當ルマイト述ヘタ處司令官ハ自分ノ主張ニ必スシモ贊成モセラレス左リトテ反對モセラレナカツタ

(三)司令官ヨリ藍衣社ハ冀察テモ活動シテ居ルシ共產黨トモ勾結シテ居ル様タカラ嚴重取締リ度イトノ話タツタノテ自分モ左様思フカ日本側テ取締ル事ハ困難タカラ冀察當局ヲシテ取締ラシムルカ良イト述ヘタ處司令官モ同意テ今度憲兵中佐(小林義信中佐)ヲ天津公安局ニ入レ此ノ方面ニ働カセル事トシタト述ヘラレタ。次ニ馮玉祥問題ニ就キ御話カ有リ馮ハ蔣介石カラ使ハレテ居ルカ馮カ蔣ヲ利用シテ居ル事モ事實テ出來得レハ馮ヲ中央カラ離シテ貰ヒ度イトノ事タツタカラ自分ハ同意ヲ表

丙 號

川越大使田代司令官會談概要

(昭和十一年八月二十三日)於司令官々邸

昭和一一、八、二三后
於司令官々邸

(註)本會談概要ハ廿四日午前川越大使カ總領事官邸ニ於テ爲サレタルモノニシテ參聽者ハ外務關係者ノミナリ

田尻 昨日(廿三日午)大使ト司令官トノ會談ニ就キ承ハリ度シ

大使 昨日ハ大体ニ於テ司令官ノ希望及意見ヲ聞クニ止マツタ譯タカ左記六ヶ條ニ就キ述ヘラレタ

(一)華北ト云フ字句ハ往々冀察二省ノ意味ニ取ラレテ居ル様タカ右ハ北支五省ヲ呼稱スルモノト御含願ヒ度シ

(二)人事問題

北支ノ人事ハ南京政府カ一々指圖セストモ北支支テ出來ル様ニシタイ意向ニ付自分(大使)ヨリモソウ云フ風ニ仕向ケテ貰ヒ度シ又韓復榘ハ支持シ度

シテ置イタ

(四)冀察ノ開發ニ就テハ

- 1、航空協定
 - 2、龍烟鐵礦
 - 3、津石鐵道
 - 4、井陘炭礦
 - 5、塘沽築港
- 等ヲヤリ度イト云フ意見テアツタノテ之ニ對シ自分ハ津石線ニ力ヲ入レテ居ルト述ヘテ置イタ尙其ノ際十河社長(興中公司)カラ龍烟モ採算カ取レルト聞ヒタ旨述ヘテ置イタ

(五)南京政府ニ對シテハ既成事實ヲ破壞セヌ様工作シテ貰イ度トノ事タツタカラ承知シテ置イタ

(六)從來北支工作ヲ派手ニヤツタ人モ有ルカ司令官トシテハ成ル可ク夫ハヤラナイ考テ不言實行ヲ主旨トシテイルカラ東京、上海テモ余リ宣傳シナイ様ニ云ツテ貰ヒ度イトノ事タツタカラ自分ハ同感テアルト述ヘテ置イタ。

(終)

564

昭和11年10月5日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

華北行政問題の具體的方策をめぐる吳震脩と
の意見交換について

南京 10月5日後発

本省 10月5日夜着

第七九一號

往電第七九〇號ニ關シ

三日黃郛見舞ノ爲メ張群、張公權ト共ニ赴滬上海ニ於テ日
支問題特ニ北支處理方法ニ關シ相談シ四日歸寧セル吳震脩
カ更ニ本五日高宗武トモ話合ヒタル趣ヲ以テ本日本官ト會
談ノ要領左ノ通り

一北支五省七項目ニ關スル支那側對案ハ誰モ勇氣ヲ以テ作
成スル者ナク何レ蔣介石ノ意嚮大體見極メタル後張公權、
高宗武位ノ手ニテ立案シ見シカト考ヘ居ル程度ナルカ張
公權等ヨリ求メラルル儘ニ自分(吳)ハ最善ノ案ハ黃郛ヲ
北上セシメタル當時ノ事態ニ返スコトトシ先ツ吳鼎昌ヲ
シテ五省ノ政務ヲ中央ニ代リテ處理スヘキ職ニ當ラシメ
清朝時代モ行ヘル便宜行事ヲ實現セシメ主權ニモ行政權

ト述ヘタリ

565

昭和11年10月14日

在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

經濟開發に關する田代司令官との諒解事項実
行のため宋哲元が担当者指名したとの情報
について

付記 昭和十一年十月三日付橋本支那駐屯軍參謀長

覚書

「經濟開發ニ關スル諒解事項」の署名経緯に
ついて

北平 10月14日後発

本省 10月14日夜着

第五三五號(極秘)

十四日松室少將ノ談ニ依レハ十三日宋哲元ハ同少將ニ對シ
過般ノ田代司令官トノ協定實行ニ付テハ折角攻究中ナルカ
航空ハ張允榮、津石鐵道ハ陳覺生、龍烟鐵礦ハ陸宗輿ヲシ
テ夫々當ラシムルコトトシ陳ニ對シテハ既ニ二十三日籌備津
石鐵路事宜ヲ命シタル旨語リタル趣ナリ

ニモ波瀾ヲ來タササル特別政治ヲ行ハシムルコト妙ナル
カ吳ノ下ニハ陳博生又ハ胡霖等ヲシテ祕書格タラシムル
コト得策ナラント申出テ置ケルカ張公權ハ面白キニ付何
レ本官トモ話シ見度シト答ヘ居タリト述ヘタリ

二、右ニ對シ本官ヨリ北支ノ所謂便宜行事ニ當ル組織ハ大イ
ニ攻究ノ要アルモ日本側ノ結論トシテハ特政會ヲ實行ス
ルコト然ルヘク唯冀ニ於テハ既ニ一定ノ事實ヲ生シ居ル
譯ナレハ右ハ其ノ儘續クルコト絕對必要故其ノ意味ニテ
特政會ノ内容ヲ加減シ置ク要アリト述ヘタルニ吳ハ實ニ
妙案ト思考セラルル處之カ爲メニハ嘗テ王克敏ヲ冀察委
員會總議格ニ擬シタル經緯モアリ吳鼎昌ヨリハ或ハ王ヲ
シテ政治ノ實際ニ當ラシムルコト各方面トモ便宜カトモ
思考セラルト述ヘ尙張公權、高宗武ハ行政院及蔣介石雙
方ヨリ立案ヲ内密委任セラレ居ル處日本側カ川越大使ヨ
リ蔣介石ニ直談判方ヲ餘リニ主張セラルル爲多少悄氣味
ナレハ適當ノ機會ニ本官ヨリ大使蔣間ノ大局的會談ト併
行シテ下打合ヲ進メラレ度ク尙自分ヨリモ出來得ル限り
ノ側面的努力ヲ致スヘキカ結局日本側ト張公權等ト委員
會位ノ氣持ニテ相當時ヲ掛ケ案ヲ練ルコト必要ナルヘシ

支、在支各總領事、張家口ヘ轉電セリ

(付記)

昭和一一、一〇、三

天津軍參謀長

第二次北支處理要綱ニ基キ殊ニ經濟開發ニ關シ過般來軍司
令官及宋哲元數度ニ亘リ懇談シタル處概ネ兩者ノ意見ノ一
致ヲ見冀察側ハ着々之ヲ實現セントスルノ氣勢ヲ示シタル
ヲ以テ將來ノ憑據タラシメンカ爲左ノ通り諒解事項トシテ
文書ヲ作製シ九月三十日署名調印セリ本諒解事項ハ所謂契
約又ハ協定等ノ性質ヲ有スルモノニアラスシテ冀察側ニ目
標ヲ示シ其決意ヲ促サントスル爲ノ軍ノ内面指導ノ資料ナ
リ將來本諒解事項ヲ有效適切ニ運用シ急速ニ北支經濟開發
ヲ具現化センコトヲ期ス尙本件ハ主トシテ日支提携ノ企業
關係ヲ示シタルモノナレハ金融、關稅、財政等ハ除外セリ
又出先海軍側及總領事館側ニモ打合セ濟ミナリ、取扱極秘
トセラレ度

經濟開發ニ關スル諒解事項

日支敦交經濟提携ハ正ニ焦眉ノ急ナリ九月三十日天津軍司令官田代皖一郎及冀察政務委員會委員長宋哲元ハ冀察經濟開發ニ關シ懇談シタル所左ノ如ク意見ノ一致ヲ見タリ依テ茲ニ記錄ニ止メ將來ノ準據タラシム、尙併セテ之カ實施ノ具體的事項ニ就テハ各々部門ニ從ヒ研究審議ノ上急速ニ實現スルコトヲ申合セタリ

一、日支經濟提携ノ原則

- (一) 共存共榮ノ原則ニ從ヒ日支均等ノ利益ヲ收ムルコト
- (二) 經濟提携上日支ハ平等ノ立場ニ於テ總テヲ律スルコト
- (三) 各種經濟開發ノ事業ハ支那側ノ對日借款ニ依ルカ又ハ日支合辦ノ企業形態ニ依ルコト日本軍ハ之カ爲日本側ヨリ莫大ナル資本ト優秀ナル技術トヲ招致スヘク斡旋ス
- (四) 民衆ノ福祉増進ヲ計リ安居、樂業ヲ得ルコトヲ主眼トスルコト

二、

(一) 航空

定期航空事業經營ヲ開始ス

(二) 鐵道

産業ノ根幹タルヘキ鐵道ヲ敷設ス之カ爲先ツ津石鐵道ヲ新設ス

(三) 炭 礦

優良炭礦ヲ開發ス之カ爲先ツ「(鐵礦者カ)コウケン」社ノト協商シ井陘、正豐炭礦ノ増産ヲ促進ス

(四) 鐵 礦

鐵礦ヲ探查採掘シ製鐵事業ヲ勃興ス先ツ差當リ龍烟鐵礦ノ開發ヲ行フ

(五) 築 港

北支物資ノ輸出ヲ容易ナラシムル爲塘沽附近ニ於テ先ツ地點ヲ選定シ調査研究ヲ行ヒ鐵道及鑛山ノ開發ニ伴ヒ同地ニ築港ス

(六) 電 力

電業ヲ擴充シ且水力資源ノ開發ヲ行フ

(七) 農漁莊ノ振興

民力涵養ノ爲農漁莊ノ福祉増進ヲ計ル之カ爲先ツ棉花、鹽、羊毛ノ對日輸出ヲ促進シ且治水、水利ヲ行フ

(八) 通 信

既存施設ノ統合改善ヲ行フ之カ爲資本技術員ヲ要スル

時ハ日本ノ助力ニ依ル

昭和十一年九月三十日

天津軍司令官 田代皖一郎

冀察政務委員長 宋 哲 元

566

昭和11年10月21日

在天津堀内総領事より
有田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員會委員就任に關する李思浩の抱

負について

天 津 10月21日後発

本 省 10月21日夜着

第四八四號(極秘)

本官先月上海出張ノ節李思浩來訪實ハ宋哲元ヨリ數回人ヲ介シテ北上ノ方憑ヲ受ケ居レリトテ相談ヲ受ケタルニ對シ本官ヨリ冀察入ニ付テハ豫メ冀察内部諸派ト聯絡疎通ヲ爲シ且南京ヨリ充分ノ授權ヲ得置クコトカ前提條件ナル旨説述セル處南京授權ハ困難ナルモ就任スル以上ハ相當大膽ニ遣ル積リニテ南京ニハ聯絡モアリ大ナル反對ナキ様仕向ケ得ル見込ナリト語レル次第アリタルカ十九日就任挨拶ノ爲

陳覺生同道來訪本官ニ對シ今般田代司令官ト宋トノ間ニ經濟開發ニ關スル了解事項モ調印ヲ了シ宋ニ於テ愈々右實行ノ肚モ定マリタリト認メタルニ付就任セリト述ヘ陳ヨリハ李ノ北上ニ付テハ陳ヨリ軍司令官ノ内意ヲ伺ヒタルニ能ク遣ルナラハ結構ナリト挨拶アリタリト言ヒ共ニ李ヲ各方面ヘ聯絡引廻方希望セルニ依リ本官ヨリモ冀察入ノ使命ハ誠意ヲ以テ中日經濟合作ヲ進行セシムルニアル次第ナレハ之カ實績擧カラサレハ各方面ノ信用ヲ得難カルヘシト述ヘ置キ翌二十日館員ヲシテ夫レトナク李ノ具體的意嚮ヲ質サシメタル結果左ノ通り

李ハ不日上海ヘ行キ家族ヲ引纏メ來ルヘキモ必要ナキ限り南京ヘハ赴カサル積リナルカ自分今回ノ就任ハ至ク宋ニ於テ經濟合作ノ決意カ付キタル爲ナリ尤モ二十九軍將領及冀察關係者トノ關係ハ深カラス諸事不便ナシトセサルモ宋ノ命令アレハ何事モ行ヘル次第ナルニ依リ前記田代、宋了解事項ニ基キ諸般ノ工作ヲ實行スヘシ但シ差當リハ龍烟鐵礦及津石線ニ着手スル積リニテ今回ノ龍烟ノ冀察接收ハ其ノ第一歩ナリト語レルニ付館員ヨリ諸般ノ經濟工作ヲ實行スルニ當リ一ニモ二ニモ出資ヲ日本ニ仰クカ如キハ面白カラ

ス宜シク過之翰等トモ聯絡シ現在取遣ノ財政ヲ矯正シ冀察
 稅收ヲ確立シ軍費及政費ヲ節シ産業資金ヲ捻出シ日本ノ出
 資ハ必要已ムヲ得サル場合ニ限り材料、技術ノ輸入ヲ本則
 トスルノ必要アリ又特ニ右ノ軍費ノ節減ハ河北省ノ現狀及
 民衆ノ立場ヨリセハ當然ノコトナルヘシト言ヘルニ對シ李
 ハ財務方面ハ自分ハ關係ナキモ充分注意スヘシ關稅ハ先ツ
 外債擔保部分ヲ除ケルモノノ引渡ヲ南京ニ要求シ右成功セ
 サルトキハ内債擔保部分ノ幾分ヲ冀察ニテ負擔スルコトニ
 テ妥結スル外ナカルヘシ二十九軍ニハ先ツ絶對手ヲ着ケ難
 キモ商震、萬福麟、馮占海等雜軍ハ機ヲ見テ宋ヲ説キ南京
 ヘ押付ケル様工夫スル積リナリ經濟事業ノ資金關係ハ未タ
 何人ニモ話シタルコトナキモ今後ハ色々聯絡示教ヲ得度シ
 ト答ヘタル由ナリ

支、北平、南京、青島、濟南ヘ轉電セリ

567

昭和11年10月30日

在南京松村總領事代理より
 有田外務大臣宛(電報)

華北での日本軍演習に対する外交部の抗議に
 ついて

支、北平、天津ヘ轉電セリ
 支ヨリ北支ヘ轉報アリタシ

568

昭和11年10月31日

在中国川越大使より
 有田外務大臣宛(電報)

南京における対日空氣の硬化に驚き李思浩が
 北上を暫時延期したとの情報について

上海 10月31日後発
 本省 10月31日夜着

◎
 第八八一號(極秘)

當地支那某要人ノ館員ニ對スル内話左ノ通御參考迄

一、李思浩ハ上海ニ歸來當日上海各界救國聯合會ヨリ脅迫狀
 ヲ受ケ當地在住安福系要人連モ李カ再度北上シ所謂日支
 經濟合作ニ從事スルコトハ李本人ハ兎モ角安福派ノ者カ
 迷惑スル所大ナリトテ李ニ北上ヲ思ヒ止マル様勸告シ居
 ル由ニテ李ニアリテモ當地及南京ヲ中心トスル南方ノ對
 日空氣カ意外ニ硬化シ居ルヲ見其ノ態度遽ニ消極的トナ
 リ最近當地ニアル近親者ニ對シ北上ハ暫ク四圍ノ推移ヲ
 見極メタル上決定スル肚ナル旨申來レル趣(李ハ目下鎮

◎
 第八八七號

南京 10月30日後発
 本省 10月30日夜着

北支ニ於ケル皇軍ノ演習ニ關シ外交部ハ本三十日係員ヲ派
 シ口頭竝ニ覺書ヲ以テ右演習ハ人員七千ニ達シ天津郊外ノ
 民家三百餘戸強制徵收セラレ爲ニ人民二千餘名寄宿ヲ失ヒ
 且人夫、薪炭ヲ徵發シ戰鬪激烈ナル爲附近一里以內交通杜
 絶シ民家モ大半破損セラレ農作物モ芟除セラレ豐臺ニ於テ
 モ民家ノ破壊セラレタルモノ鮮カラサル旨報告ニ接シタル
 カ外國軍隊カ支那領土内ニ於テ斯ノ如キ大規模ノ演習ヲ爲
 スハ驚クノ外ナク殊ニ前述ノ如キ種々ノ行爲ハ不法ノ尤タ
 ルモノ況ヤ豐臺ニハ駐兵權ナキヲ以テ明カニ條約竝ニ國際
 公法違法ニ付直ニ演習停止ノ上損害賠償アリ度キ旨申出テ
 タルヲ以テ不取敢本官ヨリ演習ハ地方當局ニ於テ了解濟ナ
 ルモ民家ノ徵發、損傷農作物ノ被害等ニシテ正當ノ理由アル
 ルモノニ對シテハ勿論當事者ニ於テ然ルヘク措置スヘク殊
 更取立テテ問題トスル理由ナカルヘシト輕ク應酬シ置キタ
 リ(雨宮武官ト打合濟)

原文郵送ス

海ニアリ

二、日支交渉ニ關シ一般支那人ハ日本ノ對支要求ハ漸次軟化
 シ來ルモノト信シ又南京要路ニ於テモ日本ハ到底武力ヲ
 行使シ得サルカ左リトテ今更提案ヲ引込メルコトモ出來
 サル手前モアリ恐ラク漸次要求ヲ緩和シ遂ニハ支那ニ泣
 ヲ入レテ其ノ一部ノ承認ヲ求メ來ルヘキニ付(最近内地
 新聞カ遽ニ強硬論ヲ唱ヘ出シタルモ日本側ノ苦境切抜策
 ニ過キスト一般ニ觀居レリ)支那側トシテハ緩リ構ヘテ
 日本ノ泣着キヲ待ツ一面抗日戰備ヲ擴充シ日本殊ニ北支
 ニ於ケル少壯軍人ヲ牽制スル一方國民ノ抗日愛國熱ヲ煽
 リ立ツルコト最得策ナリトノ意見ニ一致シ居ルモノノ如
 シ

北平、天津、南京ヘ轉電セリ

569

昭和11年11月7日

在天津堀内總領事より
 有田外務大臣宛(電報)

華北での日本軍演習に対して現地中国側官民
 が好意的態度を示しているとの田代司令官説
 明振りについて

天津 11月7日午後
本省 11月7日夜着

第五〇六號

南京發貴大臣宛電報第八八七號ニ關シ

田代司令官ノ六日本官ヘノ話ニ依レハ支那側官民一般ハ今回ノ大演習ニ對シ常ニ好意の態度ヲ示シ司令官北平着ノ二日ニハ宋哲元ハ大學學長外官民有力者數十名ヲ陪實トスル午餐ニ於テ冀察トシテハ互惠平等ノ原則ニ基キ着々日本トノ經濟合作ヲ進ムル方針ナル旨ヲ詳細説明シ司令官之ニ照應スル挨拶ヲ爲シ蔣夢麟等モ司令官ニ對シ右趣旨ニ贊成スル旨ヲ語り居タルカ演習及宿舍ニ對スル地方官民ノ接待振ハ内地ニ劣ラス軍側ニテハ宿舍其ノ他物質供給ニ對スル代金支拂、兵士ノ支那民衆ニ對スル態度等ニ付テハ常ニ周到ノ注意ヲ拂ヒタル爲支那側ニ何等不平非難等ナキコトヲ確メタルノミナラス縣長等ヨリ日本軍ノ規律アリ親切ナル行動ニ付感謝シ來ルモノサヘアリタル位ナリ又四日演習終了後司令官主催ノ夜宴ニハ兩國官民三百餘名ヲ招待シ其ノ節多數ノ二十九軍將校ハ日本軍側ト友軍ノ交驩ヲ爲シ支那側一般ニ對シ多大ノ好感ヲ與ヘタル趣ナリ(同夜宴ニ參加セ

外務大臣 有田 八郎殿

西田顧問ト宋哲元トノ會談要旨報告ノ件

本件ニ關シ西田顧問ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付同寫御參考迄ニ送付申進ス

本信寫送付先 在支大使 南京 天津

(別紙)

宋哲元トノ會談要旨報告ノ件

十二月一日日本官宋哲元トノ會談要旨左ノ通り

一、綏遠問題ハ元來傳作義カ閭錫山ニ欺カレ王英ノ土地ヲ沒收シ或ハ綏境蒙政會ヲ樹立シ蒙古側ノ切崩シ及壓迫ヲ企テタルニ依ルモノニシテ其裏面ニハ蔣亦閭ヲ欺キアリ一面共產軍陝北ヨリ漸次北進シ綏蒙間ノ間隙ニ乘シタルモノニシテ王英軍ノ如キハ綏遠當局ニ於テ懷柔スヘキモノヲ遂ニ今日ノ如ク事態ヲ擴大セルモノナリ
百靈廟ニハ蒙兵二百内外ニ過キス戰鬪ラシテ戰鬪ナカリシモ中央側ニ於テ大勝セル如ク大ニ宣傳ニ努メ民心ヲ喚起シ居ル次第ナルカ傳作義ハ當面ノ責任者ナルカ閭錫山ハ山西軍ノ實力削減ヲ懸念シ直接正面ニ使用セサル事ニ

ル外國新聞記者モ大體同様ノ印象ヲ得タルモノナルヘク七日「ピーティー、タイムス」ハ其ノ意味ヲ論說ヲ掲ケ居レリ(唯學生ノ一部(蔣ハ司令官ニ對シ學生中三分ノ一ハ共產系、三分ノ一ハ國民黨ニ操縦セラレ居ルモ其ノ他ハ無關心ナリト語り居タル由)及共產黨ノ連中ハ民衆及二十九軍ニ勵キ掛ケテ極力演習反對ノ氣勢ヲ擧ケントシタルモ支那側ノ取締嚴重ニシテ其ノ目的ヲ達セサリシモ彼等ハ南京方面ニ右趣旨ノ宣傳ヲ行ヒ居レリ南京側ニテハ右真相ヲ承知シ居ラサルヤニモ認メラルルニ付何等御參考迄
支、北平、在支各總領事、厦門、滿ヘ轉電セリ

570

昭和11年12月7日

在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛

綏遠事件および蔣介石への評価等に関する宋

哲元の西田顧問に対する内話について

機密第八一〇號

(接受日不明)

昭和十一年十二月七日

在中華民國(北平)

大使館一等書記官 加藤 傳次郎

腐心シ之ニ對シ中央軍ハナルヘク山西軍ヲ使用セントスルモ閭錫山カ山西軍ヲ出シ濫フル爲蔣モ已ムナク中央軍ヲ北上セシメタル次第ナルモ氣候風土其他ノ影響ヲ受ケ大ナル活動ヲ期待シ得ルモノトハ思ハレス之ニ對シ蒙古側モ亦漸次陣容ヲ整フルニ努力セルモ有力ナル部隊カ急ニ出來上ルモノトモ思ハレス要ハ日滿側ノ背後援助カ如何ナル程度ナルヤカ問題ナルモ現ニ兩軍共陣地配備中ノ狀態ナリ

冀察兩省ハ事件地ニ隣接セル關係上中央ヨリ種々ノ註文ヲ受ケアルモ自分トシテハ冀察政權内ノ治安ニ影響セサル限り何等ノ處置ニ出テサル考ナリ

學生等ノ抗日又ハ綏遠ニ出兵請願ノ如キ運動ニ對シテハ大局ヲ顧慮セス共產黨其他ノ煽動ニ惑サレ日支正面衝突ノ如キ不幸ナル事態生スルニ於テハ冀察ノ覆滅ヲ招來スル虞アリトテ篤ト諭スト共ニ過激行動ヲ嚴禁シ部下軍隊ニ對シテモ昨卅日南苑ニ赴キ此旨ヲ訓示セル次第ニシテ冀察ニ關スル限り軍隊ハ勿論學生其他一般民衆ノ盲動ハ嚴重ニ取締ルニ付安心アリタシ

以上ノ如ク綏遠問題ハ目下兩者對立中ニシテ之以上ニ事

態ヲ擴大スルコトナク地方問題トシテ解決スルヲ可トスルモ的^(一)下ノ所尙其時機ニアラス將來適當ノ時機ヲ見テ何等カノ方法ニ依リ雙方話合スルノ要アルヘシ

(右ニ對シ本官ハ日本側ニ於テハ冀察カ誠意ヲ以テ日支ノ關係ヲ保持スル限リ當方面ニ事件ノ波及ヲ避クル方針ナルハ勿論ニシテ松室少將亦此點ニ慎重ナル考慮ヲ拂ハレ居ル次第ナリト傳ヘ置キタリ)

ニ蔣介石ハ大處高處ヨリ時勢ヲ觀察スルノ見識ナク狹量ニシテ對内的ニハ人ヲ利用シ專ラ自己ノ勢力擴張ヲ謀リ對外的ニモ亦此方法ヲ用フル爲各方面ヨリ信用ヲ落ス次第ニシテ對日交渉ノ如キモ眞ニ誠意ヲ披瀝セハ今少シク好結果ヲ來ス筈ナルニ實際ハ同族相食ミ同種相爭フモ之ヲ辭セサル態度ニ出テ共產黨ハ支那ヲシテ抗日ニ向ハシメントシ英米亦全般的日支提携ヲ妨害シ殊ニ英國ノ支那ニ對スル手段ハ深刻ナルモノアリ「リースロス」ノ如キハ支那財政ヲ根本的ニ動搖セシメタルモノニシテ中央財政ノ内情ヨリ言ヘハ今日迄ニ現銀ノ流出セル額英國ニ六億弗、米國ニ四億弗ニ達スル狀態ナリ本年「リ」氏ハ二回北平ニ來リタルモ其間余ハ一回モ之ト會見セス曾テ香港

共ニセルモノニシテ斯ノ如キ策謀ニ乘セラルル事ナカルヘシ余個人トシテモ單ナル帽子トナル意思ナシト述ヘタリ

冀東ニ就キテハ殷汝耕カ國利民福ヲ計リ地方ノ治安ヲ維持シ其發展ヲ策スルハ良キ事ナカラ五色旗ヲ掲クルニハ未タ彼ニ其資格足ラス徒ラニ一般人心ヲ刺戟スルハ彼ノ錯誤ニシテ彼ノ爲ニ惜ム所ナリ將來其成績ノ向上ヲ希望スル次第ナリ

571

昭和11年12月12日

在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

綏遠問題の進展に氣を良くした蔣介石が宋哲元に対して冀東政權の回収を命じたとの情報について

北平 12月12日後発
本省 12月12日後着

第六七九號

十二日冀察政務委員會參議楊敬辰ノ館員ニ對スル内話ニ依レハ蔣介石ハ最近綏遠問題カ有利ニ進展シツツアルト英國

ニ於テ某人ヨリ「リ」ニ宋ト會見ノ有無ヲ尋ネタルニ「リ」ハ之ニ答ヘテ「宋ハ某國ノ注意ニ依リ會見セザリキ」ト述ヘタル由ナルモ余ハ日本側ヨリ之ニ對シ何等ノ注意ヲモ受ケタル事ナキニ拘ハラス斯ノ如ク答ヘタル有様ニテ遠カラス支那財政ノ行詰ニヨリ蔣ハ英國ニ欺カレタル事ヲ覺ル時期アルヘシ

三、過般南宮ニ於テ韓復榘ニ會見シタル際華北問題ニ就キテモ話合ヒタルカ韓モ亦余ト同感ニシテ世上韓ノ地位ニ就キテ種々ノ謠言アルモ韓トシテハ保境安民日支提携ノ素志ニ變リナク對日問題ニシテモ一部ヲ抗日手先ニ使ハントスルカ如キ蔣ノ計畫ニハ從フ能ハス現ニ彰德ニ在ル龐炳勳又ハ青江浦、海州方面ニ於ケル孫連仲ノ如キニシテモ決シテ韓ニ反對シテ山東ヲ衝クカ如キ事ナカルヘシ四、(本官ヨリ蔣介石ハ傍系勢力ハ極力之ヲ解消シ若シ此目的ヲ達セサルモノニ對シテハ其主要人物ノ部下ニ實權ヲ握ラシメ主要人物ハ單ニ帽子トスル政策ヲ採リ冀察ノ如キモ漸次其一例ニナラントスル噂アリ此ノ如キハ一ツノ謠言ニ過キサルモノト思ハルモ注意セラルルノ要アルヘシト述ヘタル處)宋ハ冀察ノ現當局者ハ多年余ト進退ヲ

側ノ尻押ニ氣ヲ良クセルモノト見エ十日西安ヨリ宋哲元ニ對シ向フ四十日ヲ限リ冀東ノ回收方ヲ密電シ來リタルヲ以テ宋ハ十一日午前政務委員會ニ齊燮元、秦德純、劉哲、王義樾、過之翰、雷嗣尙等要人十一名ヲ招集討議シタルカ宋トシテハ時局ニ對シ飽迄守勢ヲ執ル肚ヲ決メ居リ冀東ノ回收ノ如キハ到底實行不可能ナルヲ知悉シ居ルヲ以テ事實上握潰スコトトシ蔣ヘハ然ルヘク糊塗シテ返電スルコトトセル趣ナリ

支及在支各總領事、張家口ヘ轉電セリ

572

昭和11年12月17日

在天津堀内総領事より
有田外務大臣宛(電報)

西安事件に対する冀察政務委員會の対応方針につき陳覺生内話について

天津 12月17日前発
本省 12月17日後着

第五五五號

西安事件ニ關シ十五日陳覺生ノ館員ニ對スル内話左ノ通り一、蔣介石ノ生存説ハ南京政府カ動搖ヲ防カン爲放送セルモ

ノニテ蔣ノ死亡ハ疑ナカルヘキカ蔣死スレハ冀察政府ハ頗ル氣輕トナリ殊ニ宋哲元ハ最蔣ヲ恐レ居タルニ付今後ハ日本トノ合作ヲドシ遂行スヘク又假令蔣生存スルモ冀察ノ方針ニハ何等變更ナカルヘシ過日西安事件第一報入手ノ際北平ニテ軍事會議開催セラレ自分モ参加セルカ其ノ結果既定方針ニ依リ進ムコトニ決定セリ(田代司令官ニ對シテモ十五日同様ノ話ヲ爲シ又參謀長ニ對シテハ今後防共ニテ進ミ度シト述ヘ居タル趣ニテ又冀察側ニテハ南京トノ關係ヲ顧慮シテ從來延々トナリ居タル通車増發問題ニ付南京ニハ事後報告ニテ濟マスコトニ最近決定シ目下事務的打合中ノ趣ナリ)

一、館員ヨリ蔣死シタリトセハ華北五省ハ今後如何ナル變化ヲ來スヘキヤト問ヘルニ對シ陳ヨリ韓復榘ト宋哲元トノ關係ハ依然良好ニシテ韓カ日本トノ提携ヲ希望シ居ル氣持ニハ何等變化ナキモ日本カ何ノ程度迄後援スルヤ判然セス加フルニ韓ハ蔣ヲ恐レ居タル爲從來ノ如キ煮ヘ切ラサル態度ヲ持シ居タルカ蔣ノ死確實トナリ日本カ本腰ニテ後援シ吳ルルコト判明セハ今後ハ從來ニ比シ一步ヲ進メ宋ト合作スルニ至ルヘシ閻錫山ハ元來親日的ナリシモ

蔣介石ヲ是非共救出セサルヘカラスト爲ス者ト國ヲ救フテ人ヲ救ハス即チ國ノ爲ニハ蔣ノ犠牲性トスルモ已ムナシト爲ス者トアリテ種々解決方法ヲ考ヘ居レルモ未タ妙案トテ考付カサルカ如シ然レトモ今ヤ蔣ノ生命ハ政治問題ノ中心ヲ離レツツアリ學良ハ容易ニ蔣ヲ放タサルヘク其ノ救出ハ中々困難ニシテ假令妥協成立シ蔣カ生還シ得ルトスルモ右ハ蔣ノ學良ニ對スル屈伏ニシテ既ニ其ノ政治的生命ハ失ハレタルモノト爲シ得ヘシ

ニ宋哲元ハ目下西安事變ノ對策及冀東取消ノ兩問題ニテ頗ル惱ミツツアリ即チ今ヤ時局ハ最重要ニシテ國民政府モ西安事變ノ處理ニ當面シ聯蘇各容共カ親日反共カノ岐路ニ立テルカ幸ニシテ綏遠ノ事態ハ内蒙軍ノ自制ニ依リ小康ヲ得ルモ日本カ此ノ機ニ乘シ更ニ同方面ニ於テ事ヲ繁クスルカ如キコトアラシカ防共ノ障礙ヲ爲セル傳作義軍ハ腹背ニ敵ヲ受ケ終ニ崩レテ共產勢力ハ直接熱河ニ迄及フニ至ルヘキヲ以テ之ヲ爲ササルハ賢明ナリ日本カ此ノ支那ノ危局ニ乘スルコトナク公正ナル態度ヲ持セハ支那國民全般ノ對日空氣ヲ一轉セシムル上ニ大ナル效果アルヘシ冀東ノ取消ハ冀察側年來ノ要望ニシテ又出先軍部モ

日本側特務機關ヲ太原ニ設置セル當初ニ於テ種々感情ノ行違アリ急ニ日本ヨリ遠サカルコトナレリ日本側派遣員ニ於テ餘程慎重ノ態度ヲ取ラレ支那人情、習慣乃至立場ヲ尊重セラレ閻ノ氣持ヲ軟ケラルルコトモナラハ同人ハ再ヒ親日的トナルヘク其ノ上ハ山西工作ハ大半成就セリト言ヒ得ヘシト云々

573

昭和11年12月25日

在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

冀東政權解消問題や西安事件に対する宋哲元
態度などに関する賈德耀内話について

北平 12月25日後発
本省 12月25日夜着

第七一五號

二十四日日本官賈德耀ト二時間半會談セルカ其ノ内話要領左ノ通り

一、西安事變ハ單ニ支那一國ノ問題ニアラスシテ實ニ東洋ノ問題ニシテ又其ノ影響ハ世界的ナリ從テ之カ解決ヲ誤ラシカ取返シノ付カサルコトトナルヘシ國民政府部内ニハ

取消シヲ約シ居タルモノナルカ冀察側ニ於テ誠意ヲ以テ明朗化ニ努力シ經濟ニ關スル了解事項ヲ始メトシテ航空協定モ調印シ其ノ他種々ノ準備ヲ進メ居ルモ日本側ハ未タ右約束ヲ果ササルハ了解ニ苦シム所ナリ自分ハ此ノ際冀東ヲ取消シ之ヲ塘沽協定ノ「ライン」迄引戻シ日本ト冀察ノ關係ヲ調整スルコト合理的ト考ヘ居レリ既チ斯セハ冀察トシテハ對外的ニハ親日反共ヲ標榜スルハ日本ノ指金ニシテ日本ノ大陸侵略ノ手先トシテ動クモノナリトノ誹ヨリ免レ對内的ニハ人心ノ安定行政的完成ニ伴フ防共ノ徹底ヲ圖リ得ラルルノミナラス堂々トシテ全國ニ呼ビ掛ケ天下大衆ヲシテ此ノ防共親日ノ大道ニ引入レシムルコトヲ得ル次第ナルモ

現狀ニテハ全國ノ先稟トナリ防共親日ノ模範ヲ作り以テ全國ヲ率キントスルモ國民ハ冀察ヲ以テ日本ノ傀儡ト目シ問題トセサルヘシ内部的ヨリ見ルモ當方ニテ共產主義者ノ徹底的檢舉ヲ行ハントスルモ犯人冀東地區ニ逃ルレハ如何トモ爲シ難キ狀況ナリ而モ西安事件ハ凡ユル意味ニ於テ冀東問題解決ノ最良ノ「チャンス」ナリ此ノ點ハ日本側ニ於テ宋ノ立場竝ニ日支ノ大局ニ目ヲ注ガレ深甚

ナル考慮ヲ拂ハレンコトヲ切望ス

三 宋ハ徹頭徹尾反共ニシテ北平ノ學生ノ如キ如何ニ蠢動スルトモ之ヲ彈壓スルハ譯ナキコトニテ國民ノ大多數亦反共ナリ唯忌憚ナク言ヘハ從來日本カ餘リニ支那ヲ馬鹿ニセルコトカ現在ノ抗日聯蘇ノ空氣ヲ醸成セルモノナルカ西安事件ハ國民九割ノ抗日氣勢ヲ既ニ三割方減殺シタルモノト見得ヘシ残り六割ノ解消是正モ至ク今後日本ノ出方如何ニ懸リ居レリ而モ右ハ今日ヲ措キテ再ヒ好機ナシト斷言シ得ヘシ

四 韓復榘ハ反共ノ主張ニ於テハ宋ト完全ニ一致シ居リ閻錫山ハ反共ナレトモ多少其ノ考方ヲ異ニスヘシ從テ冀東問題解決シ冀察ノ明朗化カ實現スルトキ風ヲ望ミテ來ル者ハ先ツ韓ナルヘシ

五 宋ト韓ノ二十三日附連名通電ノ主張ハ西安事件ノ政治的解決慾憑ニアリテ蔣ノ救出ハ唯附足シニ過キス右ハ一見矛盾アルカ如キモ實ハ然ラス即チ蔣ノ生死ハ前述ノ通り既ニ政治的意味ニ於テ重要性ナキニ至レルヲ以テナリ宋、韓カ何故政治的解決ヲ主張セルヤハ武力解決ニ伴フ混亂ト損失竝ニ其ノ後ニ於ケル事態ノ收拾ノ困難ヲ憂慮セル

三十日本官病氣見舞ノ爲宋哲元ヲ往訪ノ際其ノ爲セル内話要領左ノ通り

一 蔣介石歸寧後ノ南京政府ノ政策ハ未タ判然セサルモ容共抗日ノ如キハ到底實行不可能ノコトニシテ蔣ニ於テ些カナリトモ學良ノ政治的主張ヲ容ルルカ如キコトアランカ蔣ハ其ノ地位ヲ保ツヲ得サルニ至ルヘシ支那ハ大國ナレハ獨裁ハ其ノ國情ニ適セサルヲ以テ各地方ノ意見ヲ容ルルコト最肝要ニシテ蔣ノ政治的生命ハ今後ニ於ケル其ノ遣方一ニアリ

二 自分ハ日提携東亞ノ和平ヲ念トシ來レルカ率直ニ申セハ日本側カ冀東問題ノ如キ日本ノ利益トモナラス又日支親善上何等ノ意義ヲモ爲サス却テ一般支那人ニ不安ヲ抱カシムルニ過キサル問題ヲ未解決ノ儘放置シ居レハ感心出來ス特ニ最近冀東政府ノ易^易。職ヲ斷行セシメタルハ右不安ヲ高揚セシムル結果トナリ寔ニ遺憾ナリ冀東ノ取消ハ急ニハ出來サルヘキモ日支ノ間ハ何事カ斯カル大問題ヲ捉ヘ一舉ニ解決シテ心民^{民心}ノ一新局面ノ轉廻ヲ計ルコト必要ナリト考ヘ居レリ猶西安事變ノ解決如何ニ拘ラス親日反共ノ自分ノ主張ハ從來ト異ル所ナク經濟提携モ日本側

結果ナリ然レトモ南方カ學良ノ主張ヲ容レ中央政府ノ改組、聯蘇容共政策ノ採用ヲ見ルカ如キコトナリテハ大變ニシテ萬一斯ル結果トナラハ宋ハ韓共ニ中央擁護ヲ主張スルコトナカルヘシ茲ニ政治的解決ノ技術的困難存在スル次第ニシテ南京トシテモ苦心シ居ルモノト思ハル六、韓ノ代表團^{代表團}。承烈^{承烈}、何應欽代表何競武^{何競武}。目下夫々滯平中ナルカ右ハ聯絡ニ來レルモノニテ何分ニモ西安事件ノ真相未タ的確ニ判明セサル際トテ何レモ時局收拾ニ關シ定見ヲ有セサル模様ナリ又戈定遠ノ南下モ狀況見極メノ爲ナリ云々

574

昭和11年12月31日

在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

冀東政權の解消要望ならびに蔣介石は容共抗日への政策転向は行わないとの見通しに関する宋哲元内話について

北平 12月31日前発

本省 12月31日前着

第七二六號

ノ都合サヘ着ケハ着々實行ニ移ス決心ト準備アリ之ト冀東ノ取消トハ自ラ別問題ニシテ相關聯シテ考ヘ居ル次第ニハアラス云々

575

昭和12年1月6日

在中国川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

日本軍用機が冀東政權作成の政治宣伝用ビラを青島上空から散布したことに対する外交部抗議について

南京 1月6日後発

本省 1月6日夜着

第八號

外交部ハ五日附照會ヲ以テ報告ニ依レハ本月二日午前十一時一四〇號ノ日本軍用飛行機一台青島上空ニ飛來シ冀東防共自治政府製ト記セル五色旗竝ニ護旗宣言及殷汝耕元旦感言等不都合ナル印刷物ヲ撒布シタル趣ナル處日本飛行機ノ不法飛行ニ付テハ制止方屢次抗議セルニ今復日本軍用飛行機カ公然殷汝耕ノ爲ニ右ノ如キ行動ニ出ツルハ支那ノ主權ヲ侵害シ安全ヲ紊サント企圖セルモノト認メラル支那トシ

テ忍フ能ハサル所ニ付特ニ抗議ヲ提出ス貴大使ヨリ戒告ヲ
與フルト共ニ今後ノ再發ヲ防止セラレ度ク然ラサルニ於テ
ハ支那ハ客年三月二日附ノ照會ニ基キ適當ノ處置ヲ執ルヘ
シ尙回答ヲ望ム旨申越セリ

上海大使、北平、天津、青島、濟南、滿ヘ轉電セリ

上海大使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

576

昭和12年1月8日

在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

冀東政權の解消に関する冀察政務委員会側の

要望振りにつき報告

北平 1月8日後発

本省 1月8日夜着

第八號

冀東問題ニ對スル冀察側最近ノ動向ハ累次往電ノ通ナル處
尙本問題ニ關スル田代司令官、橋本參謀長其ノ他冀察側要
人ノ内話ヲ綜合前電補足旁何等御參考迄左ノ通

一、田代司令官着任以來宋哲元ヲ始メ齊燮元、賈德耀、陳中
孚及陳覺生等ハ機會アル毎ニ冀東取消問題ヲ司令官ニ持

ニ話合成立スレハ司令官ニ於テモ承知スヘシト答ヘタル
趣ニテ殷ハ此ノ點ニ付司令官ニ伺出テタル事實アリ秦德
純ノ本官ヘノ内話ニ依レハ賈ハ本問題ノ爲宋ニ對シ面目
ヲ失ヒ焦慮懊惱シ居ル趣ニシテ一月七日ヨリ請暇引籠中
ナリ

二、賈ノ外冀察部内ニハ本問題ニ依リ功名ヲ樹テントスルモ
ノアリテ齊燮元カ昨年冀察政務委員就任ニ當リ二十
九軍中ニ反對アリタル際自分(齊)カ出ツレハ冀東問題モ
解決スヘシトテ押切りテ就任シタル經緯アリ陳覺生ニ於
テモ何等策動シタル形跡アリ

三、冀東解消ハ昨年春以來冀察不斷ノ主張ナル處特ニ喧シク
言ヒ出シタルハ日支交渉中ト西安事變中ナルカ前者ハ若
シ南京交渉ニ依リ解決センカ冀察ノ立場乃至面子丸潰レ
トナル爲ニシテ司令官モ此ノ點ニ關シ若シ取消ス場合ニ
ハ冀察側ト折衝スヘキ旨答ヘタル趣ニシテ後者ニ付テハ
支那全般ノ抗日力更ニ強化スヘシトノ見込ノ下ニ此ノ際
冀東問題ヲ解決シテ輿論ニ對スル面子ヲ保チ旁々日本ヨ
リ提出スルコトアルヘキ諸種要求ヲ阻止スル逆手トシテ
本問題ヲ提起シタルニアラサルヤト觀測セラル

出シ九月經濟合作ニ關スル司令官、宋會談ノ際モ宋ハ經
濟開發ニ關スル了解事項調印ト交換のニ冀東ノ解消ヲ持
込ミタルニ對シ司令官ハ問題ノ性質ヲ異ニスルトテ經濟
取極ヲ取止ムルモ可ナリト答ヘ宋ヨリ條件トセス冀察ノ
希望トシテ充分了解アリ度シトノ趣旨ニ變更ヲ申出テ漸
ク經濟合作ノ取極成立シタル經緯アリ

三、賈德耀ハ昨年八月松室少將ト會談ノ際北支經濟開發ニ關
スル了解乃至惠通公司等成立スレハ日本ハ冀東ヲ取消ス
モノトノ印象ヲ得此ノ點賈ハ宋哲元ニ對シ相當「コミッ
ト」シ宋ハ經濟開發ノ商議進行ニ努力シタル模様ナルカ
冀東ハ依然其ノ儘ナル爲賈ハ松室少將離平ニ當リ涙ヲ流
シテ其ノ不信ヲ責メタル趣ニシテ(賈ハ右會談録ヲ本官
ニ示シ其ノ苦衷ヲ訴ヘタリ)賈ハ何トカシテ本問題ヲ解
決セントシ客月二十八日赴津田代司令官ト會談スル所ア
リタルカ司令官ハ冀東ノ存在ハ不自然ナレハ適當ノ時ニ
取消サルヘキモノナルヘキモ今ハ其ノ時機ニアラサル旨
應酬シ尙賈ハ殷汝耕トモ直接連絡シタル模様ナルカ殷ハ
本問題ハ冀察、冀東問題ニテ話合ヲ進ムルノミニテハ無
意義ナル處日本側ノ意嚮如何ト言ヘルニ對シ賈ハ兩者間

尙西安事變直後宋ハ冀東解消スル迄ハ田代司令官ニモ會
ハストテ軍側トノ面會ヲ拒絕シ殊ニ天津和知中佐ノ如キ
ハ三回ニ亘リ來平面會ヲ求メタルモ病ト稱シ(輕度ノ風
邪ハ事實)之ヲ回避シタル事實アリ(一方此ノ際軍側ヨリ
種々ノ要求持出サルコトヲ惧レ他方時局ニ對スル意思
表示回避ノ爲ト認メラル)本官等ニ於テハ冀察側ニ其ノ
謂ハレナキコトヲ說キ(秦德純ノ内話ニ依レハ極本參謀
長モ書面ヲ以テ之ヲ責メタル趣ナリ)其ノ結果秦德純ヲ
代理トシテ本官及武官ノ許ニ派シ宋ハ漸ク客月三十日本
官並ニ松井大佐、今井武官等ト會見セリ武官等トノ會見
ニハ政治上ノ話ヲ爲ササルヲ條件トシタル趣ナリ

577

昭和12年1月11日

在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

陳中孚の外交委員会主席辭職に関する情報に

ついて

北平 1月11日後発
本省 1月12日前着

第二二號(極秘)

陳中孚ノ冀察外交主席委員辭職說ハ二、三箇月前ヨリ傳ヘラレタル處最近冀察側要人方面ノ情報ヲ綜合スルニ愈決定シ兩三日中ニ實現スル模様ニシテ其ノ後任トシテ賈德耀説有力ナリ陳辭職ノ原因トシテ

一、同人ハ何等事績ノ見ルヘキモノナク(軍側ニ於テモ同様ノ觀測ヲ爲ス者アリ)宋ノ覺日出度カラス(陳ハ冀察政委會ヨリ毎月一萬元ノ特別手當ヲ受ケ居ル外宋ヨリ毎月一萬元ノ「ポケットマネー」ヲ貰ヒ居リタルカ最近宋ヨリノ分ハ中止セラレタル噂アリ)

二、同人ハ胡漢民ノ乾兒ニシテ西南派ノ支持アリタル處胡ハ死亡シ西南派ノ振ハサル今日自然其ノ影モ薄ラキタル感アリ

三、中央政府ハ陳ヲ嫌ヒ之カ更迭ヲ要求シ來レルヤノ噂モアリタル處戈定遠一兩日前南京ヨリ歸來シ陳ノ辭職力急ニ決定シタルモノナリト爲ス者モアリ

支、上海大使、滿、在支各總領事、張家口ヘ轉電セリ支ヨリ南京ヘ、上海大使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

~~~~~

ノ困難モ承知シ居タルカ冀東ノ現狀ハ解決ドコロカ却テ其ノ反對ノ方向ニ進ミツツアリ彼ノ易職事件ニ對シ日本側ニテハ餘リ注意シ居ラサルカ如キモ右ハ實ニ中國領土ノ一部ヲ失フコトト同一ノ重大意義ヲ持ツモノトシテ支那一般ノ重視シ居ル所ナリ

二、<sup>(2)</sup>陳中孚カ外交委員會主席委員ヲ辭職セル主ナル理由ハ二アリ一ハ前述冀東問題ニ關シ解決ノ自信ナク其ノ易職事件ニ依リ各方面ノ非難激化シ立場ニ窮セルコトニテ他ハ同人ニテハ其ノ過去ノ實績ニ徴シ日本側トノ融和聯絡如何ニモ巧ク行カス各種交渉問題ノ如キモ外交委員會ヲ通セサルモノ多ク不適任ト認メラレタル點ニアリテ自分トシテハ政治家ノ進退ハ其ノ自由ニ委スル方針ニテ之ヲ許容セルモノナルカ後任トシテ賈景徳ヲ起用セントセルモ同人ハ常務委員ニテモアリ兼職困難トテ未タ就任ヲ肯セス何レ其ノ内ニ確定ヲ見ル筈ナリ

三、西安事件ノ善後問題ニ關シ中央政府内ハ聯蘇容共派ト親日反共派ノ二派對立シ相當暗闘アルモノノ如ク政局ノ動向ハ差當リ見透シ付カサルカ聯蘇容共ノ如キハ何人カ政權ヲ取ルモ到底實行不可能ノコトニシテ終局ニ於テ失敗

578

昭和12年1月17日

在中国加藤大使館一等書記官より  
有田外務大臣宛(電報)

冀東政權解消問題および陳中孚辭職に関する  
宋哲元内話について

北平 1月17日前発  
本省 1月17日前着

第二六號(極秘)

<sup>(1)</sup>最近陳中孚ノ辭職問題ヲ繞リ宋哲元ノ對日態度ニ關シ種々取沙汰セラレ居ル事情モアリ十六日宋ヲ往訪セルカ其ノ爲セル談話要領左ノ通り

一、東洋ノ平和ヲ求メ日支ノ親善ヲ圖ラントスル自分ノ主張ハ過去一箇年有餘屢聲明セル所ニシテ今日ニ於テモ毫モ變リナク社會的雜音、中傷如何ニ強クトモ此ノ主張ヲ枉クルコト能ハサルハ勿論假令中央政府ト雖右自分ノ信念ニ干涉ヲ加フルヲ許サス然レトモ親善提携ハ平等互惠ノ原則ニ基クヘキハ言ヲ俟タス又夫レハ相對的ノモノニシテ一方的ニテハ良好ナル結果ヲ得ルコト不可能ナル次第ナリ即チ冀東取消問題ノ如キハ其ノ適例ナリ尤モ元來自分ハ此ノ問題ハ左程重大視シ居タル譯ニハアラス解決上

スヘキハ自分ノ確信スル所ナリ又共產黨ハ世界ノ敵ナレハ日支共同シテ防共ニ努力シ已ムヲ得サレハ將來露國ト戰フコトモ辭セサル決心ニテ進ムノ要アル次第ナリ云々支、上海大使、滿、在支各總領事、張家口ヘ轉電セリ支ヨリ南京ヘ、上海大使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

~~~~~

579

昭和12年1月17日

在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

陳中孚辭職につきわが方への事前協議がなかつたことに軍側が不満を抱いている旨報告

北平 1月17日前発
本省 1月17日前着

第二七號(部外極秘)

往電第二二號陳中孚ノ辭職及其ノ後任ニ關シ事前我方ニ何等話合ナク此ノ點ニ付軍側ニ於テハ不満ヲ抱キ居ルヲ以テ今後本問題ヲ繞リ軍ト冀察側トノ間ニ種々折衝行ハルヘキ處本問題打合ノ爲天津ニ赴キ十六日歸平セル松井大佐ハ本官ニ對シ軍トシテハ陳ノ辭職ハ已ムヲ得サルヘキモ其ノ後任ニ付テハ軍ノ同意ヲ經ルヲ要スヘシトノ建前ニテ軍ヨリ

ハ別段後任ヲ推薦セサルモ冀東取消問題ノ經緯モアリ賈德耀ニハ反對スヘク又此ノ機會ニ於テ我方ノ了解ナクシテ重要人事ヲ行ヘハ種々ノ面倒起ルヘキコトヲ充分冀察側ニ悟ラシムル方針ナル旨内話セリ

尙賈ハ十二日外交委員會主席兼任ノ命ヲ受ケタルモ前記ノ如キ事情モアリ今猶就任セス御參考迄

支、上海大使、滿、在支各總領事、張家口へ轉電セリ
支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

580 昭和12年1月18日 在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

日本の対中政策への要望および冀東政權解消
問題に対する宋哲元の立場等に関する殷汝耕
内話について

北平 1月18日前發
本省 1月18日前着

第二八號(部外極秘)

十七日殷汝耕ハ往訪ノ館員ニ對シ左ノ通り内話セル趣ナリ
御承知ノ如ク自分ハ嘗テ國民黨ニ在リ日支國交改善ノ爲

支政策ハ始メテ效果的トナルヘシ過般自分カ率先之ヲ唱

道シ五色旗ノ回復ヲ宣言實行セルニ對シ反響著シキモノ

アルハ確カニ國民政府側ノ痛キ所ニ觸レタルカ爲ナリ

三、宋哲元邊カ最近冀東取消問題ヲ喧シク騒立テ居ルハ單ナ

ル彼ノ面子問題トシテニハアラスシテ之ニ依リ大ナル脅

威ヲ感シタル證左ナリ又宋カ國民黨旗ヲ掲ケ居ル限り國

民政府ノ掣肘ヲ受クルハ當然ノコトニテ右ニテハ自分ノ

非戰區專員當時ノ經驗ニ徴スルモ思フコトノ一ツモ自由

ニ行ヒ得ス北支ノ明朗化ハ到底期待出來サル次第ナリ

三、次ニ日本ノ對支政策ハ之カ遂行上依然トシテ統制ヲ缺キ

居ル憾アリ

最近ニ於ケル其ノ著シキ事例ハ内蒙工作ニシテ德王ハ頗

ル弱リ居ル様子ナリ東京ト出先トノ打合充分ナラスシテ

事ヲ爲スハ危險多キノミナラス失敗ヲ招キ易シ

四、以上ハ自分カ日本側特ニ外務省要路ノ深甚ナル好慮ヲ煩

度シト考ヘ居ル要點ナリ云々

支、上海大使、滿、在支各總領事、張家口へ轉電セリ

支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

長年微力ヲ致シタルモ蔣介石及國民黨ハ日支折衝ノ最後ノ或ル重要ナル一點ニ到ルヤ其ノ責任ヲ回避スルヲ常トシ右ハ日本ト提携スルヲ欲セサルカ又ハ之ヲ敢テスルヲ得サル事情アル結果ナリトノ結論ニ達シ終ニ愛想ヲ盡カシテ今日ノ防共自治政府ヲ組織セルモノニテ國民黨及國民政府ハ結局當ニナラサル代物ナレハ日本側カ今尙之ニ國交調整ノ希望ヲ懸ケ居ルトセハ夫レハ百年河清ヲ待ツノ類ニシテ大ナル錯誤ヲ敢テシツツアルモノト申ス外ナシ而シテ英蘇兩國ノ如キハ何レモ支那國民ノ或ル層ヲ狙ヒ之ニ向ツテ努力ヲ集中シ居リ即チ英ハ支那ノ財界ヲ蘇ハ青年、學者、學生層ヲ夫々睨リト把握シ之ニ依リ其ノ勢力扶植ニ着々成功シツツアルモ日本側ハ此ノ點ヲ閑却シ居ル様見受ケラル假令一部ノ民心ニテモ充分ニ把握スルコト日本ノ爲絕對必要ニシテ其ノ方法トシテハ豫々自分ノ主張シツツアル「共和政體ノ回復」ノ如キモノノ擁護コソ最時宜ニ適スヘシ即チ一般國民ハ既ニ國民黨ヲ嫌惡シ居リ右ハ各省、各方面特ニ國民軍部内ニ於テスラ多數ノ共鳴者アル實狀ナルヲ以テ之ヲ標榜スル者ヲ飽迄助成スルコト對支人心工作ノ上策ニシテ斯クセハ日本ノ對

581 昭和12年1月21日

在中国加藤大使館一等書記官より
有田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員會各機關に対する宋哲元の経国
要諦四項通令および同志に告ぐる書の發表に
ついて

北平 1月21日夜發
本省 1月21日夜着

第三二號

宋哲元ハ二十日附ヲ以テ冀察政委會及同綏靖公署ヲシテ所屬軍政各機關ニ對シ經國要諦四項ヲ通令セシムルト共ニ同志ニ告クルノ書ヲ發表シタルカ其ノ要旨左ノ通り

一、通令

經國ノ要ハ是非ヲ辨ヘ正義ヲ伸ハシ善惡ヲ分チ亂源ヲ塞キ力ヲ致スノ道ヲ明カニスルニアリ今ヤ國歩困難ノ秋ニ當リ左記數項ヲ實行スヘシ

(一) 銃口ヲ内ニ向ケス中國人ハ中國人ヲ討ツヘカラス即チ内戰ニ參加セサルコト

(二) 我國土ヲ侵シ人民ヲ侮辱スル者ハ我等ノ敵ナレハ之ヲ打倒スヘシ

(三) 社會ノ治安ヲ擾亂スル土匪及共匪ハ之ヲ誅スヘシ
 (四) 剿匪ハ内戦ト看做サス剿共ハ更ナリ之等ハ徹底的ニ
 肅正シ以テ社會ヲ安ンセサルヘカラス
 以上四項ハ自分數年來ノ決心ニシテ今後益々力行シ其ノ
 貫徹ヲ期スヘシ

三同志ニ告クルノ書

(一) 國家統一ヲ擁護シ中央ノ制令ヲ遵奉シ自強以テ政治ノ
 修明實現ヲ誓フ

(二) 主權、土地、人民ハ國家ノ三大要素タリ吾人ハ軍人ノ
 天職ヲ守リ力ヲ盡シテ之ヲ保護スヘシ

(三) 共產主義ハ元來中國ニ適セサルハ識者ノ夙ニ認ムル所
 「マルクス」ノ唯物史觀ノ餘剩處分等ノ說ニ對シテハ
 自分ハ屢反駁ヲ加ヘタルカ共匪ハ土匪ヲシテ此ノ名義
 ヲ借りテ民衆ヲ煽動シ階級闘争ヲ惹起セシメ以テ權利
 掠奪ノ目的ヲ達セントス其ノ殺人、放火ハ純然タル土
 匪ノ行爲ニシテ主義ノ何物タルヤヲ知ラス唯國本ヲ害
 シ民衆ヲ殺戮スルノミ誓ツテ其ノ肅正ヲ期スヘシ

支、上海大使、滿、在支各總領事、張家口へ轉電セリ

支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

モノモアルヲ以テ篤ト檢討判斷ヲ下スノ要アル旨強調セル
 後客年十二月下旬殷汝耕カ田代司令官ヲ通シ防共問題ニ關
 シ冀察ト連絡ノ爲來平會見方申越シタルヲ以テ快諾シ置ケ
 ルニ

其ノ後殷ニ何等中傷スル者アリタル爲遂ニ來平セス會見沙
 汰止トナレル事實ヲ指摘シ零シ居タリ尙其ノ際同人ハ日本
 ハ親日反共ヲ標榜スル冀察ヲ守リ立テ他ノ閻錫山、韓復榘
 及劉湘等ヲシテ之ニ倣ハシメ支那ニ於ケル抗日反共分子ヲ
 親日反共ニ向ハシムル様充分ノ御配慮ヲ煩度ク冀東問題ハ
 別トスルモ目下軍側ヨリ冀察側ニ交渉中ナル豐臺ニ於ケル
 日本軍今次ノ廣大ナル射撃場設置ノ件ノ如キハ土地柄支那
 民衆ノ眼ニ觸レ之ヲ刺戟シ易ク憂慮シ居レリト述ヘタリ御
 參考迄

支、上海大使、滿、在支各總領事へ轉電セリ

支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

583

昭和12年1月25日

在中国加藤大使館一等書記官より
 有田外務大臣宛(電報)

陳中孚辭職問題に関する秦德純の弁明振りに

582

昭和12年1月25日

在中国加藤大使館一等書記官より
 有田外務大臣宛(電報)

陳中孚辭職問題への弁明および冀東政權との
 防共連絡問題に関する賈德耀内話について

北平 1月25日前発

本省 1月25日後着

第三八號(部外極秘)

(1) 二十三日求メニ應ジ本官賈德耀ト會見セルカ其ノ際賈ハ陳
 中孚ノ更迭ハ元來普通ノ人事異動ニシテ左シテ重視スヘキ
 問題ニアラサル處妙ニ拗レタル爲外部ニハ種々謠言ヲ生シ
 日本側ニテモ誤解スル向アリテ困リ居レルカ宋哲元カ既ニ
 親日反共ヲ聲明シ居レル以上假令其ノ政權下ニ如何様ノ人
 物存在スルモ抗日容共ノ如キ言動ヲ爲スハ宋ノ主義方針ニ
 反スルモノナレハ結局左シタルコトハ仕出カシ得ス之ヲ制
 止スルハ容易ノコトニテ日本側ハ宋一人ヲ相手トセラルレ
 ハ足ル次第ナレハ餘リ人ノ問題ニテ神經ヲ尖ラサルルニハ
 當ラサルヘク人ヨリモ事ヲ重視セラルルヲ要スヘシト暗
 ニ日本カ冀察ノ人事ニ干渉スルヲ欲セストノ口吻ヲ洩ラシ
 更ニ各人ノ言説乃至情報中ニハ中傷、離間ノ目的ニ出ツル

ついで

北平 1月25日前発

本省 1月25日前着

第三九號(部外極秘)

(1) 二十三日日本官秦德純ヲ往訪宋哲元今次ノ通令等ノ發表経緯
 ヲ質シタル處秦ハ右ハ事前ニ何等相談ヲ受ケス天津ニ於テ
 突如爲サレタルモノナルカ宋ノ主張ハ極メテ當然ノコ
 トナレトモ之ヲ事新シク發表スルコトハ日本側ヨリハ日本
 ニ對スルモノナリト思ハシメ國民ヨリハ場當リ主義ナリト
 ノ非難ヲ受クル惧アリテ誠ニ感心出來ス自分ハ二十二日ノ
 新聞ニテ始メテ之ヲ知り何人カ敢テ之ヲ爲セルモノナリヤ
 調査ヲ命シタル程ナリ(二十四日橋本參謀長ハ右發表ハ戈
 定遠ノ仕業ト思ハルト本官ニ内話セリ)ト辯解セル後更ニ
 陳ノ辭職其ノ他ノ問題ニ關シ左ノ通り内話セリ

一、陳ノ後任問題ハ未タ結着ヲ見ス賈德耀ハ就任ヲ肯セサル
 カ日本軍側ニテハ宋哲元カ故意ニ日本軍側ニ聯絡セサリ
 シヤニ誤解シ居レルモ實ハ自分ヨリ宋及關係者ニ確メタ
 ルニ宋ハ約一箇月前陳覺生ニ對シ右更迭ニ付田代司令官
 ニ話ス様シタル處陳覺生ハ賈德耀ニ念ヲ押シタルニ賈

ハ就任ノ意ナキ旨述ヘタルヲ以テ司令官ニ話スコトヲ爲
サス又不用意ニモ復命ヲ怠リ其ノ儘ト爲シ居タル爲行違
ヲ生シタルモノナルコト判明セル次第ナルカ右ノ更迭ハ
全然宋ノ意思ニ基クモノニテ

戈定遠^⑧力中央ノ意ヲ承ケテ陳中孚ニ辭職ヲ迫リタリトノ
説ノ如キモ事實ニアラス外交事務ハ放置ヲ許ササルニ付
宋ノ赴津前同委員會ノ對外事務ハ政務委員會ノ仲介委員
ヲシテ一時負責セシメ對内事務ハ喻。傑。等ヲシテ當ラシ
ムルコトトナリ二十二日迄ニ之カ手配ヲ了セルモ右ハ後
任主席決定迄ノ過渡的便法ニ過キス又同委員會ノ廢止ノ
如キハ全然考慮シ居ラス

ニ宋ハ冀察ノ人事ハ中央ヲ始め如何ナル方面ノ干涉ヲモ許
ササルモノト爲シ居リ其ノ重要ナルモノニ關スル日本側
ノ干與ニ付テハ明文ノ取極等ナキハ勿論(梅津、何應欽
協定ニ付テ言ハハ支那側ニテハ二十四年六月九日附ノ要
求ハ之ヲ承認セルモ其ノ附帶的條件トモ言フヘキ人事等
ニ關スル同月十一日附要求ハ承認シ居ラス)ノコトナル
カ二十四年冬土肥原少將ト蕭振瀛ノ間ニ口頭ノ了解アリ
宋ハ之ヲ否認モセス承認モセス友誼的關係ニテ相談スト

回答ヲ督促シ來リタルニ付本件ハ尙取調中ナルカ元來北支
方面ニ於ケル飛行問題ハ支那側ニ於テ之ヲ合法化スル考サ
ヘアレハ容易ニ解決セラルル問題ニシテ支那側トシテモ右
大局的見地ヨリ之ヲ處理スルコト肝要ナル旨然ルヘク應酬
シ置キタリ

上海大使、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ
上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

585 昭和12年2月6日 在中国加藤大使館一等書記官より
林外務大臣宛(電報)

華北の政治情勢に関する蕭振瀛内話について

北平 2月6日後発
本省 2月6日後着

第五七號(部外極秘)

冀察ノ取消問題或ハ蕭振瀛ノ策動等ニ付當地ニ於テ種々ノ
説行ハレ居ル折柄ニテモアリ打診ノ爲本官上海出張中一月
二十九日蕭ト會談(蕭ハ此ノ爲奉化ヨリ特ニ歸滬シタル趣
ナリ)シタルカ同人ハ我方ニ於テ排斥シタル經緯アリ又其
ノ談話モ特ニ參考トナルヘキモノナカリシヲ以テ發電ヲ見

ノ建前ヲ取り居ルモノナリ

三、三中全会ハ二月十五日開會ノ筈ナルカ宋モ自分モ政府委
員ナレハ中央ヨリ出席方招請シ來リ居レルモ冀察カ參加
スルヤ否ヤハ今後各地方實力派例ヘハ李宗仁、白崇禧、
劉湘、何健等ノ態度並ニ會議ノ性質等ヲ見極メテ決定ス
ルコトトナルヘク現状ヨリセハ恐ラク參加ハ實現セサル
ヘシ云々

支、上海大使、滿、在支各總領事へ轉電セリ
支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

584 昭和12年2月3日 在中国川越大使より
林外務大臣宛(電報)

日本側航空機の華北飛行をめぐる外交部との 応酬振りについて

南京 2月3日後発
本省 2月3日後着

第八〇號

往電第八號ニ關シ

二日高宗武ヨリ更ニ三日外交部係官ヨリ館員ニ對シ我方ノ

合セ居タルカ支宛貴電第七號ノ次第モアリ右談話要領御參
考迄電報ス(川越大使ニハ報告済)

一、蔣介石ハ日支關係ノ打開ニ付テハ先ツ反共乃至防共ヨリ
緒ヲ見出シ漸次其ノ他ノ問題ニ推進メ度キ意嚮ナルカ北
支問題ニ付テモ蔣ハ如何ニシテ支那ノ面子ヲ失フコトナ
ク同問題ノ解決ニ到達シ得ルカニ付苦慮シ居リ自分(蕭)
モ屢意見ヲ徵サレ居レリ蔣ハ宋哲元ノ現在ノ遣方ニハ相
當ノ不滿ヲ抱キ居リ實ハ自分モ外遊ノ意思アリシモ北支
ノ現状カ今少シク改善ヲ見サレハ不安ナルヲ以テ暫ク之
ヲ見合セタル次第ナリ(同席セル王正廷ノ祕書樊。光。蔣
介石ト孔祥熙カ北支問題ノ爲蕭ヲ引留メ居ル旨語レリ)

二、北支政局ハ二十九軍カ存在スル限り之ヲ統制シ得ル人物
ヲ中心トスルニアラサレハ安定困難ニシテ此ノ點ニ於テ
賈德耀ノ如キカ外交主任トナルモ何モ出來サルヘシ又李
思浩、章士釗ハ自分カ豫テヨリ世話ヲ爲シ來レル人物ナ
ルカ留メタルニ拘ラス生活ノ爲北上シタルモノニシテ結
局何モ出來得サルハ當然ナリ又最近日本側ハ張允榮等ノ
言ニ乘リ種々工作セントシタルカ如キモ右ハ冀察ノ内情
ヲ良ク知ラサル證左ナリ

三自分トシテハ宋哲元トノ關係ハ今モ尙良好ニシテ又二十
九軍部下モ自分ニ心服シ居ルモノト信シ居ル處(元僅カ
三千ニ過キサリシ同軍ヲ現在ノ六萬ニ迄作上ケタルハ自
分ノ力ナリ)種々ナル中傷ノ結果華北ヲ離レサルヲ得サ
ル事情ニアル譯ナルカ華北ノ情勢ニ付テハ自分ハ依然大
ナル關心ヲ以テ注視シ居ルモノナリ云々

586 昭和12年2月6日 在中国加藤大使館一等書記官より
林外務大臣宛(電報)

三中全会に際し宋哲元が国民政府中央への接
近を強めているとの西田顧問情報について

北平 2月6日後発
本省 2月6日後着

第五八號

五日西田顧問カ冀察ヨリ入手セル情報左ノ通り
一中央ノ對日態度ハ三中全会ニ於テ決定スル筈ナルカ宋哲
元ノ態度ハ從來中央服従ヲ唱ヘ乍ラ中央ト日本トノ中間
的存在ナリシモ近來中央ニ接近ノ空氣濃厚トナレル感アリ
ニ宋哲元、韓復榘ハ三中全会前長文ノ通電ヲ發スル筈ニテ

目下電文起草中ナルカ其ノ内容ハ主トシテ救國ノ根本方
針ニ對スル態度ヲ表明セントスルモノナリ
三戈定遠ハ奉化ニ赴ク筈ナリシカ蔣介石カ既ニ杭州ニ到着
セルヲ以テ同地ニ於テ會見シ冀察ノ政情ニ付報告セリ
支、上海大使、在支各總領事へ轉電セリ
支ヨリ南京へ上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

587 昭和12年2月8日 在中国川越大使より
林外務大臣宛(電報)

日本側航空機の華北飛行制止方外交部督促に
ついて

南京 2月8日後発
本省 2月8日夜着

第九六號

往電第八〇號ニ關シ

六日董道寧更ニ館員ヲ來訪シ本件放置ニ付各方面ヨリ外交
部ニ對シ猛烈ナル攻撃ヲ爲シ居ル次第二モアリ至急眞相取
調ヘラルルト共ニ今後ノ飛來取止方取計ハレ度キ旨申出テ
タルニ對シ館員ヨリ例ノ通り應酬シ置キタルカ董ハ實ハ支

那側ニ於テモ何等具體的阻止方法ニ付折角攻究中ナリト内

話シ居タル次第モアリ我方ニ於テモ豫メ支那側カ強行阻止
ヲ敢行スル場合ノ對策ニ付考慮シ置クノ要アリト認メラル
尙當地各新聞ハ過去一箇月ニ亘リ絶エス本件抗議ニ對シ今
以テ日本側ヨリ何等回答ナキノミナラス其ノ後モ屢々飛來
セル旨ヲ特筆大書シツツアリ
本件各地軍側ニ通報アリ度シ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ
上海大使、北平、天津、青島、濟南へ轉電セリ

588 昭和12年2月8日 在中国加藤大使館一等書記官より
林外務大臣宛(電報)

三中全会における冀察政務委員會解消説を冀
徳耀否定について

付記 昭和十二年二月六日付、林外務大臣より在中
國川越大使宛電報案

右解消説への対処振り訓令

北平 2月8日後発
本省 2月8日後着

第五九號(極秘)

支宛貴電第七號ニ關シ(冀察委員會解消説ノ件)

七日賈德耀本官ヲ來訪ノ際本件情報ニ付確メタル處實ノ内
話要領左ノ通り

此ノ種情報ハ自分ニハ初耳ナルカ南京方面ノ一部ト言ハハ
藍衣社C、C、團邊ナルヘキカ西安事變發生前ナラハイサ
知ラス今ヤ中央ハ其ノ威令衰ヘ而モ政府ノ改組、一黨專制
ノ取消、獨裁政治ノ打破、西安事變善後措置等ノ重大問題
ノ解決ニ當面シ居ルノミナラハ冀察ノ取消ノ如キハ抗日方
針ヲ決定シ日本ト戰フ肚ナクシテハ出來ヌコトニテ斯カル
責任ヲ取り得ル者ハ蔣介石ノミナルカ西安事變ニ依リ蔣ノ
威信損セラレ居ル際トテ恐ラク右提案ハ實現セサルヘク假
令實現スルトスルモ通過困難ニシテ結局小委員會附託トス
ルトカ政府改組後ニ於テ決定スルコトトスルトカ又ハ將來
國會成立後ノ問題ト爲スト言フカ如キ方法ニテ事實上採擇
ヲ回避スル位カ關ノ山ト觀測セラル又冀察側ニテハ三全
會ニ其ノ代表ヲ派遣スルヤ否ヤ今猶未定ナルカ自分トシテ
ハ様子ヲ探ル意味ニテ適當ノ人物ヲ派遣シテ見ルモ可ナリ
ト考ヘ居レリ云々

支、上海大使、滿、天津、濟南へ轉電セリ

(付記)

在支川越大使宛電信案 一二、二、六 外務案

冀察政務委員會解消説ニ關スル件

北平發本大臣宛電報第五〇號及天津軍參謀長發支參電第六六號等ニ依レバ南京方面一部ニ於テハ三中全会ヲ機トシ冀察政務委員會ノ取消方計畫ヲ廻シ居ル趣ノ處南京政權ノ對内政策ガ根本的ニ是正セラレザル限り此ノ種企圖ハ北支ニ對スル帝國ノ既定方針ニ鑑ミ我方ノ默過シ難キ處ナルノミナラス萬一南京側ガ西安事變後ニ於ケル支那一般ノ抗日風潮ニ驅ラレ冀察委員會ノ取消ヲ決議スルガ如キコトアラムカ勢ノ趨ク所北支ニ於テ我方トノ間ニ不測ノ事態發生スルナキヲ保シ難キ次第ナリ就テハ先ヅ冀察政務委員會ノ設立ニ依リ同委員會ヲ通シテ徐ニ日滿支三國ノ關係ヲ調整セムトスル我方意ノ存スル所ヲ充分説明セラレ徒ニ事態ヲ荒立ツルガ如キ措置ニ出デザル様南京側指導方此ノ上トモ御配慮相成度尙本件ニ關スル南京側ノ動向隨時電報相成度
以上軍側ト打合濟

編注 本文書は海軍側が作成した写で發電日時不明。

589 昭和12年2月20日 在中国加藤大使館一等書記官より
林外務大臣宛(電報)

日本側と山西省の間における東洋宣揚提携の
協定締結に否かでないとの閻錫山側近の内話
について

北平 2月20日後発
本省 2月20日夜着

第七五號(極秘)

客年本官閻錫山ト會見ノ際本官ヨリ日支間乃至日本ト山西ニ防共協定ノ如キモノ締結スルコト然ルヘキ旨ノ私見ヲ述ヘ右ニ對スル閻ノ應答振ハ客年往電第六六〇號ノ通りナルカ十九日蘇體仁(晋綏綏靖公署高級秘書)來平ノ序ヲ以テ本官ヲ來訪シタルカ其ノ際同人ハ閻ハ現在ノ對日空氣ニテハ防共等ノ積極的ニ第三者ヲ目標トスル協定ノ締結ハ困難ナルモ東洋宣揚提携ニ關スル協定ノ如キモノニ對シテハ反對セサル旨語リタル趣ヲ内話セリ

本件ニ關シ閻カ何ノ程度迄眞面目ニ考慮シ居ルヤハ不明ナ

ル上其ノ地位モ明カナラサル爲其ノ實現性ハ遽ニ斷シ難キモ此ノ際此ノ種協定ノ取極ハ山西ノ對日空氣ヲ好轉セシムヘキ好機會ナルノミナラス綏遠政治工作上ニモ有利ト存セラル就テハ本官適當ノ機會ニ山西當局ノ意嚮ヲ確メ度キ處本件ニ關シ何等御意見モアラハ御回示ヲ請フ

支、上海大使、天津へ轉電セリ

支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

590 昭和12年2月23日 在中国加藤大使館一等書記官より
林外務大臣宛(電報)

華北方面における文化提携の新機關設立方齊

變元提案について

北平 2月23日後発
本省 2月23日夜着

第七七號(部外秘)

二十三日齊變元ノ請ニ應シ同人ヲ往訪シタル處同人ハ冀察ノ現狀ニ鑑ミ文化提携ノ必要ナル所以ヲ縷々力説セル後現在ノ有名無實トナレル東方文化總委員會ヲ再生セシメ若クハ此ノ種ノ機關ヲ新ニ設置シ有力ナル團體タラシメ文化方

面ヨリ兩國ノ親善増進ヲ計ルコト望マシク之カ方法タニ當ヲ得ルニ於テハ必スヤ成功スルモノト確信シ居レルカ貴見如何ト尋ネタルニ付文化提携ノ必要ハ本官ノ常々痛感シ居レル所ニシテ御意見ハ寔ニ結構ナルカ何等具體案ヲ有セララル譯ナリヤト聞返シタル處齊ハ人文關係ノ支那側文人學者等ハ多ク北方ニ居住シ居リ自分カ諸種ノ關係ニ於テ渡リヲ付ケル上ニ好都合ノ立場ニアリ委員ハ日支各三名位極少數トシ其ノ擔當ハ日支共文人出身ノ政治家一名他ハ新舊學派ノ代表的人物各一名トスルカ如キモ一方法ナルヘク右支那側政治家ハ冀察政權ヨリ出シ其ノ指導ヲ受ケシムルコトトセハ仕事ノ上ニモ最妙ナルヘク先ヅ之カ爲最近ノ機會ニ日本側ヨリハ貴官、雷顧問、冀察側ヨリハ自分、孫潤宇等會合シ極ク原則的ノ意見交換ヲ爲スコトトシテハ如何ト述ヘタルニ付本官ヨリ趣旨ニ於テハ贊成ナルカ一應政府ノ方針ヲ確メタル上回答スヘシト答ヘ置キタリ

尙其ノ際齊ハ日本軍部ニ於テモ文化提携ニ關心ヲ有シ居ル模様ナレハ松井特務機關長ヲモ右會合ニ參加セシメテハ如何ト言ヘルヲ以テ本官ハ軍側ノ意見ヲ徴スルコトハ頗ル結構ナルヘキモ軍人カ斯卡ル方面ノ仕事ノ表面ニ立ツコトハ

面白カラスト思考スル旨述へ置ケリ就テハ應酬ノ都合モアルニ付本件ニ關スル御意嚮折返シ御回電ヲ請フ
支、上海大使、天津へ轉電セリ

591 昭和12年4月4日 在中国加藤大使館一等書記官より
佐藤外務大臣宛(電報)

韓復榘の山東省主席更迭説に関する情報について

北平 4月4日後発
本省 4月4日夜着

第一五四號

西田顧問ヨリ韓復榘ノ更迭説及其ノ對中央態度等ニ關スル
王芳亭ノ内話(二日)左ノ通り内報アリタリ御參考迄
一、韓南下後中央カ孫良誠又ハ蔣伯誠ヲ山東主席トシ韓ハ單
ニ山東綏靖主任ニナルカ又ハ南方ニ移駐スヘシ等ノ風説
傳フルモ右ハ實現セサルヘシ唯蔣伯誠ハ常ニ濟南ニ來リ
韓ノ南方引込策ヲ講シ或ルトキ韓ヨリ蔣ニ「君カ後任ト
ナルナラハ自分カ辭職スルモ可ナリ」ト應酬セルコトアル
モ蔣ニハ山東主席トナリ得サル事情アリ又最近韓ノ第
三子ト孫良誠ノ娘トノ間ニ許婚ノ約成リ孫ノ舊部下師長

級二三名ハ現在濟南ニ居リ扶持セラレ居ル等兩者ノ關係
良好ナルヲ以テ孫、蔣兩名ノ山東主席説ハ之等ノ事情ヨ
リ生シタル一時ノ風説ナルヘシ

二、韓ノ南下後濟南ニ於テ救國聯合會等ノ活動ニ依リ抗日運
動旺トナレリ等傳フル處特ニ擴大スルコトナカルヘク韓
歸濟セハ自然鎮靜スルモノト思考ス

三、昨年西南ト中央對立セル際韓カ通電ヲ發シテ以來韓ト蔣
介石トノ間ニ相當ノ間隙ヲ生シ又韓ノ部下二、三ノ師長
級ニハ中央ニ通シ居ル者アル處韓ハ旅長級以下ノ幹部ヲ
掌握シ内部ノ動搖ヲ防キ居リ西安事件ニ際シテモ西南、
四川、山西及冀察等ト同シク中央政權ヲ改組シ地方實力
者ヲモ參加セシムルノ氣運ニ合流セントシタルモノノ如
ク

韓ハ中央ノ處置ニ慊ラス過去數年間中央ハ素ヨリ北支ノ
隣接實力者ニ對シテモ不即不離ノ態度ヲ持シ來レル次第
ナルカ日本ニ對シテハ常ニ聯絡ノ必要ヲ認メ居レリ又今
次南下ニ際シテモ蔣介石ト會見ノ際中央カ地方相互讓歩ノ
必要及地方實力者ノ中央政權ヘノ參與並ニ地方ノ中央擁
護共同合作ヲ力説スル筈ナリ

四、韓ノ右方針ハ今日ニ始マルモノニアラサル處中央ニ於テ

モ江西、四川、陝西、甘肅ノ剿匪及西安事件ヲ經テ最近
漸ク地方實力者トノ和協策ヲ講スルノ已ムヲ得サルヲ認
メタルカ如ク其ノ例トシテ

(イ)顧祝同不在中四川ノ押ヘトシテ賀國光ヲ殘シタルモ其
ノ勢力ハ劉湘ノ四川派ニ拮据^抗シ得サルヲ悟リ近ク四川
ニアル中央軍全部ノ撤退ヲ見ル筈

(ロ)中央ハ四川ニ軍費月額二百萬元ヲ交付シ同時ニ成都兵
工廠ハ南昌ノ廬山附近ニ移ス

(ハ)重慶、成都間鐵道ハ中央ノ補助ヲ以テ四川側ヲシテ直
接建設經營セシムルコト

等ヲ舉ゲ得ヘシ

又林森ノ如キモ目下廣西ニ赴キ李宗仁、白崇禧等トノ意
思疏通ヲ策シ居ル處中央カ眞ニ地方實力者ノ中央政治參
與ノ意ナキ限リ此ノ種策謀ハ成功覺束ナシ

五、中央ハ目下國防計畫トシテ左記二項ヲ企圖シ居レリ

(イ)海南島開發ヲ名儀ニ同島ニ英國其ノ他ノ借款ニ依リ飛
行場其ノ他ノ防禦施設ヲ完成ス

(ロ)江蘇省海州ニ大飛行場ヲ建設シ山東、河北等北支ヲ制

扼ス

支、在支各總領事へ轉電セリ

592 昭和12年4月5日 在中国加藤大使館一等書記官より
佐藤外務大臣宛(電報)

冀東政權の解消が華北における日中經濟提携 の先決条件であるとの陳覺生内話について

北平 4月5日後発
本省 4月5日夜着

第一五五號(部外極秘)

最近冀察側ニ於テハ冀東問題ノ解決ニ熱中シ居ルカ如ク宋
哲元ハ過日來平セル野村、下村兩海軍少將ニ對シ冀東問題
解決セサレハ北支ニ於ケル日支經濟合作ハ困難ナル旨ヲ語
リ又齊燮元、秦德純及陳覺生等ハ宋ノ意ヲ受ケ本問題ニ付
軍側ニ申來リ(松井大佐内話)又今次張自忠、陳中孚等ノ渡
日モ冀東問題ニ付日本政府ニ何等進言スル使命ヲモ含ムモ
ノナリトノ噂アル處三日陳覺生本官ヲ來訪本問題ハ頗ル機
微ノ關係アルヲ以テ本官限リノ含ミニ止メラレ度シトテ左
ノ通り内話セリ

冀東問題ニ關シテハ既ニ田代司令官、橋本參謀長及松井大佐等ニ對シ冀察側ノ意嚮ヲ傳ヘ居ル處津石鐵道ハ自分ニ龍烟鐵礦ハ陸宗輿ニ電信電話ハ交通委員會ニ於テ夫々日本側ト事務の折衝ヲ爲シツツアリ津石ニ付テハ既ニ案モ出來居レトモ借款及鐵道建設等ニ付テハ南京側ノ承認ヲ要スル次第ナルカ中央ノ同意ハ到底困難ニシテ

從テ北支ニ於ケル經濟提携ハ冀察側ニ於テ獨自ニ決定スルヲ要スル處冀察側トシテモ之ヲ敢行スル爲ニハ北支ニ於ケル政治的不安ヲ除去シテ兩者ノ關係ヲ明朗化スル要アリ即チ冀東問題ヲ何トカ解決スルニアラサレハ民衆ニ對スル手前モアリ中央ニ對シ反對シテ迄經濟提携ヲ爲スコト不可能ニシテ現在ノ儘ニテ推移センカ日本ト冀察トノ間ハ双方ニ不滿ヲ生シ形勢惡化ノ惧アリ憂慮ニ堪ヘス冀東取消ト言フモ防共自治政府ノ取消ニテ充分ニシテ不戰區域、塘沽乃至梅津何應欽協定等ハ其ノ儘存續スルコト差支ナカルヘク又冀東ニ於ケル日本ノ權益ノ確認ハ素ヨリ殷汝耕ニ對シテモ然ルヘキ地位ヲ與フルニ吝ナラス要スルニ冀東問題ノ解決ハ北支ニ於ケル日支經濟提携ノ先決要件ニシテ之サヘ解決セハ冀察側トシテモ南京政府ノ態度ヲ考慮スルコトナク經

セル旨ヲ報シ(二十六日大毎等ニ轉揭セラル)タルヲ以テ同盟ニ就キ其ノ出所ヲ質シタルニ宋ト先般當方面ニ旅行セル下村第十戰隊司令官トノ會談ヲ傳ヘ聞キタルモノナリトノコトナリシニ付爲念海軍駐在武官ヨリ同司令官ニ電照セル處宋カ宴會ノ後同司令官ヲ別室ニ招キ冀東問題ノ苦衷ヲ訴ヘタルニ止マリ經濟提携ノ前提ナリ等トハ言ハサリシノミナラス司令官ヨリモ冀東問題ニ付輕々ニ期待スルノ不可ナル所以ヲ說示シ置キタル趣ナリ

北平發閣下宛電報第一七三號中段モ係官カ稻森ヨリ聴取セル所ニ依レハ「南京ニテハ北支經濟の提携問題ニ付テモ冀東問題ノ解決カ先決條件ト考ヘ居リ政治問題ノ解決ヲ見サルニ於テハ對南關係ニ於テ事毎ニ問題ヲ惹起スル惧アルヘシ」トノ趣旨ヲ述ヘタルモノナル趣ナリ

往電第一九二號ニモ言及セル如ク冀察側カ旅行者等ニ對シ盛ニ冀東問題ヲ訴ヘ居ルハ事實ナルモ軍及本官等トノ經濟提携ノ具體的話合ニ際シ冀東問題ヲ引掛ケ居ルカ如キコトハナキ實情ニシテ津石龍烟等ノ交渉カ夫レ自體ニ資金關係其ノ他ニ種々ノ問題アル内情ヲ知ラサルモノカ冀察要人ノ冀東問題ヲ云々スルヲ聞キテ此ノ點ニ交渉ノ難關アルヤニ

濟提携ハ勿論排日取締乃至防共等徹底的ニ行フヘク而シテ冀東問題ト經濟提携其ノ他ノ日本側主張ハ同時ニ解決シ以テ眞ノ北支明朗化ヲ期シ度シ云々

尙四月二日田代司令官ハ宋哲元ニ對シ冀東問題ヲ餘リ喧シク言フハ日本國民ヲ刺戟シ却テ面白カラスト警告シタル趣ナリ

支、上海へ轉電シ天津へ暗送セリ

593 昭和12年4月12日 在天津堀内總領事より 佐藤外務大臣宛(電報)

宋哲元は下村少將に対して冀東政權の解消を訴えたが華北經濟提携と関連した発言はして いない旨海軍武官内話について

天津 4月12日後發 本省 4月12日夜着

第一九三號

三月二十六日北平發同盟電トシテ宋哲元カ最近來燕セル我カ要人ニ對シ冀東解消カ北支經濟提携ノ第一前提ニシテ津石モ龍烟モ總テ冀東解消後ナリトノ大膽ナル態度ヲ表明

想像シ前記ノ如キ報道ヲナスモノト推測セラルルモ斯ル報道ハ本邦民間等ニ面白カラサル影響ヲ與フル惧モアリ當方ニ於テモ特ニ注意シ居レリ

支、上海、北平、青島、濟南、滿へ轉電セリ

594 昭和12年4月16日 外務・大藏・陸軍・海軍四大臣決定

「北支指導方策」

付記 昭和十二年二月、関東軍參謀部作成

「對支蒙情勢判斷」

北支指導方策

方針

(昭和十二年四月十六日外務、大藏、陸軍、海軍四大臣決定)

一、北支指導ノ主眼ハ該地域ヲシテ實質上確固タル防共親日滿ノ地帶タラシメ併セテ國防資源ノ獲得並ニ交通施設ノ擴充ニ資シ以テ一ハ赤化勢力ノ脅威ニ備ヘ一ハ日滿支三國提携共助實現ノ基礎タラシムルニ在リ。

二、右目的達成ノ爲メ差當リ先ツ北支民衆ヲ對象トスル經濟

工作ノ遂行ニ主力ヲ注クモノトス。然シテ右工作ノ遂行ニ當リテハ北支政權ニ對スル内面指導ノ外南京政權ニ對スル施策ニ依リ同政權ヲシテ實質上北支ノ特殊の地位ヲ確認シ進ムテ日滿支提携共助ノ諸施策ニ協力セシムル様指導スルモノトス。

要 綱

一、北支指導ニ對スル態度

北支ニ對スル我方ノ施策ハ同地域ノ地理的特殊性ニモ鑑ミ從來動モスレハ支那並ニ列國ニ對シテ恰モ帝國ニ於テ停戰地域ノ擴張、滿洲國ノ國境推進乃至ハ北支ノ獨立等ノ企圖ヲ有スルカ如キ誤解ヲ與ヘタルコトナキニ非ス。仍テ今後ノ對北支施策ニ當リテハ此ノ種無用ノ誤解ヲ與フルカ如キ行動ハ嚴ニ之ヲ慎ムト共ニ先ヅ北支民衆ノ安居樂業ヲ本旨トスル文化的經濟的工作ノ遂行ニ專念シ以テ我方所期ノ目的達成ニ資スルコト肝要ナリ。

北支ノ文化的經濟的開發ニ當リテハ努メテ解放の態度ヲ採リ民間資本ノ自由ナル進出ヲ計ルト共ニ冀察政權又ハ南京政權ノ要望ニシテ其ノ至當ナルモノ又ハ面子上尤モナリト認メラルモノニ對シテハ常ニ理解アル態度ヲ以

テ臨ムコト必要ナリ。冀東地區ニ於ケル特殊貿易並ニ北支自由飛行ノ問題ニ關シテハ速ニ之カ解決ヲ計ルモノトス。

二、冀察政權ノ指導

冀察政權ニ對スル指導ニ當リテハ最モ公明ナル態度ヲ以テ臨ミ特ニ財政經濟軍事等百般ノ事總テ軍閥の稅政ヲ清算シテ明朗ナル地域ヲ構成シ民心ノ把握ニ努メシムルヲ要ス。

三、冀東自治政府ノ指導

冀東自治政府ノ指導ニ當リテハ特ニ其ノ内政ノ向上ニ努メ産業ノ徹底的開發ヲ行ハシムルト共ニ眞ニ軍閥の搾取稅政ナキ安居樂業ノ模範地域ヲラシメ以テ北支ニ對スル帝國ノ公正ナル眞意ヲ事實ノ上ニ具現セシムルコトニ努ム。

前記施策ニ當リテハ冀東自治政府ハ結局單獨ニ存立シ得サルモノナル點ヲモ考慮ニ容レ北支諸政權指導上ノ障害トナルカ如キ措施ハ之ヲ爲ササルヲ要ス。

四、山東、山西、綏遠諸政權ノ指導

此等諸政權特ニ山東ニ對スル施策ハ日滿支ノ融通提携ヲ

目的トスル文化的經濟的工作ノ漸進的遂行ニ依リ帝國ト

ノ連帶關係ヲ一層密接ナラシムルヲ以テ主眼トス。

右施策ニ當リテハ最モ公正ナル態度ヲ以テ臨ミ徒ニ民衆ノ感情ヲ激發シ支那側ニ排斥日ノ口實ヲ與フルノ惧アルカ如キ政治工作ハ之ヲ避クルヲ要ス。

五、經濟開發ニ關スル方針

北支經濟開發ハ民間資本ノ自由進出ヲ本旨トスル我方權益ノ伸暢ヲ圖ルト共ニ支那資本ヲモ誘致シ以テ日支人ノ一致セル經濟的利益ヲ基礎トスル日支不可分ノ事態ヲ構成シ平戰兩時ニ於ケル北支ノ親日態度保持ニ資セシムルヲ以テ目的トス。特ニ國防上必要ナル軍需資源(鐵、石炭、鹽等)ノ開發並ニ之ニ關聯スル交通、電力等ノ施設ハ要スレハ特殊資本ニ依リ速ニ之カ實現ヲ圖ルモノトス。尙經濟開發ニ當リテハ第三國ヲシテ北支ニ於ケル我方特殊地位並ニ權益ヲ尊重セシムルト共ニ第三國ノ既得權益ハ之ヲ尊重シ要スレハ此等諸國ノ施設ト合同經營シ又ハ其資本材料等ヲモ利用スル等第三國特ニ英米トノ提携共助ニモ留意スルモノトス。

(付 記)

對支蒙情勢判斷

判 決

帝國ハ對蘇支關係ノ現狀ニ鑑ミ速ニ滿洲國ノ治安ヲ確立シ北支防共ヲ完成シ對蘇必勝ノ戰備ヲ充實スル爲内蒙及北支工作ヲ強行シ該地帶ヲ日滿支ノ融合地帶タラシムルノ國策ヲ速ニ具現スルヲ要ス

處 置

一、關東軍ノ增強計畫ヲ更ニ繰上ケ實施シ北方蘇聯邦ノ野望ヲ封スルト共ニ北支情勢變化ニ對應スル準備ヲ完備ス
二、南京政權ヲシテ北支自治ヲ承認セシメントスルカ如キ所謂受權主義ヲ放棄シ工作ノ進展ハ一ニ帝國ノ自主的施策ニ依ル如クス

三、冀東政權ノ指導權ヲ再ヒ關東軍ニ移還シ北支工作ハ駐屯軍ヲ主體トシ關東軍之ニ協力スル如ク原則ヲ確立スルト共ニ冀東政權ヲ北支工作ノ母體トシ

四、内蒙軍政府ヲ強化シ之ヲ冀東ト連衡ス

五、次テ冀東、冀察、山東各政權ヲ一體トシ吳佩孚ヲ起用シ茲ニ北支政權ノ基礎ヲ確立ス若シ冀察政權ニシテ之ニ應セサル場合ニ於テハ先ツ天津ヲ獨立セシメ冀東、山東ヲ合體セシム之ノ際要スレハ帝國ハ所用ノ兵力ヲ行使シ狀況ノ推移ニ應シ帝國ハ所用ノ^(必要)力ヲ行使シテ冀察政府及其武力ヲ驅逐シ一舉ニ冀察ヲ右政權ニ合流セシム若シ右ノ情勢ニ至ラサルトキハ一時内蒙、冀東、天津、山東ヲ貫ク地域ニ止メ機ヲ見テ更ニ冀察ヲ料理ス

理 由

一、ソ聯邦ハ日獨ヲ以テ假裝敵國トナシ國家總動員大系ヲ整理シ本年度軍事關係豫算約三百億ルーブルヲ計上シ益々戰爭準備ヲ促進シ今後二年間ニ常備軍百八十萬(步兵百騎兵三十師團)ノ準備ヲ企圖スルト共ニ空軍及ヒ機械科部隊ノ強化ヲ企畫シ一萬五千機ノ大空軍ヲ建設セントシ更ニ又海軍ノ増強、交通施設ノ改善ヲ計畫實行中ナリ從テ極東ニ於ケル軍備モ逐日増強セラレ彼ノ所謂不敗ノ態勢ヲ整ヘツツアリ

右ノ如ク政策遂行ノ支援タル軍備ヲ充實スルト共ニ

更ニ支那軍備ノ狀況ヲ觀察スルニ最近數年間ニ於ケル裝備ノ向上就中航空兵力ノ増大ハ著シク其内容ノ變化ヲ招來シ必スシモ從來ノ如ク之ヲ對岸ノ火災視シ得サルコトハ其實狀ヲ知ルモノノ何人ト雖モ否定シ能ハサル所ニシテ若シ支那側カ陰ニ陽ニ宣傳スルカ如ク對蘇開戰ヲ期シ東北四省ノ失地回復ヲ企圖スルモノトセハ帝國ハ支那ノ現狀ニ對シ三思再省ヲ要スルコトヲ認メサルヲ得ス

茲ニ於テ帝國ニシテ先ツ支那ニ對シ何等ノ施策ヲ行フコトナク對蘇戰爭ヲ敢行センカ支那ハ殆ト全土ノ政客軍閥及民衆ヲ驅ツテ一丸ヲラシメ蘇聯ト連衡シ所謂失地回復ノ美名ノ下ニ北支方面ヨリ滿洲國ノ側背ヲ攻撃シ來ルヘキハ豫斷ニ難カラサルトコロナリ

三、西安事變ハ南京政府ノ買收工作ニ依リ一時の小康ヲ見タルモ共產軍ハ之ヲ契機トシテ著シク其勢力ヲ増大シ中央軍ニシテ縱令之カ討伐ヲ企圖スルモ^(豫)狄西甘肅方面ノ地形及過去ニ於ケル共產軍ノ戰績ニ鑑ミ之カ討伐ハ相當ノ日子ト兵力トヲ要スヘク殊ニ討伐ニシテ不成功ニ終ランカ北支五省中^(豫)山西、綏遠ハ逐次共產軍ノ蹂躪スルトコロトナリ遂ニハ外蒙ト連接スルニ至ルヘク勢ノ赴ク所河北、

「世界赤化ハ極東ヨリ」ノ標語ヲ實踐シ支那赤化政策ヲ強行シ着々其目的ヲ達成シ今ヤ抗日思想ニ於テ蘇支兩國ハ完全ニ一致シ更ニ具體的軍事勾結ヲ見ントスルニ至レリ

然レトモ蘇國ノ内部事情ハ未タ積極的ニ開戰ヲ行フコトヲ許ササルモノナルヲ以テ暫ク開戰ヲ避ケツツ外交、政治的工作ト併行シ赤化施策ヲ強行シ支那ヲ其ノ傘下ニ收ムルト共ニ全般的國際情勢ヲ有利ニ導クコトニ努力スルモノト觀察セラル

二、近時支那ノ對日動向ハ帝國ニシテ拱手傍觀ノ態度ヲ以テ終始セハ其容共タルト反共タルトヲ問ハス一部ノ親日的分子(冀東及内蒙古)ヲ除キ益々抗日氣勢ヲ高揚スヘク而モ逐次蘇聯容共的色彩ヲ濃厚化スルノ虞アリ

蓋シ容共的思想運動ハ巧妙ナル蘇聯ノ施策ニ依リ人民戰線ノ名ニ於テ相當廣範圍ニ擴大シツツアレハナリ而シテ帝國ノ對支態度爲スナキヲ觀取セル南京政府ノ對日態度ハ逐次硬化シ我カ外交の交渉ハ毎々ニ支那ノ冷笑的應接ノ前ニ挫折シ何等兩國關係ノ調整ヲ希求シ得サル狀況ナリ

察哈爾ニ戰禍ノ波及スヘキハ言ヲ俟タサルトコロナリ若シ夫レ傳フルカ如ク現南京政府カ裏面ニ於テ密カニ企圖シアルカ如キ共產軍トノ間ニ妥協成立センカ該政權ハ陰ニ容共政策ヲ採用スルニ至ルヘク此場合ニ於テハ當然ノ歸結トシテ北支及内蒙ニ於ケル我特殊地位ニ動搖ヲ來タシ帝國ノ庶機スル平和工作ニ依ル北支及内蒙自治ノ實現ノ如キハ遂ニ全ク不可能ナルニ至ルヘシ

即チ南京政府カ討共、容共ノ何レヲ採用スルニ於テモ北支及内蒙ハ直接間接ノ影響ヲ受ケ我カ帝國トシテ所謂靜觀無爲ノ態度ヲ持續シ得サラシムルモノアリ

翻ツテ滿洲國治安確立ノ見地ニ於テ觀察スルニ支那特ニ北支那現狀ヲ自然ノ推移ニ放置セハ滿洲國民ニ對スル感響甚大ニシテ反滿抗日及共產の思潮ノ増大高揚ヲ招來シ現在帝國ノ豫期スル在滿兵力ノ増強ヲ見ルモ到底右ノ思潮乃至匪軍ノ根絶ヲ期スルヲ得ス

抑々對蘇策戰準備ノ完成ハ滿洲國ノ治安確立ヲ以テ第一義トス從テ支那ニ對シ單ニ在滿兵力ノ増強ヲ完了スル迄靜觀的態度ヲ以テ終始スルモ兵力ノ増強ト滿洲國民ノ蒙ル感響トハ相殺シテ完全ナル治安ノ確立ヲ期待シ得ス對

蘇策戰準備ノ完了ハ終ニ其目的ヲ達成シ得サルヘシ

四情勢斯クノ如キヲ以テ北支那ニ日滿依存地帶ヲ建設セントスル國策ハ益々之カ實現ヲ緊急トシ之カ爲ニハ帝國ハ斷乎タル決意ヲ以テ政治的工作ヲ敢行セサルヘカラサルヲ痛感ス昨今北支那ニ對スル經濟工作緩慢ナラ其ノ緒ニ就キアルヲ見テ對支政策ノ遂行ヲ一ニ經濟的工作ニ依ラントスルモノアルハ思ハサルモ甚シキモノト云ハサルヘカラス

蓋シ北支經濟工作ノ稍々見ルヘキモノアルハ昭和十年關東軍ノ行ヘル政治工作ニ依リ冀東、冀察、兩委員會ノ成立セル賜物ニ外ナラス

政治的工作ヲ進展セシメスシテ單ニ經濟工作ノミニ依リ庶幾ノ結果ヲ得ントスルモ其ノ不可能ナルハ事變前ノ滿洲ニ於ケル狀態ニ見ルモ明ナレハナリ

果セルカナ冀察政權近時ノ態度ハ逐次惡化ノ傾向ヲ辿リ我カ企圖セル經濟的發展ノ前途モ甚タ樂觀ヲ許ササルモノアリ仍チ帝國ハ自主的見地ニ於テ北支ニ對スル政治的工作ヲ敢行シ之ト併行シテ經濟工作ヲ行フコト緊要ナリ若シ夫レ之カ爲長江沿岸ニ於テ一時喪失スヘキ商權ハ北

合ニ於テモ前述ノ如ク蘇聯内部ノ實情ハ未タ帝國ニ對シ開戰ノ決意ヲ行ヒ得サルモノアリ又支那ノ現實ハ逐次思想的武力の統一ニ向ヒアルモ西安ハ舊態依然トシテ嚴存スルヲ觀取セラレ我カ疾風迅雷的作戦ノ前ニハ現在尙充分ノ成算ヲ豫期セラレ若シ夫レ對支作戦ニ使用スル我カ軍ハ永久ニ固着シ對蘇作戦ニ兵力不足ヲ來タスヘシトナス論者アラハソハ支那ノ國民的自覺ヲ過大ニ評價シ自ラ描ク幻想ニ驚クモノト云フヘシ

若シ現狀支那ノ惡化ヲ放置シ北支ノ完全ナル南京化ヲ想定センカ對蘇支戰ノ場合支那ニ指向スル兵力ハ現下北支處理ニ要スル兵力ニ數倍スルヲ覺悟セサルヘカラス又北支工作ノ爲使用シタル兵力カ假リニ固着シ平時之ヲ引上ケ得ストスルモ對ソ開戰ニ至ラハ作戦運用ノ重點主義ニ依リ必要ニ應シ滿洲國內ニ使用スルハ固ヨリ妨ケサルニ想到セハ對ソ作戦ニ先シ支那ヲ料理スル爲北支ニ兵力ヲ行使スルハ何等憂慮ヲ要セス有利ニ進捗セハ對ソ開戰ニ際スル兵力ヲ節約シ得ル結果トナルモノト信ス

支ノ處理ニ依リ之ヲ償ヒ得テ余リアルヘキニ依リ長江沿岸權益ノ減退ヲ理由トスル北支工作反對論ハ成立シ得サルモノナリ

五、南京政府カ容共政策ヲ採用スルヤ否ヤハ暫ク措クモ抗日政策ヲ實行スルハ略豫測シ得ル所ニシテ現狀ヲ以テ推移セハ日蘇開戰ニ方リ蘇聯ト協同作戦ニ出ツルハ前述ノ如シ故ニ北支ヲシテ反共親日ノ旗幟ノ下ニ南京政權ヨリ分離セシメ之カ經濟的開發ヲ圖リ一般民衆ノ生活ヲ向上安定セシメ以テ關東軍背後ノ脅威ヲ除クコト緊要ナリ是レ聽テ全支ニ亘ル抗日乃至容共抗日ノ氣運ヲ衰退セシメ最モ有利ナル場合ニ於テハ蘇支連合ヲ阻止シ得ルノ公算アリ換言スレハ將來帝國ノ豫期スル對蘇戰爭ニ先チ支那ヲ各個ニ擊破スル所以ニシテ之ニ依リ帝國ノ經濟的實力ハ益々向上スヘク在滿兵力ノ整備ト内蒙方面ヨリスル帝國ノ施策等ト相俟テ遂ニ戰ハスシテ蘇聯ノ極東勢力ヲ屈服セシメ得ルコトアルヘシ而シテ現下支那ノ全般的情勢ハ縷述ノ如ク益々之カ必要ヲ痛感セシムルモノアルヲ以テ縱令武力ヲ行使スルモ之カ實現ヲ期セサルヘカラス

六、帝國カ對支政策ノ遂行ノ爲止ムヲ得ス兵力ヲ行使スル場

595

昭和12年5月10日

佐藤外務大臣より
在中国日高臨時代理大使他宛

華北自由飛行問題ならびに華北密輸問題の解決方針決定について

付記一

昭和十二年七月一日発在中國喜多大使館付武

官より今井參謀次長宛電報第八四四号

華北密輸解決方針の再考方意見具申

二

昭和十二年七月五日付在天津田尻總領事代理

より上村東亜局第一課長宛書簡

華北密輸問題解決のための措置に関する意見

具申

亞一機密合第六九八號

昭和十二年五月十日

外務大臣 佐藤 尙武
在中華民國臨時代理大使 日高 信六郎殿
(以下先着)

冀東特殊貿易及北支自由飛行問題ノ解決ニ關スル件

冀東特殊貿易及北支自由飛行問題ノ解決ニ關シテハ五月六日附亞一機密合第六五五號ノ次第アル處今般左記ノ如キ經緯ヲ經タル後別紙甲號及C號ノ通り夫々方針ノ決定ヲ見タ

ルニ就テハ委細右ニ依リ御承知相成度此段申進ス

記

一、冀東特殊貿易問題ニ就テ

四月十六日決定ノ對支實行策及北支指導方策ニ關スル話
合ト併行シ當方ヨリ別紙甲號ノ如キ具体案竝ニ説明ヲ軍
側ニ送付シ右ヲ基礎トシ話ヲ進メタル處陸軍側(海軍側
ハ當初ヨリ本案ニ同意)ヨリ三月十九日附ヲ以テ別紙乙
號ノ如キ意見ノ回示アリ、仍テ陸軍側ニ對シ右軍側希望
ハ諒トスル所ナルモ交渉ノ詳細ハ外務側ニ一任アリ度旨
説示セル結果、柴山軍務課長ヨリ五月八日附ヲ以テ別紙
丙號ノ通り外務案ニ異存ナキ旨回答越セリ(尙本件ニ關
シ最モ問題トナルハ支那側監視船ノ問題ナルカ右ニ關シ
テハ先ツ本案ニ依リ交渉ヲ進メ、我方大宗品ニ對スル關
稅引下方ニ關スル支那側ノ出方ヲ見タル上第二段ノ措置
トシテ更メテ好意的考慮ヲ加フルコトニ陸軍側事務當局
ト話合濟ナリ)

二、航空問題ニ就テ

本件ニ關シテハ當方ニ於テ當初別紙A號對支航空問題ニ
關スル方針案竝ニ説明ヲ作成シ右ヲ基礎トシテ話ヲ進メ

以テ申進タル日滿獨航空連絡ノ急速實現方切望シ居リ從
ツテ安西飛行場ノ開設ヲ見サル限り尠クモ額濟納ヘノ軍
事飛行ハ支那側ニ對シ之カ中止方約束出來ストノ強硬ナ
ル態度ヲ持シ來リ又別紙C號方針中ノ要綱(2)ニ關シテモ
「…前記我方要望ヲ受諾スルカ或ハ(ハ)…」トアルヲ「…
受諾シ且事實上…」トセムコトヲ主張シタルモ當方ヨリ
陸軍省軍務局側ヲ説得ノ結果且ヲ或ハトシ(イ)ト(ロ)ノ兩問
題ヲ分離セシメ結局C號ノ通り妥決、右ニ依リ速ニ支那
側トノ交渉ヲ進ムルコトニ決定セル次第ナリ)

本信宛先 在支大使、北平、上海、天津、青島、濟南、

張家口、在滿大使

本信竝ニ附屬物寫送付先

英、佛、獨、伊、白、露、米、伯、土、壽府

(別紙甲号)

特殊貿易廢止ニ關スル方針案

(東亞局第一課、十二、三、四)

(一)南京政府ノ冀察政權ニ對シ約束セル月額百萬元ノ補助ヲ
實行セシム。

タル次第ナルカ陸軍側(海軍側ハ右案ニ全然同意)ヨリ陸
軍省事務當局トシテハ本件交渉ノ方法、順序等ハ固ヨリ
外交上ノ技術ニ關スルモノニシテ軍トシテ意見ヲ述フヘ
キ筋合ニ非スト思考スルモ上海福岡間ノ交渉ニ執着スル
ノ餘リ日滿獨間航空連絡ノ實現ニ支障ヲ來スカ如キコト
ナキ様注意アリタキ旨申越スト共ニ當方參考トシテ別紙
B號「陸軍側意見」ヲ回示越セルヲ以テ當方ヨリ外務省
トシテハ右陸軍側希望ヲモ考慮ニ容レタル上外務案ニ依
リ交渉ヲ進ムルコトトスヘキニ付右ニ諒承アリ度旨説明
シ、一應妥結ヲ見居タル處其ノ後主トシテ參謀本部側ヨ
リ右外務側作成ノ方針案ハ事實上日滿獨航空連絡ノ實現
ヲ遷延乃至阻止スルモノナリトテ反對ノ意向ヲ表明シ來
レリ。仍テ更ニ折衝ヲ續ケタル結果更メテ別紙C號「對
支航空問題ノ解決促進ニ關スル方針」ヲ作成シ右ヲ陸軍
側ニ送付シ置キタル處柴山軍務課長ヨリ前記別紙丙號ノ
通り回答アリ、右C號方針ニ依リ支那側トノ間ニ本件交
渉ヲ進ムルコトニ決定ヲ見タル次第ナリ(參謀本部ニ於
テハ獨逸側トノ約束モアリ支宛亞一機密第二五號(上海
大使、滿、北平、天津、濟南、青島宛合第四一八號)ヲ

- (1)支出スヘキ費目及支出ノ方法ハ南京側ニ一任ス
- (2)百萬元冀察ニ送付後ノ冀察冀東間ノ分前ニ關シテハ兩
政權間ニ別途考究セシム

(3)右金額ハ北支ニ於ケル經濟開發及日支間ノ文化的經濟
的提携ノ爲メニノミ使用スルモノトス。依テ之ヲ冀察
政權ノ一般會計ト分離セル特別會計トシ其ノ管理及使
途ハ日支共同委員會ヲ組織シテ管掌セシム。(本委員
會ニハ日本側及冀察側ノ外、必要アラハ南京側委員ヲ
モ加ヘ、依テ支那財閥ニ對シ北支經濟開發ニ對スル興
味ト安心トヲ與ヘ以テ其ノ投資ヲ促進スルコトヲ考慮
スル要アリト認メラル)

(二)南京側ヨリ現實ニ月額百萬元送付アリタル上ハ冀東特殊
貿易ハ之ヲ廢止ス。(但シ貿易業者ニ不測ノ損害ヲ與ヘ
サル爲適當ノ豫告期間ヲ存スル要アルヘシ)

冀東特殊貿易廢止ニ關スル方針案說明

一、冀東特殊關稅制度廢止ニ關スル帝國政府ノ方針(從來ノ
經緯)

冀東ノ特貿廢止ニ關スル帝國政府ノ方針ニ關シテハ客年

六月下旬天津軍池田參謀及毛里囑託來京ノ際、時局委員會ニ於テ

(1)冀察政權ニ對スル河北省關稅剩餘(關稅收入ヨリ外債負擔部分及海關維持費ヲ控除セルモノ)ノ委讓ト共ニ冀東特貿ハ免モ角モ廢止ス

(2)冀察政權ノ南京ニ對スル建議ト南京ニ於ケル外交交渉トニ依リ國民政府ヲシテ關稅ノ妥當ナル引下ヲ實行セシム(關稅引下ノ實現ハ特貿廢止ノ條件トナリ居ラス)ノ方針ヲ決定シ陸軍省ニ於テハ七月上旬關係出先ニ對シ左記趣旨ヲ訓電セル經緯アリ。

(一)冀東政府ノ特殊關稅制度(支那側ニ於テ取締ノ責任アル密輸トハ其ノ性質ヲ異ニス)ノ日支貿易、日本ト列國トノ關係及支那政治經濟ニ及ホス影響ニ關シテハ複雜多岐ニシテ俄ニ論斷ヲ下シ難キモ支那關稅均一ノ原則ハ帝國ノ承認セル所ナルヲ以テ帝國ハ條約違反ノ行為タル本件ヲ支持スルヲ得ズ然レ共本件ハ南京政權ガ冀察政權ニ對スル約定ヲ蹂躪シテ關稅月額百萬元ノ送付ヲモ實行セズ關稅收入ハ之ヲ獨占シテ北支經濟ノ開發ニ貢獻セザルコト及民衆ノ要求

助セシムルモノトス(最モ冀察側トシテハ關稅剩餘委讓ノ方ニ主力ヲ置クノ建前トスルヲ要ス)

ニ、關稅委讓問題ノ現狀

特貿廢止ニ關スル前記方針ニ關シテハ當時川越大使ニモ訓電濟ニテ同大使ニ於テ右方針ニ基キ南京側ト交渉ヲ開始スルコトトナリ居タルモ成都事件ニ關スル交渉(關稅引下ハ別問題ナリ)ノ影響ヲ受ケ遂ニ開談ノ機會ナク又天津方面ニ於ケル冀察政權ノ指導モ進捗セス結局本件ハ其ノ儘トナリ居ル次第ナリ。

然ルニ關稅ノ委讓ハ自然、北支關稅制度ノ獨立延イテ北支ノ分治等ノ政治的問題トモ關聯ヲ有シタルヲ以テ我方ノ意圖ニ付支那側ニ誤解ヲ與ヘ易ク南京側トシテモ實行容易ナラサリシモノト想像セラルル外、分治等ノ政治的工作ハ此ノ際實現ヲ期シ難キ現狀ナルニモ鑑ミ今後ノ交渉ニ當リテハ南京側ヨリ冀察政權ニ送付スヘキ金額ハ必スシモ之ヲ關稅ト限定セス、寧ろ容易ナル形式ニ依リ南京側ノ支出ニ便ナラシメ以テ速ニ本件ノ解決ヲ計ルコト現下ノ情勢ニ鑑ミ得策ナリト認メラル。(支那側ノ密輸取締ニ對スル協力ノ問題ニ關シテハ別途考究ス)

ヲ無視シテ排日の高率關稅ヲ採用セルコト等ノ必然の結果ナリ

(二)以上ノ理由ニ依リ南京政權ニ對シテ極力一般關稅引下ヲ要求スルコトハ勿論ナルモ先ツ南京政權ヲシテ河北省關稅收入ヨリ外債負擔部分及海關維持費ヲ除キタル剩餘ヲ冀察政權ニ確實ニ委讓セシメタル上ハ特殊關稅ハ之ヲ撤廢セシム(冀察政權ノ收得分ニ對スル冀察冀東兩政權間ノ分前ハ別途研究ス)

(三)右關稅ノ委讓ニ關シテハ支那駐屯軍ノ宋哲元ニ對スル内面指導ニ依リ該政權ヲシテ南京政權ニ要求セシムルト共ニ之ト並行シ駐支大使ヲシテ直接南京政權ニ要求セシム

(四)冀察政權カ關稅ノ委讓ヲ受ケタル上ハ我方ハ監督ヲ嚴ニシテ是カ濫費ヲ阻止シ其ノ相當部分ハ諸般ノ經濟開發ニ充當セシム

(五)支那一般關稅引下方ニ付テハ南京政權ニ對スル正式外交交渉ニ依ルノ外冀察側ヲシテ南京側ニ對シ密輸取締ノ見地ヨリ主トシテ典型的密輸品ニ對スル關稅引下方ヲ要求セシメ以テ南京ニ於ケル外交交渉ヲ援

(別紙乙号)

昭和一二、三、一九
陸 軍 省

特殊貿易廢止ニ關スル方針案ニ關スル意見
「本件主旨ニ於テ異存ナシ

但シ本件解決ニ伴ヒ密輸監視權等ニ關連シ停戰協定ニ累ヲ及ホスカ如キコトナカラシムルヲ要ス尙支那側ノ密輸取締ニ對シテハ誠意ヲ以テ協力スルモノトス

ニ、細部ニ關スル意見並要望左ノ如シ

(イ)、(一)項中「約束セル月額百萬元」トアルヲ「相當」ニ改ム

(ロ)、(2)ヲ左ノ如ク改ム

冀察、冀東ニ讓渡スヘキ金額ハ最少限月額百萬元トシ内半額ヲ冀東ニ交附セシムルヲ目途トシ兩政權間ニ別途研究セシム

(イ)、外交交渉ニ方リテハ左記ノ件一舉解決方盡力アリ度特殊貿易廢止ト同時ニ日貨關係ノ稅率引下ケヲ行ハシムルノ外運單制度ノ廢止稅關吏ノ肅正ヲ行ヒ以テ間接

的ニ日貨進出ノ妨碍ヲ行フコトナカラシム

(別紙丙号)

軍務發第二三一號

對支航空問題ノ解決促進ニ關スル方針案(五月七日附)
竝特殊貿易廢止ニ關スル方針案(三月四日附)ニ關スル
件回答

昭和十二年五月八日

陸軍省軍務局軍務課長 柴山 兼四郎

外務省東亞第一課長 上村 伸一殿

首題ノ件兩案共異存無之

但シ本案解決交渉ニ際シテハ天津軍並冀察側ノ面子ヲ立
ツルコトニ關シ充分配慮アリ度

(別紙A号)

對支航空問題ニ關スル方針案

(東亞局第一課、十二、三、四)

(日支航空問題中最モ重要ナルハ上海福岡間航空連絡、歐
亞連絡飛行ニ關聯スル支那領域内離着陸及飛行問題、惠通

關シテハ歐亞航空公司トモ連絡ノ上、情勢ニ應シ時宜ニ
適シタル方法ニ依リ目的ノ達成ヲ期ス。

對支航空問題ニ關スル方針案説明

一、南京交渉ニ於ケル航空問題ノ經緯

成都事件ニ關聯スル先般ノ日支交渉ニ際シ我方ヨリ提出
セル各種要求ニ對シ支那側ハ全般的ノ條件トシテ平等、
互惠、主權ノ相互尊重ノ三項ヲ提示シ來レルカ右所謂支
那側三原則ノ問題ハ別トシ上海福岡間航空聯絡問題ニ關
シテハ「不取敢昭和十年十月二十二日決定セル合約草案
中ニ本件實施期ヲ昭和十二年五月一日ト定ムル旨ヲ明記
シ即時之ニ調印ス但右調印ト同時ニ日本側ニ對シ「本件
實施前ニ右合約ニ協定ナキ航空ニ關シ(即チ北支自由飛行)
解決ヲ圖ラレ度シ」トノ趣旨ノ一方の公文ヲ外交部
ヨリ送付ス」ルコトニテ日支間ニ大体話合成立シ居タル
次第ニシテ現ニ國民政府ハ客年十二月六日ノ支那各紙ヲ
シテ「信スヘキ筋ヨリノ聞込」トシテ航空問題ニ關シ
「九、一八以前日本ヨリ提議シ昨年殆ト契約ノ締結ヲ見
ントシタルモ客冬以來日本カ北支ニ於テ自由飛行ヲ開始

公司ノ航空路延長及歐亞航空公司トノ連絡問題等ナル處右
ノ中歐亞連絡飛行關係問題及惠通問題ノ如キハ今直ニ交渉
スルモ到底支那側ニ於テ受付ケルモノトハ思ハレス、然ル
ニ上海福岡間航空連絡問題ニ就テハ日支間ノ話合相當ニ進
ミ居ルヲ以テ、先ヅ上海福岡間連絡問題ヲ成立セシメ、航
空問題ニ關スル日支間話合ノ絲口及空氣ヲ作りタル上、第
二、第三ノ問題ニ入ルコト結局ニ於テ右諸案件解決ノ捷徑
ナリトス。以上ノ考慮ニ基キ左記方針案ヲ作成セリ)

(一)上海福岡間航空連絡ノ急速實現ヲ期ス。

此レカ爲北支自由飛行(惠通公司ニ依ル冀察政權範圍内
ノ營業線ヲ除ク)ハ一應之ヲ廢止ス

(二)南京政府ヲシテ惠通公司ヲ承認若ハ默認セシメ、仍テ同
政府ヲシテ同公司ノ營業線ヲ延長シ若ハ歐亞航空公司ト
ノ連絡ヲ承認セシムル様措置ス、

南京政府ニシテ面子上惠通公司ノ承認ヲ困難トスルモ新
ニ日支合辦ノ航空公司設立ニ同意スルニ於テハ惠通公司
ハ之ヲ解散シ、新ナル日支合辦航空會社ニ依リ我方所期
ノ目的ノ達成ヲ期ス

(三)歐亞航空連絡ニ關聯スル支那領域内離着陸及飛行問題ニ

シ領空主權ヲ侵略スルニ至リタレハ支那トシテハ此ノ事
態ノ止ム迄ハ上海福岡聯絡問題ノ進行ハ困難ト認ムルニ
至レリ。政府ノ此ノ態度ハ今モ不變ナリ」ト述ヘシメ居
レリ。

二、歐亞航空聯絡ト惠通公司トノ關係

歐亞航空聯絡ノ實現ハ我方ノ最モ希望スル所ナルカ右定
期航空設定ニ關スル滿航空、「ルフトハンザ」間協定草
案ニ依レハ我方ハ「アフガニスタン」ト「トルキスタン」
國境以東ノ航空路開設ニ對シ責任ヲ執ルコトト成リ居リ
差當リ安西着陸場ノ開設ハ急速實現ノ必要ニ迫ラレ居ル
處本件ニ關スル對支交渉ニ當リテハ支那側ハ日支交渉ノ
場合ト同様、北支自由飛行、北支政權、特務機關等ニ關
スル問題ヲ交換條件トシテ提出シ來ルコト想像ニ難カラ
ス。

三、今後ノ方針

成都事件ニ關聯スル南京交渉ノ後始末ニ關シテハ今後成
ルヘク速ニ適當ノ機會ヲ捉ヘ同交渉ノ經緯ヲ辿リ問題ノ
具体化ヲ計ルノ要アル次第ナルカ此等ノ問題中航空問題
ハ前記一及二トノ關係モアリ最モ速ニ提起セラルヘキ性

質ノモノナリ。仍ツテ此ノ際川越大使ヲシテ前記航空問題ニ關スル南京政府ノ言質ヲ辿リ上海、福岡間航空聯絡ノ急速實現方外交部ト開談セシムルコトトシ右話合ノ際支那側ヨリ北支自由飛行廢止ニ付何等申出アリタル際ハ我方トシテモ公正ノ見地ヨリ尠クモ北支自由飛行(惠通公司航空路ニ關シテハ既存ノ經緯アリ之カ廢止ハ今日ノ情勢ニ於テハ我方トシテ容認ノ限ニ非ス、從ツテ本件自由飛行トハ冀察政權ノ勢力範圍外ノ飛行即チ濟南、青島、太原、綏遠等ニ至ル現在ノ軍事飛行ノミヲ指スモノトス)ハ之ヲ取止ムルコトニ今日ヨリ方針ヲ決定シ置キ右含ニテ交渉ヲ進メ以テ上海福岡間航空聯絡ノ急速實現ヲ期スルト共ニ同交渉ヲ切懸トシ歐亞航空聯絡ニ關シテモ支那側ト話合ヲ進ムルコトト機宜ニ適スト認ム。

四 尙「ルフトハンザ」トノ聯絡ノ爲滿航空又ハ惠通公司ニ依リ行ハルヘキ「アフガニスタン」迄ノ支那領空飛行ニ關シテモ自由飛行ハ無理ナルノミナラス結局南京側ノ同意尠クモ默認位ハ之ヲ取付クルニ非サレハ全般的ノ目的達成ハ至難ト認メラレ歐亞航空聯絡問題ニ關スル對支交渉ニハ今後幾多ノ支障アルモノト想像セラルル處同交渉

一、速ニ日滿獨連絡飛行ノ準備並ニ實施ニ支障ナカラシムル

如ク支那領土上空飛行及安西ニ飛行場設置ニ就キ交渉スニ安西飛行場並ニ必要ノ施設ヲ支那側ニ於テ設置スヘキコトヲ提議シ來ル場合ニ於テハ之レニ應ス

但シ此ノ場合ニ於テハ使用權ハ之レヲ獲得シ要スレハ之レカ設備費ハ日本側ニ於テ負擔ス

三、獨逸政府ニ對シテハ側面ヨリ安西飛行場設置並ニ支那領土上空飛行ノ交渉援助方要請ス

四、上海—福岡間航空交渉ヲ速ニ開始シ併セテ日支全般ノ航空調整ニ關シ交渉ヲ開始スルハ希望スル所ナルモ之レカ爲メ日滿獨連絡飛行ノ準備並ニ實施ヲ遲延セシムルコトナキ様盡力アリ度

五、北支ニ於ケル自由飛行問題ハ右實施ト共ニ之レヲ解決スルニ異存ナシ

又支那側ニ於テ惠通航空公司ノ航空路ヲ南方ニ擴大スルコトヲ認メ或ハ全支ニ亘リ日支航空ノ調整ヲ計リ以テ日支合辦ノ新公司設立ヲ提議シ來ルコトアラハ惠通航空公司ヲ改組スルコトニ異存ナシ

ヲ促進セシムル爲ニハ場合ニ依リ惠通公司ヲ解消シ南京政府ノ同意ヲ得タル日支合辦ノ新會社ニ合流セシムルノ覺悟ヲ今日ヨリ決メ置クヲ要スヘシ(北支航空會社設立ニ關スル外務省陸軍省間諒解事項ノ二參照。尙當方ニ於テハ從來上海福岡間航空聯絡交渉ニ際シテハ歐亞航空公司改組ノ點ヲモ考慮ニ容レ交渉シ來レル次第ニテ先般ノ日支交渉ニ當リテモ航空聯絡問題ニ關シテハ先ツ「日華交通關係ノ密接ナルニ鑑ミ中國、歐亞兩公司ニ倣ヒ日華合辦航空會社ヲ設立シ中國側ハ該會社ニ對シ日華航空聯絡ニ從事スルコトハ勿論中國全土ニ亘リ航空路ノ開發ニ當ルコトヲ許可セラレ度シ」トノ趣旨ヲ支那側ニ申入レ居ル譯ナリ。東亞ニ於ケル航空提携ニ關スル日獨間協定草案第四條第五條參照)

(別紙B号)

昭和一二、三、一九
陸 軍 省

對支航空問題ニ關スル方針案ニ對スル意見

本問題ニ關スル陸軍ノ要望左ノ如シ

(別紙C号)

對支航空問題ノ解決促進ニ關スル方針

(昭和十二年五月七日)

一、方針

日滿獨航空連絡ニ關聯スル日獨兩國機ノ支那領域内離着陸及安西飛行場設置問題ハ我方ノ最も重視スル所ナルヲ以テ速ニ之カ解決ヲ期ス。

二、要 綱

(1) 前記方針ノ急速ナル實現ヲ期スル爲北支自由飛行(惠通公司ニ依ル冀察政權範圍内ノ航空ヲ除クノ外一切ノ自由飛行ヲ含ム)ノ廢止ヲ條件トシテ福岡上海間航空連絡ノ實現方(昭和十年十月二十二日決定ノ合約案ノ實行)開談シ之ヲ端緒トシテ日滿獨航空連絡ニ關スル交渉ヲ開始ス

(2) 南京政府ニシテ(イ)日滿獨航空連絡ニ關聯スル前記我方要望ヲ受諾スルカ或ハ(ロ)事實上惠通公司ノ現航空路ヲ冀察外ニ擴張スルコトヲ承認スルニ於テハ惠通公司ヲ南京政府ノ認メタル日支合辦會社ニ改編スルニ異存ナシ

(付記一)

第八四四號

上 海 7月1日前11時30分發
參謀本部 7月1日後2時40分着

上村東亞課長ノ説明ニ依レハ帝國ハ差當リ冀東貿易ヲ解消シテ然ル後大体靜觀の態度ヲ執ル趣ナル處冀東貿易ノ解消ニ關シテハ昨今ノ情勢上一應考ヘ直スコト可ナルヘシト思考ス、元來冀東貿易ノ件ハ從來我カ方ニ於テ列強ノ對日感情ヲ緩和シ且南京側トノ關稅、貿易其他經濟の關係ノ一部打開ノ必要上相當考慮セラレアリシ懸案ニハ相違ナキモ之カ實行問題ニ就キ考察スルモ冀察ニ對スル内面工作ヲ以テ冀察ヲシテ南京側ニ對シ年額百萬元ノ政費補助ノ交渉ヲ爲サシムル如キハ最近ノ南京側ノ態度ニ鑑ミ恐ラク百年河清ヲ待ツニ等シカルヘシ若我カ方ヨリ南京側ニ對シ或種ノ平行的折衝ヲ始ムルコトトナレハ結局冀東解消問題ニ迄引込マルコト必定ニシテ我カ方希望ノ實現ノ如キ到底不可能ナルコト疑ナキ所ナリ

此目的ノ主眼カ我カ態度ノ公明サヲ中外ニ明示セントスル

可能ナルヲ以テ無條件ニテ冀東貿易廢止方ニ方針ヲ變更スルノ外ナク且右ハ順序トシテ前記條件實現不可能ナルコトヲ軍部方面ニ諒解セシムル必要アリ之カ爲ニハ天津總領事館方面ニ於テ一應冀察ニ對シ何トカツツイテ見タ上如何ニ努力スルモ到底百萬元ノ補助ヲ得ルコト不可能ナルニ付現在ノ方針ヲ前述ノ如ク改メ度キ旨軍部ニ對シ強く突張ルコト肝要ナリト考ヘ過般北上視察シタル次第ナルカ其ノ結果ハ冀東貿易收入ハ從來當方ニ於テ豫想セシ如ク特別會計トシテ積立ラレ居ラズ冀東政府ノ一般政費ニ流用セラレツツアリ冀東政府ノ存續ト冀東貿易收入トハ不可分ノ關係ニアルコト判明シタルヲ以テ前記當方ノ處理案ハ全ク實情ニ即セス先ツ右政費ノ補助ヲ工面スルヲ要スルコトヲ知り得タルカ右事情ヲ知ツタ上ノ考トシテモ南京政府ヨリ百萬元ノ補助ヲ爲サシムルコトハ依然トシテ不可能ト云フヘク(但シ南京ト限ラズ我方ヲ除ク何處カ例ヘバ冀察ヨリ少クトモ冀東ニ要スル金ヲ出サスベク努力ハシテ見ル要アリコノ場合冀東ノ動搖ハ過般參謀長ト懇談ノ際ニ話出タ通り相當程度ニ覺悟スル要アルヘシ)右ハ冀察ヲシテ交渉セシムル場合ハ固ヨリ當方面ニ於テ直接或ハ間接ニ南京ト交渉スル場

ニアリトセハ宜シク日滿兩國ニ於テ冀東財政ノ不足ヲ負擔スルノ決意ヲ以テ斷乎特貿ヲ解消スヘキモノト思考ス右施策不可トセハ此際寧ロ冀察側ニ對スル内面工作ヲ繼續シツツ機ニ應スル用意ヲ整ヘ當分現狀ノ儘放任靜觀ノ態度ヲ持スルヲ賢策トスヘシ當地海軍及外務官憲モ本意見ニ概ネ同意シアリ

關、天、南、北 スミ

(付記二)

拜啓陳者日支關係ノ調節ニ付當面ノ措置トシテ日支航空聯絡及冀東貿易廢止ヲ取上グルコト然ルベシトノ御方針ニ付テハ小生ニ於テモ同様ノ意向ヲ有スルモノナル處日支航空聯絡ニ付テハ南京大使館側ト聯絡シ支那側ノ態度ヲ探リタルモ到低速急解決ノ望ナク(南京發電報中間報告ノ通り)寧ロ冀東貿易問題ヲ先ニ取上ケ且之ニ依リ多少共支那側ノ感情ヲ緩和シ以テ航空聯絡問題解決ニ資スル樣努ムルノ外ナキモノト思考セラルル次第ナルカ繼テ冀東貿易ノ廢止ニ付考察スルニ本省ノ方針ニアルカ如ク南京ヨリ月百萬元ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ之カ條件トスルニ於テハ實現殆ド不

合モ同様ト認メラレ且南京ト交渉ヲ爲スニ於テハ勢ヒ冀東政府ノ解消ニ付南京ニ開談ノ機會ヲ與フルコトトナル懼モアリ仍テ唯一ノ殘サレタル萬全ノ方法トシテハ日本政府ニ於テ冀東政府ニ對シ必要ナル政費ノ補助ヲ爲スコトニ依リテ冀東貿易ノ廢止ヲ實現スル外ナシト存セラル右ハ我方内政ノ現狀ニ無關心ナル案トモ考ヘラルヘキモ政府ニ於テ差當リ是非トモ冀東政府ノ存續ヲ必要トセラルル以上萬難ヲ排シ右實現ニ努力セラルルコト理論上亦實際上モ必要已ムヘカラサル方策ト存スル次第ナリ(過般陸海外出先係官ノ懇談會ニ於テモ大體右様ノ意見ニ落着キタルカ陸軍側ヨリハ既ニ中央ニ對シ電報濟右電報ノ要旨ハ冀東貿易ヲ速カニ廢止セントセバ我方ヨリ冀東政府ニ補助ヲ爲スヲ要スルコトヲ強調セルモノナリ)尙前記我方ヨリ補助スルノ方法ヲ執ルコトヲ必要トスル新事態トシテ認ムヘキモノハ支那ノ幣制借款問題ナルカ我方ニ於テ幣制借款ニ割込ム意向アリトセハ(借款問題ニ付テハ二、三日中ニ大使ヨリ意見上申ノ筈)英國側ニ對シ右様提案ヲ爲ス場合英國トシテ必然的ニ冀東貿易ノ即時廢止ヲ提案シ來ルヘキ處其ノ際英國ノ助力ニ依リ南京ヲシテ百萬元ノ補助ヲ爲サシムル様仕向ケル

上村學兄

田尻愛義

596 昭和12年6月7日 在中国日高臨時代理大使より
 広田外務大臣宛(電報)

日本側航空機の華北飛行に対する外交部長抗議公文について

南京 6月7日後発
 本省 6月8日前着

第三九三號

往電第四六號ニ關シ

王外交部長ヨリ本月五日附照會ヲ以テ日本飛行機ノ中國ニ於ケル不法飛行ニ關シテハ從來累次之カ制止方抗議セルモ未タ何等ノ措置及回答ナキ處今般更ニ五月八日日本第一四〇號飛行機天津ヨリ濟南、青島ニ飛行シ天津ニ歸還シタルカ此ノ種不法行為一再ナラス發生シ擅ニ中國主權ヲ侵害スルカ如キハ中國政府ノ斷シテ默認シ得サル所ニシテ今後再ヒ此ノ種不法行為ノアリタル場合ハ國家主權ノ擁護上適當ナル處置ニ出テサルヘカラサルコトヲ聲明ス就テハ速ニ之

コトハ殆ト期待シ得ヘキコトニ非ス從テ冀東貿易廢止ニ依ル内部關係ノ問題ハ我方限リニ於テ處置スル必要ニ迫ラレ我方ヨリ冀東政府ノ政費ヲ補助スルコトハ免レ得サルコトナルヘシト豫測セラルル次第ナリ(右補助ノ方針決定スルニ於テハ其ノ額如何ハ左シテ重要問題ニハアラサルヘキモ冀東ノ經濟開發ノ如キ積極的事業ヲ除外シ單純ナル政務ノ補助ニ止ムルニ於テハ年約二三百萬圓ニテ充分ト認メラレ政府部内ノ意向取纏メニ付左シテ困難ナク工夫出來ルモノカト存ス)尤モ幣制借款ニ關聯セシメ冀東貿易ノ廢止ヲ論スルコトハ幣制借款割込ミニ付軍部ヲ説得スルニ當リ或ハ障害トナルコトト認メラルルニ付本件補助ヲ如何ニシテ軍部ニ對シ提案スルヤニ付テハ本省ニ於テ臨機御處理相成コト然ルヘク近ク幣制借款問題ニ關スル當方ノ意向上申ニ當リテモ當方案ヲ當然軍ニモ示サルヘキヲ豫定シ此ノ點ニ態ト言及スルヲ避ケ度考ヘ居ルニ付右ニ御含ミノ上御取扱ヲ願ヒ度以上最近武官室ヨリ冀東貿易問題ニ付電報アリタルニ付大部分ハ過日話濟ノ事柄ナルモ重複ヲ顧ミス小生限リノ愚見内報申上ル次第ニ御座候右不取敢 敬具

昭和十二年七月五日

カ制止ニ當ラレ度シ且何分ノ回答アリ度シトノ趣旨ヲ申越セリ

北平、在支各總領事ヘ轉電セリ

597 昭和12年6月7日 在中国日高臨時代理大使より
 広田外務大臣宛(電報)

惠通航空公司による航空連絡のように國民政府中央が承認しない外交事項の処理は無効である旨のわが方宛外交部公文について

付記一 昭和十一年十月十七日調印

航空会社設立に關する在天津堀内總領事・宋冀察政務委員會委員長間交換公文
 二 昭和十一年七月十四日付、外務・陸軍・海軍・通信・大藏各省および対滿事務局決定
 「滿洲航空會社増資及北支航空會社設立ニ關スル要綱」

南京 6月7日後発
 本省 6月7日夜着

第三九五號(極秘)

王外交部長ヨリ本官宛四日附照會ヲ以テ「國際間ノ一切ノ外交問題ハ正當ノ經路ニ從ヒ當事國中央政府ノ主持辦理スヘキハ一定不變ノ原則ナリ從テ日支間ノ外交事項モ本國中央政府ノ辦理セルモノニアラサル事項若クハ本國中央政府ノ承認ヲ經サル事項例ヘハ日支兩國間ノ空ノ交通辦法ノ如キハ上述ノ原則ニ違反シ且中國主權ヲ侵犯セルモノナルニ付有效ト認ムルヲ得ス茲ニ特ニ聲明ス」トノ趣旨ヲ申越セリ

右照會ハ惠通公司ノ日支聯絡飛行開始ニ關聯シ送付越シタルモノト認メラルル處當方ニ於テハ差當リ之ニ對シ何等回答ヲ發セス握潰シ置ク所存ナリ

(公文郵送)

北平、上海、天津、青島、濟南、張家口、滿ヘ轉電セリ

(付記一)

東亞ノ交通文化ノ發達ヲ助長スル爲冀察政權當事者(以下甲ト稱ス)ハ日本天津總領事(以下乙ト稱ス)ト航空會社設立ニ關シ次ノ文書ヲ交換ス

第一 雙方ハ合作ノ精神ニ基キ冀察政權ノ特許ニ依リ左記

事業ヲ經營スルヲ以テ業務トスル航空股份有限公司ヲ中國法律ニ依リ共同組織ス

一、旅客、貨物及郵便物ノ航空機ニ依ル輸送

二、航空機ノ賃貸事業

三、其ノ他航空機ヲ以テスル一切ノ事業

四、航空事業ニ對スル投資

五、前各號ニ附帶スル事業

第二 公司ノ出資者ノ名義ハ甲側ニ在リテハ冀察政權當局者トシ乙側ニ在リテハ乙ノ指定スル日本人トス

第三 公司ノ資本總額ハ中國法幣四百五十萬圓トシ日支各折半支出ス但シ第壹回拂込ハ貳百七十萬圓トス

株式拂込當時ニ於ケル日支爲替ノ換算率ハ當日ノ相場ノ如何ニ拘ラス百對百トス

第四 甲側ノ出資ハ飛行場、格納庫、油庫、事務所、住宅、道路及通信施設等ノ土地、建造物、工作物等ヲ現物出資トシテ提供シ總額ニ滿タサルトキハ現金出資ヲ以テ不足分ヲ補足スルカ又ハ後日航空路擴張ニ伴フ現物出資ニ充當スル爲メ一時出資ヲ留保スルコトヲ得但シ後者ノ場合ニ在リテハ公司ハ甲ニ對シ出資額ノミニ應スル額ノ株式

ヲ發給スルモノトス

第五 乙側ノ出資ハ運航ニ必要ナル諸器材諸施設ヲ現物出資トシテ提供シ總額ニ滿タサル分ハ現金ヲ以テ出資スルモノトス

第六 公司ノ株式ハ記名式トシ公司ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ他人ニ讓渡シ若クハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第七 公司ノ航空地域ハ差當リ隴海線以北、大連、錦州、承德、多倫ヲ連ヌル線以南ノ地域トス但シ甲側ハ其ノ政權範圍内ニ於ケル責任ヲ擔當スルモノトス

第八 公司ノ董事及監察人ハ日支兩國同數トス
董事長、副董事長ハ各一名トス

董事長ハ中國側董事中ヨリ選出シ公司ヲ代表ス
副董事長ハ日本側董事中ヨリ選出シ公司ノ業務ヲ執行ス

董事及監察人ハ株主タルヲ要セス但シ株主ノ委任ニヨリ株主代理トシテ株主總會ニ出席スルコトヲ得

第九 乙側ハ公司ニ對シ左ノ便宜ヲ提供ス

一、甲側ノ希望ニ依リ技術員ノ養成ヲ實施スルコト

二、公司ノ技術指導ノ爲メ技監、技術員ノ配屬及飛行機其ノ他ノ器材ノ供給ヲナスコト

三、設立第一年度以降三ヶ年間ハ乙ハ公司ノ缺損ニ對シ毎年度日本金一百萬圓ヲ限度トシ年利四分ノ利率ヲ以テ借款ニ應スルコト

第十 冀察政權ハ公司ニ對シ其ノ政權範圍内ニ於テ左ノ特權ヲ附與ス

一、公司ノ航空範圍内ニ於テハ他ノ競争線ヲ承認セサルコト

但シ既存會社ノ現在ノ營業線ハ此ノ限りニアラサルコト

二、航空ノ爲メ必要ナル專用通信及無線標識等ノ設備及其ノ運用ヲ本公司ニ許可スルコト

三、公司ノ必需品ニ對スル輸出入ニ關シ便利ヲ與ヘ又公司ノ諸施設及營業ニ關スル總テノ納稅義務並諸公課ヲ免除スルコト

四、國內及國外ノ各航空線ト聯帶航空ノ契約ヲ締結シ又他ノ交通線ト聯帶輸送シ得ルコトヲ認ムルコト

五、航空郵便ニ關シテハ別ニ之ヲ規定ス

六、公司ノ所有スル物件及其ノ他一切ノ財産並従業員、乘客等ノ生命財産ニ對シ全責任ヲ以テ之ヲ保護スルコト

第十一 本文書交換後七日以内ニ双方ヨリ發起人ヲ舉ゲ公司章程ヲ作成シ發起人ノ持株並第一回拂込期日ヲ決定ス

公司成立セハ發起人ハ直チニ發起人會議ヲ開キ董事及監察人ヲ選出シ且董事長、副董事長ノ互選ヲ行ヒ公司成立後三週間以内ニ營業ヲ開始スルモノトス

第十二 本文書ハ調印ノ日ヨリ效力ヲ發生シ其ノ有効期間ハ滿十ヶ年トス滿期一年前ニ双方ノ同意ニ基キ期間ヲ延長スルコトヲ得

第十三 本文書ハ日支兩文各三通ヲ作成シ甲、乙双方及公司各一通ヲ保有ス

第十四 本文書ハ双方ノ同意ヲ得ルニアラサレハ之ヲ公表セス

昭和十一年十月十七日

在天津大日本帝國總領事 堀内 干城

冀察政務委員會委員長 宋 哲 元

附屬書

第一、本文書第九ノ三ニ依ル借款ノ償還期間ハ滿四ヶ年トス

但シ滿期一ヶ年前ニ公司ヨリノ希望アリタルトキハ乙側

ハ之ヲ改訂スルコトアルヘシ

第二、公司カ社債發行、借款又ハ借入金等ヲ實施セムトスル場合ニハ必ス乙側ノ同意ヲ要ス

第三、公司ハ双方ノ同意セル日本側銀行ニ預金スルモノトス

第四、乙側ヨリ公司ニ供給スル各種器材ノ價格ハ公平ニシテ一切ノ報酬及手数料ヲ含マサルモノトス

第五、公司ノ使用スル各種ノ器材中乙側ヨリ供給スルモノト同等若クハ同等以上ノ性能ヲ有スル中國製品アルトキハ優先的ニ中國製品ヲ採用スルコトヲ得

第六、公司ノ専用通信機關ハ公司ト直接關係ナキ一切ノ商事用通信ヲ傳遞スルコトヲ得ス

第七、甲側ハ公司ノ要求ニ應ジ専用ノ所要無線周波ヲ公司ニ配當スルモノトス

編 注 本協定に基づき創立された惠通航空公司は、昭和十一年十月二十三日に創立総会を終え、同十一月十七日より營業を開始した。

なお、本付記は東亜局第一課が昭和十一年十二月に作成

成した「昭和十一年度執務報告 第一冊(第一課關係)より抜粋。

(付記二)

滿洲航空會社増資及北支航空會社設立ニ關スル要綱

(十一、七、一四)

第一、方 針

滿洲航空會社設立ノ趣旨(昭和七年八月十二日閣議決定)カ帝國國防上ノ要求ニ吻合セシムルヲ第一トシ尙支那本部ニ對スル航空權ノ獲得ノ準備及歐亞連絡航空路ノ完成等帝國航空政策ノ遂行ニ資スルニ存シタルニ顧ミ此ノ際滿洲航空會社ノ資本金及之ニ關スル補助金ヲ増加シ以テ優秀飛行機ノ採用、定期航空路ノ擴優等同會社ノ内容ヲ充實シテ第二線航空威力ヲ增強スルト共ニ同會社ノ資金及技術ヲ利用シテ北支航空會社ヲ設立シ以テ我航空勢力對支進出ノ根基確立ヲ期ス

第二、滿洲航空會社増資要綱

一、滿洲航空會社ノ資本金國幣三百八十五萬圓ヲ國幣八百九十七萬圓ニ改ム其ノ増資額ノ出資區分ハ左ノ通りトス

滿洲國政府出資 國幣 二百二萬圓
日本民間出資 國幣 三百十萬圓

内 譯

住友合資會社 國幣 三十萬圓
三井合名會社 國幣 百四十萬圓
三菱工業株式會社 國幣 百四十萬圓

前項出資ハ現金トシ其ノ拂込區分ハ實情ニ應ジ之ヲ定ム
ニ今回増資ノ爲ノ日本民間出資三百十萬圓ノ新株ニ對シテハ舊株及滿洲國出資ノ新株ニ優先シ年五分以内ノ配當ヲ爲ス

三、優秀飛行機採用ノ爲ニ滿洲國政府ハ現在ノ補助金ニ左記増額ヲナス

康徳三年度 國幣 十五萬圓
同 四年度 國幣 三十萬圓
同 五年度以降毎年度 國幣 四十萬圓

四、北支航空會社ノ缺損補填資金ニ充當スル爲會社設立ノ第一年度ニ於テハ滿洲會社ヨリ現在ノ補助金以外百萬圓ヲ限度トスル補助金ヲ滿洲航空會社ニ交付ス
第二年度並第三年度ニ於ケル北支航空會社ノ缺損補填ノ

爲ノ措置ニ關シテハ會社事業ノ存續ヲ可能ナラシムル爲毎年度百萬圓ヲ限度トシテ滿洲航空會社ヲ通シテ補給スル様關係廳ニ於テ適當善處スルモ已ムヲ得サル場合ニ於テハ滿鐵ヨリ之ヲ支出セシムルモノトス
第四年度以降ニ於ケル北支航空會社ノ缺損補填ノ爲ノ措置ニ關シテハ更メテ攻究スルモノトス

五、優秀飛行機ノ採用ニ關シテハ左ノ通り豫定ス

- 1 機械ハ「ダグラス」中型旅客輸送機ヲ標準トス
- 2 約十機ヲ三ヶ年計畫ヲ以テ整備ス
- 3 右飛行機ノ一部ハ滿洲内定期航空ニ、一部ハ日滿高速連絡ニ使用ス

六、新ニ採用スル優秀飛行機ヲ以テ滿洲航空會社ハ運クモ昭和十二年六月迄ニ於テ日本航空輸送株式會社ト業務及經營上緊密ナル連絡ノ下ニ新京、東京間ノ定期高速連絡ヲ開始ス

東京新京間定期連絡ニ付テハ右ニ拘ハラス日本航空輸送株式會社ニ於テ能フ限り速ニ優秀機ヲ以テ毎日同區間ノ晝間高速連絡ノ實現ヲ期スルコトトシ其ノ實現ヲ見ル場合ニ於テハ滿洲航空會社ハ前項ノ日滿高速連絡ハ之ヲ中

止ス

第三、北支航空會社設立要綱

一、北支航空會社設立ノ目的ハ北支ニ對シ我航空勢力ノ進出ヲ圖リ之ヲ據點トシ機會ヲ求メテ全支ニ於ケル航空權ヲ實質的ニ把握セントスルニ在リ

二、北支政權ト交渉ノ上概ネ左ノ出資區分ニ依リ國幣換算四百五十萬圓ノ資本ヲ以テ北支航空株式會社ヲ設立ス

北支政權側當事者名義 國幣換算 二百二十五萬圓

滿洲航空會社ノ重役タ

ル日本人名義

同 二百二十五萬圓

北支政權側當事者名義ノ出資二百二十五萬圓ハ本要綱五ノ航空路線ノ爲必要トスル北支ノ飛行場並之ニ附隨スル格納庫、油庫、事務所、住宅、道路及通信施設等ノ土地建造物ヲ現物出資トシテ提供スルコトヲ豫定スルモ北支政權トノ交渉ノ結果飛行場等ノ提供減少スル場合ニハ現金出資ヲ以テ不足分ヲ補助スルカ、又ハ其ノ實際提供スル出資目的物ヲ適宜評價シテ分割出資ノ形式ニ依ルモノトス

滿洲航空會社ノ重役タル日本人名義ノ出資ノ内約九十五

副董事長 一人

董 事 四人

監 察 人 二人

副董事長、董事二人、監察人一人ニハ滿洲航空會社ノ重役又ハ其ノ他ノ日本人ヲ以テ充ツル様措置ス

三、本會社ニ對シ左ノ事實上ノ特權ヲ實質的ニ附與スル様適宜ノ措置ヲ講スルモノトス

1 本會社ノ航空範圍内ニ於テハ他ノ競争線ヲ承認セサルコト但シ既存會社ノ從來ノ營業線ハ此ノ限ニアラサルコト

2 航空ノ爲必要ナル専用通信及無線標識ノ設備運用ヲ本會社ニ對シ認ムルコト

3 滿洲航空會社ヨリ供給スル本會社ノ必需品ニ對スル輸入税並諸施設及營業ニ關スル總テノ納稅義務ヲ免除スルコト

4 北支政權側當事者名義ノ株式ヲ他ニ譲渡セサルコト
ハ、本會社ノ技監、技術員及飛行機其ノ他ノ器材ハ滿洲航空會社ヨリ供給ヲ受ケシム

六、本會社ノ缺損ハ差當リ設立第一年度以降三ヶ年間ハ滿洲

萬圓ハ現金出資、約百三十萬圓ハ現物（飛行器材）出資トシ其ノ拂込區分ハ適宜之ヲ定ムルモノトス

三、本會社ハ北支政權ノ認可ニ依リ設立スル支那法人トシ其ノ名稱ハ東方航空股份有限公司トナス

本會社ハ本店ヲ天津ニ、出張所ヲ各飛行場所在地ニ置ク

四、本會社ハ左記ノ事業ヲ營ムモノトス

1 旅客、貨物及郵便物ノ航空機ニ依リ輸送

2 航空機ノ賃貸事業

3 其ノ他航空機ヲ以テスル一切ノ事業

4 航空事業ニ對スル投資

5 前各號ニ附帶スル事業

五、本會社ノ航空路線ハ差當リ左ノ通り豫定ス

北平—天津—錦州

北平—張家口—包頭

北平—承德

北平—太原

天津—濟南—青島—大連—天津

六、本會社ノ重役ヲ左ノ如ク定ム

董事長 一人

航空會社ヨリ毎年度百萬圓ヲ限度トシテ之ヲ補填スルモノトス

前項ノ缺損補填金ハ滿洲航空會社ヨリ北支航空會社ニ對スル一種ノ借款トシテ之ヲ整理スルモノトス

本會社ノ設立第四年度以降ニ於ケル缺損補填ノ爲ノ措置ニ關シテハ更ニ攻究スルモノトス

一〇、本會社ノ設立、事實上ノ特權及營業ノ圓滿ナル遂行等ヲ確保スル爲天津總領事ト北支政權トノ間ニ於テ所要ノ文書ヲ作成ス

備考

一、本要綱ニ掲クル諸件ヲ實施スル爲ニハ昭和七年八月七日調印ノ「航空會社ノ設立ニ關スル協定」ヲ

改正スルノ手續ハ採ラサルモノトス

ニ、本要綱ハ内閣及關係各省間ノ祕密決定事項トナスモノトス

編 注 本要綱は陸軍省の立案を基礎とし、昭和十一年六月二

十二日以来、對滿事務局において外務、陸海軍、通信、大藏および對滿事務局の係官による数次討議を経て決

定された。

なお、本付記は東亜局第一課が昭和十一年十二月に作成した「昭和十一年度執務報告 第一冊(第一課關係)」より抜粋。

~~~~~

598 昭和12年6月16日 在中国日高臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)

東京・天津間における旅客および郵便物の航空輸送に関する外交部抗議公文について

別電 昭和十二年六月十六日発在中国日高臨時代理大使より広田外務大臣宛第四二二號  
右抗議公文

南京 6月16日後発  
本省 6月17日前着

第四二二號

天津發閣下宛電報第三三六號ニ關シ

外交部ヨリ十五日附覺書ヲ以テ天津、東京間旅客及郵便物ノ航空輸送ニ關シ大要別電第四二二號ノ通り抗議越セリ  
(右覺書ニ引用ノ本月四日附外交部照會ニ付テハ往電第三

九五號御參照)

本電別電ト共ニ上海、北平、天津、青島、濟南、張家口、滿ヘ轉電セリ

(別電)

南京 6月16日後発  
本省 6月16日夜着

第四二二號

「確實ナル報告ニ依レハ天津、東京間ニハ既ニ航空聯絡開始セラレ旅客ヲ搭載シ且郵便物ヲ輸送シツツアリ而モ右信書ニハ等シク日本郵便切手ヲ貼付シ日本協益會ニ於テ之ヲ取扱ヒツツアル趣ノ處此ノ種空中交通辦法ハ未タ中央政府ノ承認ヲ經サルモノニシテ有效ト認ムル能ハサル次第ハ既ニ本月四日附照會ヲ以テ聲明シ置キタル處今般遂ニ通航ヲ開始シ旅券及郵便物ヲ輸送シ中國主權ヲ侵犯シタルハ誠ニ不都合ニ付茲ニ特ニ抗議ヲ提出ス依テ速ニ切實ニ之ヲ制止セラレ以テ邦交ヲ重ンセラレ度ク尙何分ノ回答ヲ得度シ」

~~~~~

599 昭和12年6月17日 在天津堀内總領事より
広田外務大臣宛(電報)

天津・東京間航空輸送は大連經由即日運行が可能となつたが惠通航空公司は天津・大連間のみを運輸中である旨報告

天津 6月17日後発
本省 6月17日夜着

第三四九號

本官發支宛電報

第二九號

貴官發大臣宛電報第四二二號ニ關シ

郵便物ニ付テハ本官發大臣宛電報第三三六號ノ通りニシテ

又旅客輸送ノ點ニ付テハ從來大連ニテ一泊セサレハ大連、内地間ノ便ト聯絡セサリシモノカ高速機ノ使用ニ依ル「ダイヤ」ノ變更ノ結果大連ニテ乗繼キ即日聯絡スルコトナリタル迄ニテ惠通トシテハ天津、大連間ノミヲ往復シ居ルコト從來ト變ル所ナキ次第ナリ(内外ノ新聞記者ノ質問ニ對シテモ當方ハ敍上ノ趣旨ニテ應酬シ居レリ)本件外交部覺書ニ對シテハ握潰シ置カルコト然ルヘシ
但シ必要ノ場合ニハ前記ノ趣旨ヲ口頭ニテ適宜外交部係官ニ説明スル位ニ止メ置カルコト然ルヘシト存セラル(軍側ト打合濟)

大臣、上海、北平、青島、濟南、張家口、滿ニ轉電セリ

~~~~~